

ケル輸入制限其ノ他複雑ナル法令等ノ取締ヲ要セスシテ當業者間ノ自治ニ依リ輸出入統制ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ」

第七章 各種派生問題

派生問題概観

「バタヴィヤ」上陸以來我方ノ爲セル工作ノ一斑ハ前記ノ通りテ、此攪亂サレタ地歩立直シノ爲メカ否カハ知ラヌガ、蘭側ノ策動モ大ニ趣ヲ異ニシテ來タ。其梗概ヲ記セハ

(一) 海運問題ニ關シ蘭國政府ハ之ヲ會商ノ議題中ニ加ヘンコトヲ要求シ、帝國政府ハ反對意見ヲ持シ、何等解決ヲ見スシテ會商ハ開カル、ニ至ツタガ、「ランネフト」代表ハ一般委員會ヲ海運問題ヲ會商ノ議題トセンコトヲ要求シ、其後モ頗ル執拗ニ本問題ノ上程ヲ要求シ、我方ハ常ニ反對主張ヲ繰返シタ。先方ハ飽迄通商航海兩問題ノ關聯性ヲ強調シ、海運問題上程セラレサルニ於テハ會商ノ續行不可能ナリト斷言スルニ至ツタカ、我方ノ需メニ應シ協定事項ノ輪廓ヲ示シテ來タノデ、帝國政府ハ之ヲ研究ノ上、會商トハ引離シ、並行的ニ海運問題ヲ協議スルニ同意シ、九月八日最後案ヲ提出シ、同月十八日和蘭側之ヲ全部受諾シ、更ニ十一月二十九日ニ至リ民間會商ヲ神戸ニ於テ開催スルニ異存ナキ旨ヲ通告シ、玆ニ海運問題ニ關スル手續上ノ經緯ハ一段落ヲ告ケタ。

(二) 此間七月二十五日蘭印政廳ハ突然陶磁器輸入制限令ヲ發布シ、其理由トシテ本邦側ガ擅ニ陶磁器輸入

組合ヲ設ケテ蘭商ニ加入ヲ強要シ、蘭印市場ヲ壟斷セントスルノハ、公益上到底看過シ得ヌ所タト主張シタカ、真相ハ蘭商ノ陶磁器手持品當時著シク缺乏セル爲メ、例ノ歐洲人商業組合加入者タルト否トノ條件ニ依リ、差別割當ヲ設ケテ其利益ヲ計ラントスル畫策ニ他ナラス。帝國政府ハ會商開催ニ關スル協議進行中「サロン」及晒綿布ニ關スル輸入制限令ノ發布ヲ見、更ニ五十六種制限令案内示ノ如キ重壓ヲ加ヘラレシコトナレハ、前記ノ通り會商中新ナル制限措置ニ出ストノ保障ヲ取付ケシハ勿論、此條件ノ下ニ會商開催ヲ受諾セルコト言フ俟タスト雖、蘭側ハ其回避手段トシテ前掲ノ如キ口實ヲ求メタカラ、陶磁器輸入組合ノ成立ハ、假令其動機及目的カ極メテ真摯ナリトスルモ、右ノ如キ口實ノ下ニ誤解ノ對象トナツタ以上寧ロ一應之ヲ解散シ、新タナ基礎デ計畫ヲ樹テル方ガ事宜ニ適スト認メ、右組合ノ解散ト制限令ノ停止トヲ同時ニ斷行センコトヲ要求シ、又其間本邦デ陶磁器ノ積止ヲ決行シタ爲メ、蘭商ハ豫期ノ利益ヲ享クル能ハス旁々、八月三十日制限令停止命令ハ發布サル、ニ至ツタ。

(三) 更ニ八月六日蘭代表部カラ未晒綿布ノ過度輸入ニ關シ是正方ノ要求カアツタ。蓋シ右ハ晒綿布ノ極端ナ人爲的輸入制限ニ直面セル本邦當業者カ、其代用品トシテ専ラ未晒綿布ノ輸入ニ努力スルニ至ツタ爲メデアルガ、我方ハ蘭側ノ要求ヲ容レテ積止スルコトニシタ。然ルニ一般積止ハ決シテ蘭商ノ希望スル所デハナイ。彼等ノ欲スル所ハ専ラ自己ノ利益ニ於テ之ヲ輸入セントスルニ在ルノダカラ、和蘭代表部ノ此處置ヲ盛ニ攻撃シ、遂ニハ内訌ヲ生スルニ至ツタガ、本件ガ我方主張ノ大部分ヲ容レ解決ヲ見ルニ至ツタノハ、筆者「バタヴィヤ」出發ノ直前デアル。

(四) 「サロン」ニ就テハ二月制限令ノ發布直後、本邦當業者ハ積止ヲ斷行シタガ、八月十八日蘭代表部カラ其積止解除ヲ要求シ、之ヲ目シテ「ボイコット」ト云ヒ、我官廳カ之ニ干與シ居ルト述ヘ、日蘭會商ノ精神ト相容レヌモノト誇張シ、爾來盛ニ抗議ヲ繰返シテ居タガ、是亦我方主張ノ大部分ヲ容レ、十二月末其解決ヲ見タ。

(五) 前段一言セル如ク蘭國政府ハ會商中新タナ制限措置ニ出ストノ約諾ヲ與ヘタニ拘ラス、蘭代表部ハ八月二十八日附覺書中ニ於テ、十月一日以降行動ノ自由ヲ復活スヘキ旨ヲ述ヘ、其理由トシテ會商ハ長クモ三ヶ月位デ終了ノ見込ダツタ處、未ダニ其目鼻モ着カズ、斯カル長期間ニ亘リ行動ノ自由ヲ束縛サレルコトハ、到底堪エ得ヌ所ナルノミナラズ、輿論ノ要求モアリ又必要ニ迫マラレ居ル事情モアリ、己ムヲ得ス斯クノ如キ申出ヲシタ次第ダト説明シタガ、如何ナル事情アルニモセヨ右ハ赤裸々ニ協定ヲ蹂躪スルモノデアルカラ、我方ハ之ニ對シテ強硬ニ抗議シタ。蘭側ノ真意ハ別トシ、表面ノ口實トシテハ對日本關係以外ノ案件カ横ハツテ居ルト稱シ、頻リニ懇請止マサルニ付、我方ハ本邦ノ利害ヲ感スル諸件ニ關シテ何等發令スル場合ニハ、其前相當期間例ヘハ一週間以前ニ該法案ノ内容ヲ當方ニ内告シ、若シ當方ヨリ必要ト認ムル修正其他意見ヲ表示スル場合ニハ、之ニ對シテ充分ノ考慮ヲ加フルコトヲ約諾センコトヲ求メ、九月二十四日此紳士協約ノ成立ニヨリ本件ハ解決シタ。

(六) 其後幾何ナラス蘭印政廳ハ營業制限令實施ノ必要ニ迫マラレ居ル趣ニテ、紳士協約ノ趣旨ニ從ヒ之ヲ内示シテ來タ。筆者ハ此營業制限令案カ曾テ蘭印在留ノ本邦人ニ與ヘタ疑懼ヲ説明シ、之ヲ一掃スル爲メ

本法令ガ日本商店ヲ目標トシ居ラサルコト、並ニ既存營業ヲ侵害セス、小規模ノ企業及小商人ニハ當分制限ヲ爲サ、ルコトヲ明ニセンコトヲ要求シ、九月二十九日此趣旨ノ公文交換ヲ了シタガ、法令ハ國民參議會ノ議ヲ經テ十月二十三日其公布ヲ見タ。

(七) 超ヘテ十月九日鐵鍋輸入制限令發布ノ意嚮ヲ通知シテ來タ、此法案中ニハ從來ノ例ノ如ク歐洲人商業組合ニ加入シ居ルヤ否ヤニ依リ輸入商ノ取扱比率ニ差等ヲ設クル規定ガアル。之ガ撤廢ハ會商主題ノ一デアルカラ我方ハ此點ニ全力ヲ注ギ多少割當比率ニ不満足ヲ感スルモ、寧ロ之ヲ讓歩シテ前記條件ノ撤廢ニ成功シ、仍テ以テ先例タラシメント欲シ、交渉ノ末本邦人ニ關スル限リ此條件ハ適用セラレサルコト、本邦輸入商ニ留保セラル、取扱比率ハ總輸入數量ノ一割五分トスルコトニ纏マリ、爾來此歐洲人商業組合ヘノ加入如何ニ依リ輸入商ノ取扱比率ヲ差別スルノ制度ハ拋棄セラレ、十二月十一日「ランネフト」代表ハ筆者ニ對シ公式ニ之カ撤廢ヲ通告シタ。

以上ハ會商中起生シタ派生問題ノ全部ヲ網羅シ概説シタモノデアル、先方ハ之ニ依リ我方ニ壓迫ヲ加ヘ、其動搖セル地步ノ立テ直シラ期シタノカモ知レヌガ、結果ハ委員會ノ開催ヲ遷延サセ、其間先方ノ啓蒙ニ資セルコト多カリ、ハ、我方ニ取り寧ロ好都合デアツタ。左ニ前記七件ヲ繞ル交渉ノ顛末ヲ掲ケ、其經緯ヲ闡明セント欲ス。

一、海運問題

昭和九年六月二十七日 筆者發 廣田外相宛電信

本二十七日ノ一般委員會ニ於テ先方ハ海運問題ヲ持出シ來リ我方之ヲ一蹴セルモ、何時又之ヲ蒸返シ來ルヤモ知レサルニ付、本問題其後ノ成行大要御電報請フ、尙ホ最早政府ニ於テソロソロ右問題解決ノ爲メ容喙セラルル時期到來セルヤニモ存セラル思付迄。

七月十二日「ランネフト」代表トノ會談要領

「ラ」ヨリ船舶ニ關スル問題ヲ提起シ、和蘭代表部ハ和蘭政府ヨリ船舶事項ヲ本會商ノ議題トスヘシトノ訓令ヲ受ケ居リ、之ヲ議題トセサルヲ得サル次第ナリト述ヘタルニ付、本使ハ和蘭政府カ貴方ニ如何ナル訓令ヲ與ヘタリヤハ當方ノ關與スル限リニハ非ルモ、船舶問題ヲ議題トスル事ニ付テハ從來凡ユル機會ニ於テ明ニ不承諾ノ意思表示ヲナシ來レルニ付、斯カル狀態ノ下ニ若シ和蘭政府カ前述ノ如キ訓令ヲ貴方ニ與ヘシトスレハ、夫レハ貴方ニ不可能ヲ強フルニ過キス、本使ノ聞ク處ニテハ船舶問題ハ關係諸會社間ニ最早ヤ殆ント妥協成リ、J社ニ於テ會談ヲ再會スレハ妥協成立ノ見込充分アリト信スヘキ理由アリトノ情報ニ接シ居レリト述ヘタルニ、「ラ」ハ如何ニモJ社ハ三十一%ノ割當ヲ承諾シタルカ、契約期限等ニ付問題殘リ居レリト云ヘル故、本使ハ契約期限ノ如キ些細ノ問題ヲ日蘭各會社カ重大視スル價值モ非サルヘシト説述セルニ、「ラ」ハ和蘭ノ重視スル所ハ國旗問題ニテJ社カ満足ト認ムル割當モ政府ハ不満足トスルヤモ知レス、而シテ和蘭ハ和蘭船ニ割當ツヘキ商品ノ輸出量ニ付テ近ク法令ヲ發布スルヤモ知レスト述ヘタルヲ以テ、本使ハ若シ人爲のニ國家カ容喙シ經濟ノ大原則ヲ無視シ無限ニ自國船ヲ保護スル法則ヲ執

ラントスルニ於テハ、貴官ノ記憶セラルル「プロシヤ」ノ顰ニ倣フニ外ナラスシテ、世界大戦ノ禍源カ何處ニ在リシヤト云フコトモ充分諒解セラルルコトト信スト云ヒタル處、「ラ」ハ獨逸ハ百%ナルニ反シ和蘭ノ希望スル處ハ極メテ少率ナルニ付斯クノ如キ危惧ハ毛頭ナキヲ保證スルガ、實ハ和蘭船ハ片荷ニテ日本ヨリノ歸航ニハ殆ント空荷ノ有様ナリト愚痴ヲコボセルニ付、本使ハ日本船ノ爪哇ヨリノ歸航ニ付テモ同様ナルヘシト應酬シタルカ、「ラ」ハ尙ホ執拗ニ海運問題ヲ議題トスル必要アル所以ヲ述ヘ、其理由トシテ一九一二年ノ條約ハ單ニ通商ノミナラス航海ニ關シテモ規定シ居レリト云ヒタリ。仍テ本使ハ此航海ノ意味ハ今問題ニセラレ居ル航海條件トハ全然別事ナリ、日本海運業全體ヨリ見レハ蘭印トノ間ノ配船ハ極メテ一少部分ニ過キス、然ルニ此些細ナル航路ニ付未タ曾テ日本ノ承諾セス且ツ世界ニ其類例ヲ見サル國旗ヲ以テスル協定ヲ結フニ於テハ、日本ノ海運業ハ將來世界各地ニ於テ其累ヲ受クヘク、殊ニ米國ニ於テ然リトスルニ付、日本トシテハ到底和蘭側ノ要求ニ應シ能ハサルコトヲ重ネテ言明スルト共ニ、若シ貴方ニ於テ訓令ヲ遵奉シ得サル爲困難ノ立場ニ居ラルルナラハ、本使ノ拒絕ヲ其儘海牙ニ傳ヘラルルコト然ルヘシト述ヘタリ。

然ルニ七月十七日附書翰ヲ以テ「ラレネフト」代表ヨリ大要「過般ノ日本代表部覺書閱了ノ結果尙ホ數點ニ付双方意見ノ相違アルモ、若シ討議事項ニ關シ合意ニ到達スル事ヲ得ハ右ノ相違ハ本會商進捗ノ障礙トナラスト認メタリ。然レ共本會商進捗ノ唯一ノ障礙ハ和蘭代表部カ兩國經濟狀態ノ調整上重要部分ヲ構成セサルヘカラスト考フル海運問題ヲ、日本政府ニ於テハ本會商ノ範圍外ニ置クヘシトノ見解ヲ有セラルルコト是ナ

リ。故ニ兩代表部ノ熱望スル具體的討議ノ開始ヲ見ル様日本代表部ニ於テ成ルヘク速ニ海運問題解決ノ原則ヲ討議スル爲提起スル方法ヲ發見セラレンコトヲ希望ス」ト申越シタ。

同日朝鮮經濟省ノ「フアン・ホトフストラーテン」氏他用ニテ越田總領事ヲ訪問シタ時前掲書翰ニ言及シ、蘭外相ヨリ日本公使ヘ申入レタル海運問題討議ノ件ニ關シ日本代表部ヨリモ日本政府ニ對シ好意的意見ヲ申送ラルル様致度シト述ヘタルニ付、越田總領事ハ本問題ハ長岡代表カ屢次表明セシ如ク日本政府ハ之ヲ今回ノ會商ノ議題トセス事ニ決定シ居ル故、自分ノ私見ニ依ルモ右申入レハ全ク無益ナリト思考セラルルノミナラス海運問題ハ神戸ニ於テ民間當業者間ニ商議セラレツツアルモノナレハ、政府關與ノ必要ヲ認メスト云ヘルニ、「ホ」ハ神戸ニ於ケル私的商議ハ日本ヨリ蘭印向海運ニ止マリ、蘭國トシテハ右私的商議ノ有無ニ拘ラス一般的ニ討議シ度キ趣旨ナリト述ヘタカラ、越田ハ海運ノ一般の原則ハ日蘭通商條約ニ規定セラレ居リ右ニテ十分ナリト信スト云ヘルニ對シ、「ホ」ハ通商條約中ニハ詳細ノ點ニ關シ何等規定スル處無ク、而シテ若シ日本政府カ他ノ第三國トノ關係ヲ懸念セラルルニ於テハ、其懸念ヲ除去スルタメ日蘭代表部ニ於テ海運ニ關スル原則ヲ決定シ、之ヲ議定書トシ、其原則ノ實行ヲ各自其海運業者ニ命令スレハ可ナルヘク、今若シ本問題ヲ決定シ置カサルトキハ將來ニ於テ海運問題ニ關シ種々紛議ヲ生スルニ至ルヘシト云ヘルニ付、越田ハ斯カル國際間ノ議定書ヲ秘密トスル事ハ不可能ナルヘク、何レニスルモ自分ノ印象テハ日本政府カ本件ヲ受諾スルコト到底困難ナリト思考スルニ因リ、政府ノ最後の決定アル迄待ツノ外ナク、只貴官申出ノ趣旨ハ長岡代表ニ傳フヘシト答ヘタトノコトダ。

越田總領事ハ其日午後「フアン・ヘルテレン」教授ヲ其旅宿ニ訪ヒ、本日「ランネフト」代表ヨリ長岡全權宛海運問題ニ關シ來翰接到セリト言ヘルニ、同教授ハ右書翰ノ發送ニ付テハ承知セサルモノノ如ク、其内容ニ付尋ネタカラ、越田總領事ハ右書翰ハ海運問題ニ關シ原則討議ノ爲何等カノ方法ヲ日本側テ發見セラルル様希望スル旨申越シタモノナル事ヲ告ケタ、「ハ」ハ右ニ付テハ「ラ」代表ト話合ツタガ、手紙ノ發送ニ付テハ承知シナカツタト述べ、左ノ如キ會話ヲ交換シタトノ趣デアル。

越 本件ニ付テハ海牙ニ於ケル和蘭外相ト武富公使トノ間ニ十六日面談アリ、武富公使ハ海運問題ヲ會商ノ議題トスル事ニ付テハ到底日本政府ノ承諾セサルモノナルコトヲ繰返シタル後、貴國外相ノ折角ノ申出ハ一應日本政府ヘ取次クヘキ旨ヲ述ヘタル由ナルカ、右ニ關シ情報ヲ得ラレ居ルヤ。

ヘ之ヲ得居レリ。

越 本問題ハ長岡全權カ屢々言明セラレタル通り、日本ハ之ヲ會商ノ問題トスルヲ欲セサル所ニシテ、本官ノ個人的意見ニヨルモ到底日本政府力之ヲ受諾スルモノトハ思ハレス、抑々本問題ハ本官ト經濟省長官トノ幹旋ニヨリ神戸私的交渉カ開始セラレタルモノニテ、既ニ妥結モ近付キツツアル現狀ナレハ、此私的交渉ニ委シテ差支ナキモノト思考ス。

ヘ 和蘭政府ハ海運ノ全般ニ關シ話合ヲ希望シ居ルモノニテ、神戸ニ於ケル交渉ノ目的ハ、單ニ日本ヨリ蘭印ニ輸出スル貨物ノ「ブール」ニ關スルモノニ他ナラサルナリ。

越 海運ノ原則ニ付テハ通商條約ニ規定セラレ居ルモノナレハ之ニ依レハ充分ナルニアラスヤ。

ヘ 通商條約中ニハ細カキ問題ハ残り居ルニ付、此點ニ付テモ話合シ度キ意向ナリ。

越 然ラハ外ノ點トハ如何ナルモノナリヤ、本官ノ心得迄ニ承知シ度シ。

ヘ 前述ノ日本ヨリ蘭印向ケ貨物輸送ノ外、蘭印ヨリ日本行貨物並ニ日本船カ蘭印ノ數港ニ寄港シ日本ヨリノ直接貨物ヲ輸送スル場合等ナリ。

越 斯カル例ハ他ニモアリ、例ヘハ外國船カ日本ノ横濱ニ一部ノ貨物ヲ陸揚シ、他ノ荷物ヲ神戸ニ陸揚スル場合ト同様ナルニアラスヤ。

ヘ 蘭印ハ多數ノ島嶼ヨリ成リ、其相互間ノ連絡ハ宛モ大陸ノ鐵道輸送ノ如キモノニ相當スルモノナレハ其間多少ノ相違アリ。

越 日本ノ對蘭印ノ海運ハ單ニ小部分ニ過キス、此小部分ニ對スル特定ノ協定ヲ爲セル結果、他ノ大部分ノ海運カ拘束ヲ受クルコトハ當ニ忍ブ可カラサルノミナラス、對比島海運ハ對蘭印海運ト殆ント同様ノ地位ニアリ、其他斯カル例ハ少カラス、兎ニ角本日接受シタル書翰ニ對シテハ海牙ニ於ケル會談カ未解決ナル爲當代表部ヨリハ差當リ回答ハ發送セサル筈ニ付、此點ヲ貴國首席代表ヘ御傳ヲ得ンカ爲本日來リタルモノナリ。

尙ホ越田ハ本問題ハ別トシテ會商ノ具體的討議ニ入ルモ差支ナシト思考スル旨ヲ告ケタル處、

ヘ 輸出入關係ハ凡テノ場合ニ於テ海運ト關係アルモノナレハ、此ノ海運關係ヲ同時ニ討議スルヲ必要ト認ム、尤モ海關問題ヲ討議スルトイフコトカ決定シ居ルナラハ、海運問題ヲ後ニ議スルコトハ異議ナキ

所ナリト言ヘリ。

我々ハ四圍ノ情况ヲ按シ一般ノ空氣ヲ東京ニ通報スルノ必要ヲ認メタカラ、七月二十日木村顧問ヨリ左ノ電報ヲ來栖通商局長ニ發シタ。

根本意見對立ノ儘具體的問題討議ニヨリ接近妥協ヲ圖ルヘシトノ當方ノ提案以來、又々蘭側海運問題ヲ持出シ停頓ノ姿ナルハ、蘭人ノ心理狀態ヲ如實ニ物語ルモノナリ、新聞、參議會ノ議事等ニテハ厄氣トナリ惡口ヲタタキ居ルモ、蘭側ハ其弱點ヲ突カレ最初會商ノ前途ニ付困惑シ居リタルハ事實ニテ、當方ノ提案ニ依リ光明ヲ認メタリト思考セラル、現ニ政府筋ト密接ナル「爪哇ボード」最近ノ論說ハ例ノ通り「ステートメント」及總督會見四ヶ條ノ原則ニ對シテ長岡代表ニ毒舌ヲ弄シ、砂糖問題產業轉換期到來ノ問題ニ付木村ニ皮肉ヲ注キ乍ラモ、日本代表部ハ漸ク蘭側ヲ了解シ會商進行ニ向ヒツツアリト述ヘ居ルニヨリテモ明カナリ、然シナカ／＼油斷モナリ難ク、機會アル毎ニ勝手ナ註文條件ヲ持出ス故強ク之ヲ押ヘルコトト先手ヲ打ツ事トハ依然必要ナリト考ヘラル。

一、船舶問題

往航ニ付「ブール」ト好割當ヲ得タル矢先キ、復航ニ付テモ砂糖ノ増輸出ト同時ニ其輸送利益ヲモ併セ得ムトノ下心ナルハ明白ナリ、從來ハJ社カ低運賃ニテ事實上砂糖ノ大部分ヲ輸送シ居リ、邦船モ有利貨物ナラサル爲メ競争シ居ラサリシカ、此際會商ニ依リテ有利割當又ハ獨占ヲ得置キ徐ロニ運賃ヲモ高メントノ野心ナリ、又沿岸貿易ニツキテモ邦船ニ制限ヲ加ヘK P Mノ獨占ニ近カラシメントスル下心ナリ、而

シテ蘭側ハ例ノ制限令中ニ留保セル商品別輸入港指定ト云フ世界ニ例ナキ無暴ナル威壓ヲ以テ對抗セントスル計畫ナリト考ヘラル、越田ニ對シテ蘭側ハセメテ船舶問題モ會商議題トナス事丈ケ今決定シ置キ度シト申出テ拒斥セラレタル程ナリ、本問題ニ就テハ本省ニ於テモ蘭側ノ底意ヲ良ク御了解ノ上ニテ慎重詮議セラレ度シ。

二、輸入制限ノ結果

最近土人側「サロン」業者ノ不平ハ益々増大シ公然參議會ニ新聞ニ政府ノ措置ヲ攻撃シ居ル程ニテ、晒ノ價格騰貴ニ己ムナク未晒廉價生地使用ノ傾向トナリ、土人ハ日用品價騰貴ト反對ニ農產品ノ下落ノ爲、「サロン」ノ價上ケハ絶對ニ行ハス、蘭品生地使用ハ減少一方ナリ、從テ蘭商自身モ痛手ヲ受ケ、政府モ制限令ヲ教唆セシ蘭商ノ見込達ニ憤慨セル模様見エ、近來商人側ヲ遠ケツツアル傾向ナリ、土人ノ日本品歡迎ト、内實日本品ニヨルノ外利益ヲ上ケ得サルコトノ蘭商ノ自覺トハ、近來著シク顯ハレタリト推測セラル「ステートメント」及我方ノ主張ハ此弱點ヲ突キタルモノト思ハル。

三、此度ノ旅行ニヨリ蘭人ハ四、五ノ巨商ト船會社ト砂糖業者ヲ除キテハ、商工業有力者モ亦實際ノ營業者モナク、蘭人保護ハ前記巨商大會社保護ノ外ニハ何物モナク、制限令ノ目標モ會商ノ目的モ之ニ外ナラスト云フ決論ニ達シタリ、又產業轉換ハ必然ノ趨勢ナリ、現ニ本年ハ甘蔗植付全廢ヲ協議中ナリトノ新聞報アル位ニテ、木村カ蘭紙トノ會見ニ於テ砂糖買入ノ困難ト產業轉換ノ必要ヲ強調セル事、並ニ旅行感想ノ發表カ蘭側ニ意外ノ衝動ヲ與ヘタル事モ、亦其弱點ニ觸レタル爲ナルヘシ。

以上ノ情勢一應内報シ置クコト今後我代表ノ折衝振リ御諒解ニ便ナリト思考シ貴官御含丈ニ申進ス。

越ヘテ八月六日越田代表陶磁器問題テ「ランネフト」代表ヲ訪問ノ際海運問題ニ關シ貴代表部ハ海牙ヨリ何等カノ情報ニ接シ居ラルルヤト問ヒタルニ、之ヲ得居ラス蘭代表部トシテハ七月十七日附書翰ニ對スル日本側ノ回答ヲ待チ居ル次第ナリト云ヘルニ付、海運問題ハ東京、海牙兩政府間ノ話合中ニテ急ニ回答出來サルヘシト思惟シタレハコソ、同書翰受領ノ日本官「フアン・ヘルデレン」氏ヲ往訪シ其旨ヲ告ケ置キタル次第ニシテ、最近我代表部ノ入手セル情報ニ依レハ海牙政府ヨリ海運根本原則ニ關シ東京政府ハ提案スルコトトナリ居リ、東京政府ハ右提案ヲ接手シ考慮ヲ加ヘタル上、若シ必要ナリト認メタル場合ニハ「バタヴキヤ」會商ニ廻附スルヤモ知レサル由、從テ本問題ヲ「バタヴキヤ」會商ニ移スヤ否ヤノ問題ノ決定セラルル迄ニハ相當時日ヲ要スヘク、夫レ迄會議ヲ停頓セシメ置クハ面白カラサル儀ト存スルトコロ、貴下ハ海運問題ヲ「バタヴキヤ」會商ニ於テ討議スルヤ否ヤノ問題カ決定セサル限リ會議ヲ行ハサル御考ヘナリヤト尋ネタルニ對シ、實ハ會商ノ一般の進捗ノ爲長岡代表ト懇談シ度キ意志アルニ付、同代表ニ於テ其意アラハ何時ニテモ書記長ヘ時間ニ就キ御打合ヲ得度、自分ハ屢々表明シタル如ク會商進捗ノ爲ニハ長岡代表ト屢々懇談ヲ行フコト必要ナリト思考シ居レリト附言セリトノコトダ。

仍テ筆者ハ同日午後「ランネフト」代表ト會議場テ會見シ（主題陶磁器問題）左ノ如キ意見交換ヲシタ。

「ラ」ヨリ海運問題ヲモ本會商ノ議題トスルコト確定セサル限リ委員會ノ開催ハ不可能デアル、又假令海運問題ヲモ會商ノ議題トスルコト、ナリ委員會ヲ開ク場合ニモ、最初ニ陶磁器問題ヲ討議スルコトハ不同

意ナリ、今回ノ新令ハ五十六種制限令案トハ全ク異リ、現状ヲ維持スル丈ノ建前ニテ短期間之ヲ實施セルモノナレハ、委員會ニ於テ討議セラルヘキ性質ノモノトハ別問題ナリト云ヘルニ付、本使ハ海運問題ニ付テハ御承知ノ通り海牙、東京間ニ交渉重ネラレツ、アルカ、七月三十一日「バプスト」公使カ廣田大臣ニ述ヘシ所ニヨレハ海運問題ニ付和蘭ノ言ヒ分ヲ取り容レラル、ニ於テハ、陶磁器問題ニ付「レベア」スルト迄言明セル趣ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ大イニ激昂セル態度ニテ、我々ノ考ハ極メテ卒直ニシテ此ノ如キ懸引ヲナスノ意志毫モ無之シト遮リタルニ付、本使ハ今余ノ述ヘタル所ハ「バプスト」公使ノ云ヒタルコトヲ取次ケル迄ニテ日本側ノ言ヒ分ニハ非スト誤解ナキ様注意シタルニ、「ラ」ハ自分ノ所ニハ此ノ如キ情報ハ何レヨリモ入手シ居ラス、實ハ日本新聞ニ同様ノ記事アリタルヲ見テ大イニ憤慨シ居リシ次第ナリト云ヘルニ付、本使ハ該記事ハ全ク捏造ナリ、何トナレハ「バ」公使ノ所言ハ七月三十一日ニシテ新聞ノ記事ハ其ノ以前ナレハナリト云ヒタル後、貴方ニテモ和蘭政府ニ先方ノ目標トスル海運問題ノ大綱ヲ通告方申入レアリタルニ鑑ミ、本使ハ日本トシテハ一體蘭印側ニ於テハ何ヲ希望セラレ居ルヤ全ク暗中摸索ノ狀態ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ其要綱ハ夙ニ作成シアリ、蘭印ノ欲スル所ハ日、蘭印間往復航ニ關シ互ニ其比率ヲ定メントスルニ在リト答ヘタルニ付、本使ハ其比率決定ヲ國旗ニ依ラシメントスルナラハ到底日本ノ同意ハ得難カルヘキガ、例ヘハ國旗ノ代リニ會社名ヲ列舉スル方法ナラハ或ハ何等折合ヒツクカトモ思ハル、何レニセヨ貴方ノ考ヘラレ居ル大綱ヲ當方ニ提示セラレテハ如何、余ハ之ヲ日本政府ニ取次クヘシ但シ其採否即チ議題トスルコトノ諾決定ノ自由ハ日本政府ニ在ルモノトノ前提ナラハ余ハ其ノ開示ヲ受

タルモ差支ナシト述ヘタル處、「ラ」ハ極メテ満足ノ模様ニテ是コソ會商ノ進捗ニ一步ヲ進ムル話ナリト頻リニ喜ヒ居レル故、本使ハ爲念繰返スカ開示ヲ受ケタリトテ會商ノ議題トスルヤ否ヤハ日本政府ノ決定ニ依ルヘキコトヲ誤解ナキ様致度シト述ヘ、「ラ」モヨク了解セリ。

結論トシテ本使ヨリ海運問題ノ上程決定以前ニハ如何ナル委員會モ之ヲ開カサル決意ナリヤトノ問ニ對シ、「ラ」ハ然リ、海運問題ヲ上程セラレサル時ハ、會商ハ打切ラルヘシト答ヘタリ。

八月八日「ランネフト」代表ハ海運問題ニ關シ左ノ如キ根本原則ヲ送附シタ。

一、會商ノ成果トシテノ通商追加條約又ハ協定ハ、海運問題ニ關シ満足ナル解決ニ達セサル限り、成立スルヲ得サルヘシ。

二、此種解決ニハ左記ニ依リ到達スルヲ得ヘシ。

(イ) 兩國政府ハ兩國ノ海運ヲ支配スヘキ諸原則ニ關スル條規(其手續ハ追テ協議セラルヘキモ、會商ノ範圍タルヘキモノトス)ヲ決定スルコト。

(ロ) 右諸原則ハ關係船會社間ニ追テ取極メラルヘキコト。

(ハ) 兩國政府ハ例ヘハ條約附屬ノ議定書ニ於テ、此取極ハ當事者間ニ完全ニ實行セラルヘキコト、及他ノ船會社ノ干涉ニ依リ無効トナリ又ハ效力ヲ弱メラル可ラサルコトヲ保障スルコト。

三、諸原則中ニハ如何ナル場合ニモ左記ヲ包含スヘキモノトス。

(一) 日本蘭印間及蘭印日本間ノ公正ナル輸送比率ガ、日本及蘭印ニ依リ保障セラル、ヲ要ス、之カ爲メ

左記必要ナリ。

(イ) 日本ト蘭印トノ間ノ貿易ニ從事スル日本船會社ノ數又ハ接續線(其終點ガ何レニアルヲ問ハス)ガ増加スルコトアルモ、之カ爲メニ遞減セラル、コトナキ合理的輸送比率ヲ、和蘭國旗ヲ掲揚スル船舶ノ爲メニ割當ツルコト。

(ロ) 日蘭關係船會社間ニ合理的運賃ニ關スル「ブル」協定ヲ締結スルコト。

(二) 日本及蘭印外領諸港間ノ貿易(直航タル「マカツサ」及「ジャヴァ」經由又ハ單ニ「マカツサ」或ハ「ジャヴァ」經由タルトヲ問ハズ)ハ和蘭海運ノ利益ヲ現實ニ保護スル様規定セラル、ヲ要ス。

(三) 日本ヨリ來リ更ニ蘭印ノ他ノ島嶼ニ仕向ケラル、貨物、又ハ日本ニ輸送スル爲メ蘭印諸島ニテ船積サレシ貨物ノ、蘭印諸港積換ハ、和蘭關係船會社ノ利益保全ノ基礎ニ於テ規定セラル、ヲ要ス。

(四) 兩國政府ハ一方日本船會社ガ蘭印諸港ニ影響スル和蘭海運ノ利益ヲ尊重スヘク、他方和蘭船會社ハ日本諸港ガ影響ヲ受クル限り日本海運ノ利益ヲ尊重スルコトニ協定スルニ同意ス。

(五) 以上諸原則ヲ起草スル爲メノ商議ハ、未タ列記セラレザル海運關係事項ヲモ審議スルヲ必要トスルコトアルヘシ。

翌九日「ランネフト」代表カラ會見ヲ求メテ來タノデ會議場デ面會シタ、會談要領左ノ通り。

「ラ」ヨリ綿布關係ノ書翰ニ對スル返翰ヲ受取リタリトテ厚ク禮ヲ述ヘタル後、昨夕J社ヨリ得タル情報ニヨレハ日本側ヨリ往航協定比率ニ關シ、今後日本側ハ蘭側ノ他ノ船會社加入スル場合ニハ、何レモ其

割當率中ヨリ新社ニ配分スヘシト申込ミ來レル由ニテ、自分トシテハ此考案ハ我カ意ヲ得タルモノト考フ又三十一「バーセント」ノ和蘭側ニ對スル比率ニ付テモ政府ハ知ラス自分トシテハ毛頭異議ナシ。然シ往航ノミナラス他ノ問題ニ付テモ協定シ度キ考ナレハ、往航ノミヲ獨立シテ取極ヲ成立セシムル事ニハ賛成出來サルガ、他ノ問題ニ付テモ此ノ如ク現實ニ即スル解決方法ヲ發見セント欲スルモノニテ、決シテ無理ヲ云ヒ法外ノ割當ヲ要求スル意思ハ毫無之ニ付誤解ナカラシムコトヲ望ムト述ヘ、更ニ語ヲ接ギ昨日ノ覺書ハ自分ノ方ニテ假リニ作成セルモノニテ、早速之ヲ本國政府ニモ送付シ置ケルガ、本國政府力之ニ如何ナル追加修正ヲ爲スヤハ不明ニテ、從テ蘭本國ヨリ日本政府ニ申入ル、案ガ之ト必スシモ一致セサルコトアリ得ヘク、要スルニ右覺書ハ假リノモノトシテ取扱ハル、様致度シト述ヘタリ。

本使ハ之ヲ諒承シタル後覺書ハ早速之ヲ日本政府ニ轉達セルカ、自分カ讀ミテモ善ク解ラサル位漠然タルモノナレハ、日本政府ニ於テモ定メシ困リ居ルコトカト存スルニ付テハ、少シク其説明ヲ得度シト前置シテ、例ヘハ三ノ(二)ハ何ヲ意味スルヤト問ヘルニ之ハ外領行船舶ニ對スル比率ノ問題ヲ見タルニ過キス現ニ南洋郵船及J社間ニハ協定成立シ居レリト云ヒ、言外ニ其比率ヲ他社新航ノ場合ニモ維持セントスル意向ヲ洩ラセリ。

三ノ(三)ニ付何ノ意ナリヤト聞キタルニ「ラ」ハ之ハ專門委員カ挿入シタルモノニテ自分ニモ何ノ意味ナリヤ解ラス、必要ナラハ專門委員ニ越田代表等ヨリ聞合サレ度シト云ヘル故、本使ハ今ハ細目ニ入ルヘキ時機ニ非ス、要ハ主義上ノ問題ヲ如何ニ取扱フヘキヤニ在ル處、三ノ(四)ノ目的トスル所ハ何々ナリ

ヤト問ヘルニ、右ハ折角日蘭印間ニ「ブール」ヲ設ケテモ、日本船カ例ヘハ上海、爪哇間又ハ「マニラ」爪哇間ト云フカ如キ航路ヲ新設シ、「ブール」外ニ立チテ競争スルト云フカ如キ事態ヲ防カンカ爲ナリト答フ。

其後モ和蘭側ハ執拗ニ海運問題ノ上程ヲ要求シ、最早當方ノ腹案ヲ用意スル時機ニ達シタト考ヘタカラ、八月二十日筆者ハ左ノ電報ヲ廣田外相ニ送ツタ。

陶磁器制限令問題解決ノ上ハ、蘭側ヨリ會商促進方ニ付内交渉アルヘクト思ハルノミナラス、我方ニ於テモ進ンテ委員會ノ開催ヲ提議シ、會商ノ急速進捗ヲ謀ルコト得策ナリト信ス。明日ニテモ「ラ」ヨリ陶磁器問題解決ニ付會見ヲ申込ミ來ルニ於テハ、直ニ右方針ニテ委員會開催ヲ協議致度、委員會開催ノ爲ニハ之ニ對スル討議方針、指定事項ノ如キモ「ラ」ト本使間ニ速ニ大體ヲ解決致置クニ非レハ、從來ノ經驗ニ徴シテモ、種々故障起リ、會商促進ノ目的ヲ達セサルニ付、相當各議題ニ付突込ミタル内談ヲ遂ケ度、唯蘭側カ會商開催ノ主要條件トシテ固執セル海運問題ニ付、更ニ話ヲ持チ出スハ必然ナル處、其際大體貴電ノ趣旨即チ「バタヴキヤ」ニ於ケル當業者ノ會商開催、兩國政府代表ノ立合、右妥結協定ニ對スル兩政府ノ確認ノ三點ヲ「ラ」ニ開談スル心組ナルカ、右ニ御異存ナキヤ折返シ御回電ヲ乞フ。

然ルニ右ト行違ヒニ東京カラ左ノ電報ガ來タ。

會商ノ進展ニ伴ヒ先方ハ早晚會商難關ノ一タル貿易均衡問題ヲ持出シ來ルニ非サヤト思考セラルル處、當方カ繰返シ會商ニ於ケル討議ヲ拒否シ來レル海運問題ニ付折合ヒ、其結果同問題モ何トカ妥協ヲ見タル曉

ニ於テハ、當方ハ最早ヤ餘リ有力ナル「バーゲイニング」ノ種ヲ有セサルコトナルベク、從テ此邊適當ノ處ニテ將來先方カ蘭印物資輸出等ニ付餘リ無理ヲ申出テサル様、豫メ可然釘ヲ指シ置クヲ得策トスルヤニ觀測セラルル處、現地形勢ヨリ觀テ右ニ關スル何分ノ御意見至急御回示アリ度。

右ハ餘リニ現地ノ情勢ト融合セヌカラ、筆者ハ左ノ電報ヲ打ツタ。

貴電落掌、貿易均衡問題トシテ蘭印物資買付要求ヲ早晚先方ヨリ持出スハ御推察ノ通ナルカ、今日迄我方ハ累次電報ノ通り同情的ニ考慮スヘシトノ言明以外ニ成ルベク之ヲ避ケ、側面ヨリ砂糖買付ノ要求ノ如キハ無理ナル注文ナリトノ態度ヲ示シ來リ居ルモ、何レハ委員會ニ於テ本問題ニ就テ輸入制限問題分科會ト並行シテ別ニ分科會ヲ設置シ討議セラルヘキヲ以テ、其上ニテ御來示ノ如キ釘ヲ指シ置キ、最後ノ切札トシテ砂糖買付ヲ適當ノ時機ニ匂ハセル方得策ナルヤニ思考セラル。船舶問題ノ如キモ會商議題トセサルコトトナレハ蘭側代表部ハ大ニ不満ヲ表スヘク、之ヲ「バーゲイニング」ノ種トシテ砂糖買付其他ノ貿易均衡問題ヲ抑制セムトスル事今日ノ情勢ニテハ不可能ナルノミナラス、却テ之ヲ爲ニ先方ヲ刺戟シ問題紛糾ノ虞アリト思考ス。

筆者ハ八月二十四日「ランネフト」代表ト會見ス、此際海運問題ニ關シテ交換セル談話要領左ノ通り。

「ラ」ハ海運問題ニ關シ海牙ヨリ明日來ルヘキ電報中ニ明示アルコト、思フカ、政府間ニ此問題ヲ解決シ條約ト迄ハ行カズトモ議定書ニテモ取結ヒ度キモノナリト云ヘル故、本使ハ海運問題ヲ政府間ノ取極トスルコトニ我カ遞信省ニ大反對アルコトハ過日モ申述ヘシ通ニテ、日蘭間ニ之ヲ結ヒテモ大ナル支障ナシト

假定シ得ル場合、之カ先例トナリ第三國ヨリ同様ノ提議ヲ受ケタル時日本ハ之ヲ拒絕スル口實ヲ失フヘク其影響スル程度如何ナルヤヲ豫測シ難ク、日本トシテ到底政府間協定ノ提議ニハ應シ難シトノ意見ナリト説明セルニ、「ラ」ハ貴方ノ見地ハ見地トシテ蘭印ハ政府間ノ協議トシ度ク、尤モ往航ニ關スル神戸會商ノ決定ニハ毛頭異存ナキ故、之ハ其儘取入レテ差支ナシト云ヘルニ付、本使ハ果シテ然ラハ解決ノ光明ヲ得タル如ク思ハル。神戸會商ヲ其儘取入レ得ルナラハ他ノ問題ニ付當業者間ニ妥結成立セハ之亦取入レ得ルニ非サヤト試問セルニ、「ラ」ハ民間會商ニ委セハ非常ニ長日月ヲ要スヘシト云ヘルニ付、本使ハ夫ハ政府カ期間ヲ豫定シテ「ブツシュ」スル方法モアルヘク、又當業者間ノ協議カ難關ニ達著セル場合政府カ彼等ニ「コンセイユ」ヲ與フルコトモ出來得ヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ蘭印ノ要求スル所ハ政府間ノ約束ナリト云ヘルニ付、本使ハ右ノ如クシテ當業者間ニ成立セル協定ヲ兩國政府カ互ニ「コンファム」シ其履行ヲ監視スルニ於テハ結果ハ同一ナラスヤ、双方ノ立場ハ全ク異リ居ルニ付實際的ニ同一ノ效果ヲ齎ラスヘキ一案ヲ發見セシテハ此問題ハ解決シ得サルヘシ。尤モ沿岸貿易ノ問題ハ船會社關係ニ非サルニ付ト云ヘルニ、「ラ」ハ沿岸貿易ハ一國主權ノ行動範圍故之ハ蘭印ニテ處理スヘク會商ノ目的物ニ非スト云ヘルニ付、本使ハ然ラハ問題ハ餘程簡單化スル儀ニテ、以上述ヘシコトヲ篇ト考究セラレ度シト述ヘ置ケリ、「ラ」ハ餘リ氣ノ進マサル如キ表情ヲナシ居タリ。

八月二十八日朝筆者ハ先方ノ求メニ依リ會議場デ「ランネフト」代表ト會見シタ、此席ニハ蘭側デ「ハルト」氏ヲ參加サセタイト望ンダカラ、當方ヨリモ越田代表ガ列席シタ。「ラ」代表ハ筆者ニ覺書ヲ渡シタガ、其

中ノ海運關係ノ要領ハ、和蘭ハ海運問題ヲ除外シタ通商條約ハ之ヲ結ビ得ヌコト、及會商ノ進捗ヲ計ル爲メ今日ヨリ十日以内ニ海運問題ノ具體的話合ニ入りタイト云フニアル、當日ノ會談要領左ノ通り。

海運問題ニ關シ「ラ」ハ過日呈示セル會議項目ハ當時之ヲ暫定的ノモノニテ本國政府ヨリ如何ナル變更追加ヲナスヤハ知ラスト云ヘルカ、本日該案ヲ正式ノ案トシテ會商ノ議題トシ差支ナキ訓令ヲ受ケタル旨ヲ通告スルト同時ニ、廣田外相ハ「バ」公使ニ對シ該案ノ諸項目ヲ討議スルコトニ付主義上異存ナシト云ハレタリト云ヘルニ付、本使ハ當方ニハ此ノ如キ情報ハ一モ入手シ居ラス、又廣田外相カ斯克ノ如キコトヲ和蘭公使ニ云ヘリトハ考ヘラレサルガ、既ニ御承知ノ通り日本ハ海運問題ヲ會商ノ議題トスル意思ナク、從テ遞信省ノ専門家モ來リ居ラサル次第ナルカ、双方ノ主張ニ大ナル懸隔アルニ付何トカ融合ノ途ヲ講セサルヘカラス、就テハ前回御話セル如ク當業者ノ會議ヲ開キテ貴方ノ必要ト認ムル條件ヲ協議セシメ、之ヲ御互ニ指導スルコト、シ、妥協成立ノ上ハ兩代表部ニ於テ之ヲ確認スルコト、スレハ、行キ道コソ違ヘ結果ニ於テハ同一ナラスヤト云ヘルニ、「ラ」ハ蘭國ノ要求スル所ハ代表部員間ニ協議ヲナシ之ヲ船會社ニ承認セシムルニ在リ、先ツ代表部員間ニ協議セシムル案ニ非サレハ承認出來スト云ヘルニ付、本使ハ重ネテ斯克ノ如キハ形式論ニ過キスト指摘セル處、「ハルト」ハ然ラス蘭印ニハ船會社ニアリ政府カ公益ノ見地ヨリ之ニ指導方針ヲ授クル要アリト云ヒ双方同様ノコトヲ繰返スノミナリシニ付、本使ハ夫ノ議題トシテノ別記ハ抽象的ニシテ捕捉シ難キガ、一體現狀ニ關シ何カ不足アル次第ナリヤト問ヘル處、決シテ左様ノコトナシト答ヘタルニ付、本使然ラハ船會社ヲシテ現狀維持ヲ約セシメ政府之ヲ確認スルコト、セハ

問題簡單ナラスヤト云ヘルニ、先方ハ右ニテ差支ナキガ、其取極ハ先ツ代表部員ノ間ニ之ヲ行ヒ度シト執拗ニ主張シ、更ニ論議ヲ重ネタル末、「ハルト」「ラ」ニ耳打セル結果、曾テ「ラ」ヨリ申述ヘシコトアリト思フカ先ツ會商ニ於テ委員間ニ協議ヲ纏メ、其協議ノ結果ニ對シテ船會社ノ同意ヲ得タル上、之ヲ船會社間ノ協定トシテ成立セシメ、其協定ヲ當代表カ確認スルト云フ形式ニシテハ如何ト云ヘルニ付、本使ハ先程ヨリ貴方ハ海運問題上議セラレサルニ於テハ會商ノ本商議ニ入ル能ハスト云ハレ居ルカ、例ヘハ今ノ場合代表部員間ニ協議纏マレル案ヲJ社又ハK・P・Mカ拒絕セリトセハ夫ニヨリテ會商決裂ト考ヘ然ルヘキヤト慟慟セルニ「ラ」ハ代表部員間ニ纏マレルモノハ決シテ兩社ニ異存ヲ云ハセヌコトハ今ヨリ保證シ差支ナシト云ヒ、和蘭側モ此所迄歩ミ寄リタルニ付何トカ考慮シ貫ヒ度シト云ヘリ。本使ハ日本政府ノ立場ヲ繰返シタル後、左程迄代表部員ノ介在ヲ海運會商ニ必要ナリト貴方カ認メラル、ニ於テハ、例ヘハ双方ヨリ「オブザーヴァー」ヲ出スコト、シテハ如何、但シ之ハ何トカ妥協ノ光明ヲ發見センガ爲ノ本使ノ思ヒ付ナレハ、日本政府ニ於テ承認スルヤ否ヤハ別問題ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ蘭印側ノ要求スル所ハ代表部員カ指導的地位ニ立チテ會議ヲナスヘキコトニシテ、此會議ニ當業者ノ參加ハ無論異議ナキモ、會議ハ代表部員間ニナサル、コトヲ要スト云ヘルニ付、本使ハ左程迄貴方カ正式委員ノ參列ヲ必要トセラル、ナラハ當方ハ之ヲ拒絕セサルヘシ、即チ貴方ハ正式委員ヲ任命シ、當方ハ「オブザーヴァー」ヲ出スコト、シテハ如何、要ハ名義ノ問題ニ非ス人間ノ問題ナレハ、「オブザーヴァー」タリト雖其人如何ニヨリテ指導振ハ異ル譯ナシト云ヘルガ、先方ハ双方共正式委員トシテ其間ニ協議ヲ纏ムルニ非サレハ承知出來ズ

ト云ヒ、此上之ヲ反覆スルモ結果ナカルヘキニ付、貴方ニ於テモ日本カ蘭印側ニ満足ヲ與フル意味ニ於テ如何ニ協調的精神ヲ以テ只今ノ提案ヲナセルヤト云フコトヲヨク翫味セラレン事ヲ希望ス、就テハ一應蘭國政府ニ意向問合セアリ度シト云ヘルニ、「ラ」ハ今迄自分ノ述ヘシ所ハ嚴重ナル訓令ナレハ之ヲ如何トモシ難シト云ヘルニ付、本使ハ如何ナル訓令ニテモ其發令權者カ之ヲ變更シ得スト云フ理ナシ、若シ今ノ應答カ貴官ニハ變更ノ意思ナシト云フ趣旨ナラハ全ク別問題ナルガト云ヒ話ヲ打切レリ。

翌八月二十九日更ニ意見交換ヲ爲ス、其會談要領左ノ如シ。

海運問題ニ就テハ東京ヨリノ返電ヲ待ツ外途ナキ處、「ラ」ハ其一日モ速ニ回答アラント期待スル旨申述ヘシ故、本使ハ本問題ハ外務省並ニ遞信省ノミナラス當業者代表ヲモ集メテ篤ト協議スル必要アルヘケレハ決シテ急速ノ回答ハ得ラレマシク、先頃「ホーフストラーテン」氏他用ニテ越田代表ヲ訪問ノ際海運問題ヲ上議スルト云フ主義上ノ承諾ヲ得ウルナラハ本件討議ノ時期ハ後廻シトシテモ差支ナシト申出ラレシコトアルヲ記憶ス。當時日本ハ之ヲ議題トスルコトニ絶對反對ヲ唱ヘ居タルニ付「ホーフストラーテン」ノ希望ニ副フコト不可能ナリシカ、其後事態ハ變化シ、双方ノ満足シ得ル「フオーミュラー」ヲ發見シ得ルニ於テハ、之ヲ協議ニ上シテモ可ナリト態度ヲ日本政府ハ示シタルニ付、何トカ解決ノ途モアルヘク就テハ差當リ輸出入問題トハ懸ケ離レタル海運問題ヲ後廻シトシテ、其ノ他ノ問題ニ關シ委員會ノ討議ヲ進メテハ如何ト云ヘルニ、「ランネフト」及「ヘルデレン」ヨリ交々海運問題ハ輸出入問題ト極メテ密接ノ關係アリ同時ニ之ヲ協議スルニ非サレハ委員會ノ開始ハ不可能ナリト云ヒ、「ヘ」ヨリ其協議ハ國旗別ニ依

ラサル可ラサル様ノ口吻ヲ洩ラセルニ付、本使ハ昨日「ハルト」長官ノ提示セル案ハ會社別ナリシト之ヲ繰返セル後、右ハ取リモ直サス國旗別ニヨラス各會社ヲシテ協定ヲ受諾セシメントスル意向ナリト了解スト云ヘルニ、最初「ラ」及「ヘ」ハ「ハルト」ハ既ニ退席後、幾分右案ニ賛成ナラサルカ如キ氣分ヲ示セル故、本使ハ昨日「ハルト」案ハ貴方一致ノ意見ナリト思ヒ居タルニ、若シ之ニ不同意ノ點アラハ即時之ヲ聞キ置カスハ昨日會談ノ電報ニ接セル日本政府ニ非常ナル誤解ヲ生セシムヘシト云ヘルニ、兩人私語ノ末右ニ異存ナシト云ヒ、「ヘ」ヨリ神戸會商ハ國旗別ナラスヤト指摘セル故、本使ハ決シテ然ラス締約當事者ハ一方丁社他方大阪商船、石原汽船、南洋郵船ニシテ其比率ニ他ノ船會社割込ム場合ハ同國籍ノ船會社ヨリ其持分中ノ比率ヲ割與スルコト、ナリ居ルト云ヘルニ「ヘ」ハ然ラハ國旗別ト同様ナラスヤト問ヘルニ付、本使ハ見様ニヨリテハ或ハ然ランナレド日本ハ斷乎トシテ國籍別ニヨル取極ハ之ヲ好マサルニ付。此點ハ今ヨリ錯覺ナキ様致度シト述ヘ置ケリ。

「ヘ」ハ更ニ何レニシテモ海運問題纏マリシ上ハ、會商ノ結果結ハルヘキ條約又ハ議定書ノ一部ヲナスヘキモノナリト云ヘルニ付、本使ハ是亦事前ニ誤解ナキ様致度ト思ヒ申述フル次第ナルカ、海運問題ヲ會商議案ノ一トセンコトヲ要望セラル、際和蘭政府ハ此討議ハ「アンオフィシャル」乃至「ブライグエート」ノ性質ニテモ可ナリト云ヒタルヲ記憶ス。從テ假リニ昨日「ハルト」案ニ從ヒ商議スル場合ニモ。出來上レル成果ハ他ノ問題ニ關スル議定書トハ別種ノモノニテ、出發點ノ相違ハ其成果ニモ當然及ヒ得ルコトハ豫メ御承知置アリ度シト云ヘルニ「ヘ」ハ然シ兩國政府カ之ニ付責任ヲトル事ニハ差異アルマジト云ヘ

ル故、本使ハ夫ハ勿論ナルカ他ノ文書ト同様ニ律シ得ヘカラサルコトヲ豫メ注意シ置クニ過キスト云ヘルニ「ラ」「ヘ」兩人交々右ハヨク了解セリ又其文書ヲ秘密ニシ置クコトモ和蘭側ヨリ「プロボーズ」シ之ニモ異存ナシ、現ニ最近結ハレシ通商條約殊ニ協定稅率其他ニ付テハ其存續期間中絶對秘密ニ附セラレ居ルモノ少カラスト云ヘルニ付、本使ハ之ヲ公表セサルヤ否ヤノ問題ハ取極ノ内容ニ係ルコトニテ、日本トシテハ豫メ秘密協定ヲ要求スルノ意思ナシト答ヘ置ケリ。

九月一日「ランネフト」代表ハ筆者ニ書翰ヲ送り、會談ヲ希望セルモ筆者不在ナリシニ付、前記十日ノ期間近ク滿了スルヲ慮カリ、事態ヲ明カニスル爲之ヲ認タムト前提シ、九月十日ニハ委員會ヲ開キタク、海運問題モ上程サレンコトヲ要望ス。蘭側ハ會テ送附セシ日程ヲ基礎トシテ此問題カ兩代表部間ニ審議サル、ヲ要ストノ見解ヲ持シ居リ、若シ日本代表部ニシテ九月十日ニ商議開始ノ意嚮ナキニ於テハ、蘭代表部トシテハ會商繼續ノ爲ニ必要ナル基礎ヲ缺クモノトシテ遺憾ナカラ之ヲ蘭國政府ニ告知セサルヲ得スト云ヒ越シタ。之ニ對シ筆者ハ九月六日回答シテ、双方意見ノ摘要ヲ掲ケ、結局其相違ハ海運問題討議方式ノ如何ニ過キサナル處、九月十日ヨリ委員會ヲ開カントスル蘭側ノ提議ハ出來得ル限り速カニ會商ヲ終了セシメタキ意嚮ニ外ナラスシテ、此希望ハ日本代表部モ亦同様ナルニ付、直チニ委員會ヲ開キテ他ノ諸問題ヲ講究シ、海運問題ニ關シテハ双方ノ満足シ得ル手續ヲ發見スル爲、交渉ヲ繼續センコトヲ提議シ、一應輕ク受流シテ置イタ。然シ其前日我々ハ海運問題今迄ノ經緯ヲ基礎トシ、左ノ如キ意見ヲ東京ニ送ツタ。

今ヤ會商ノ進展如何ハ海運問題ニ付双方妥協シ得ルヤ否ヤニ懸リ居レリ、先方ハ九月十日迄ニ會商議題ト

シテ上程スル事ノ諾否ヲ強硬ニ迫リ居リ、「ハルト」ノ如キハ之レ丈ニテモ決定セサレハ會商進展ノ見込ナク、不本意ナカラ決裂ヲモ辭セストノ決意ヲ山中ニ示セル由ナリ、尤モ右ハ僅カニ原則又ハ大綱ヲ政府間ニ豫メ協定シ、之カ細目ヲ民間協定ニ委スルヤ、或ハ本邦主張ノ通り先ツ民間協定ニ依リ一切ノ問題ヲ協定セシメ、兩政府間ニ其結果ヲ確認ノ形式ニテ協定スルヤ、ノ形式問題ノ差ニ止ル様一應思考セラルルモ蘭側ノ心理狀態ハ民間協定ニ委セハ、蘭側ハ各社ノ實力ヨリスルモ又討議ノ當事者ノ多數ナル事ヨリスルモ、常ニ日本側ニ壓迫セラレ到底蘭側ニ公平ナル分前モ保障モ與ヘラレストノ疑惑ハ、最近ノ賣止メ結束ノ威力發揮以來益々甚シク、寧ロ今ハ一種ノ恐怖トナリ居ル爲、今日執拗ニ本問題ヲ固執セリト思ハル、此際政府ニ於テモ本問題ニ付多少共蘭側ノ恐怖ヲ除キ其希望ヲ容ルルノ雅量ヲ示サレサル限り、終ニ會商ハ何等具體的實質的討議ニ入ラスシテ形式問題ノ爲ニ決裂ニ導クノ虞目下濃厚ナリト推測ス、此點御考慮ニ入レラレ至急十日迄ニハ先方ニ回答シ得ル様御詮議煩ハシ度シ。

尙ホ御詮議ノ參考トシテ本件ニ關シ今日迄研究セル結果、並ニ試案ヲ玆ニ具申スルコト急務ナリト信ス。一、海運ニ關シ一切ノ問題ヲ民間協定ニ委スルト主張シテモ、問題ノ性質上政府間ニ非サレハ協定シ得サルモノモアルヘク、此際民間協定ニ委スヘキ問題ト政府間取極ニ依ルヘキ問題トヲ區別スルコト肝要ナリ。

二、前項兩協定ニ付少クトモ双方ノ納得シ得ル根本原則丈ケハ豫メ了解事項トシテ定メ置キ、蘭側ノ恐怖心ヲ除ク要アリ、而シテ其根底ハ日本蘭印間ノ航路配船ノ問題ニ付大體現状維持ヲ確認スルコトニ在リ

右原則ニ對シテ同盟側ヨリ（イ）日本爪哇間本線ニ付テ郵船側ノ割込權保留ノ爲、（ロ）外領延長航路ニ對シ南洋J社間ノ協定ニ石原カ將來ノ割込權保留ノ爲、反對アルコト推測ニ難カラサルモ、郵船ハ既ニ配船セサル事ノ内諾ヲ他社ニ與ヘ居ルト承知ス、又石原ト雖神戸「コンフエレンス」ニ於テ他社ハ事實上月二回ナルニ石原ノミハ三回配船シ居リ、之ヲ他社カ確實ニ承認シ日本側割當ノ分配ニ付内協議纏マラハ強イテ「スマトラ」線ニ割込マストモ折合ツクヘク、將來ハ知ラス荷動ノ現狀ニテハ南洋J社ノ兩社ノ配船丈ニテ充分ナリ、夫レ以上ノ割込ノ餘地モナク、商船ノ如キモ一度割込ヲ試ミ手ヲ引キタル程ナリ、而シテ蘭側ノ最モ恐ルル所ハ石原ノ此外領航路割込競争ニ在リ、此際郵船及石原ノ將來ニ對スル割込權ノ留保ノ如キ此處二三年間ノ協定ニ對シテ強イテ主張スルハ、實益問題ニ非シテ單ニ名義上ノ問題ニ止マラサルカト思考セラル。

次ニ右原則ヲ政府間ノ協定トセハ、同盟四社以外ノ「トランバ」ノ反對ヲ豫想シ得ヘシト雖、之ヲ同盟四社間ノ協定原則トスルニ止メ置キ兩政府カ内々之ヲ保護スル事ニ了解ツカバ、我政府ニ於テハ責任ナカルヘク、又砂糖ノ如キ本邦大荷主ノ側ニ於テモ「フリー・マーケット」ヲ自己ニ有利ナルモノトシテ主張スル結果、同盟四社獨占ニ對シテ反對スヘキモ、孟買航路ニ付紡聯ト船會社ノ協定ノ如キ方法モアルヘク、之ヲ説得スルコト必スシモ不可能ナラサルヘシ。

三、日本ヨリ爪哇又ハ外領間直通定期航路、即チ本線以外ノ爪哇起點支那大連等ヲ終點トスル航路問題ニ付テハ、蘭側ニ於テ最モ憂慮シ之カ保護ノ爲日本側ノ保障ヲ取附ケムトノ魂膽ハ既電先方提案（措辭甚

タ曖昧ナルモ）三ノ（四）ニヨリテ明白ナルガ、本來此等航路ハ今回日蘭會商ノ議題外ノ問題ニ屬シ極力之ヲ排除スヘキモ、本線外ノ航路ノ起終點又ハ寄港地ヲ少シク變更シ日本爪哇又ハ外領線即チ本線ニ割込ミ民間協定ノ效果ヲ減殺スル事ハ可能性アリ、從テ同盟四社ハ當然ノ義務トシテ之ヲ爲ササル事ノ制限ハ甘受セサルヲ得ス、又政府カ民間協定ヲ「コンファーム」スル以上ハ他社ノ割込防止ニ努力スルノ德義上ノ義務アリト云ハサルヲ得ス、仍テ右ニ關スル一項ヲ協定事項トシテ少クトモ民間協定ノ議題ニハ上程セサルヲ得サルヘシト思考ス。

以上ノ見地ヨリ一應海運問題上程ニ關シ別電ノ通り問題ヲ區別シ、前者（甲）ハ民間協定指導ニ關スル兩代表部間ノ了解事項トシ。後者（乙）ハ政府間ノ協定事項トスル事ニ協議ヲ進ムルニ於テハ、會商進展ヲ期シ得ヘク、又我方民間側ニ於テモ強テ反對スヘキ理由ナシト存セラル、右御詮議ノ上至急何分ノ御回電ヲ請フ。

別電（甲）民間協定ノ原則大綱

一、日本—蘭印間定期航路ニ關シ大體現狀維持ノ趣旨ニ基キ關係船會社間ニ協定ヲ遂クルコト。

二、日本「マカツサ」爪哇間定期往航ニ關シテハ神戸協定ヲ確認スル事、復航ニ就テモ大體同様ノ精神ニ於テ現在ノ實績ヲ基礎トシ割當率及配船ヲ協定スルコト。

三、往復航ニ付「ブール」運賃問題ニ付キ昨年來ノ同盟社間ノ協定ヲ基礎トシ決定スルコト。

四、外領行定期航路ニ就テハ南洋郵船J社間ノ既定協定ヲ承認スルコト。

大阪商船、郵船ノ現ニ有スル寄港權ハ之ヲ承認スルコト。

五、本線以外ニ起點又ハ終點ヲ有スル新航路ノ開設又ハ既定航路ノ變更ニヨリ二及四ノ協定ノ障害ヲ來サル様自制スルコト、並ニ同盟外ノ船會社ノ右行動ニ對シテ抑制防止ノ爲共同措置ヲ講スルコト。

六、期限ハ二年乃至三年トシ、日蘭貿易ニ關スル取極効力存續期限ト並行セシムルコト。

別電(乙) 政府間取極事項

一、日本爪哇及外領定期航路ニ關スル民間取權ヲ日蘭兩政府ニ於テ確認(コムファーム)シ、其圓滿ナル遂行ニ努ムルコト。

二、現在ノ開港場ヲ不開港場トシテ閉鎖セサル事ヲ相互ニ保障スル事。

三、商品別其他ノ方法ニ基キ輸入港指定ヲ爲ササルコトヲ相互ニ保障スルコト。

四、蘭印外領及臺灣ニ於テ日蘭兩國船舶ノ寄港ニ關係アル定期航路ヲ新ニ開キ又ハ延長スル場合ニハ日蘭間ニ豫メ協定ヲ遂クルコト。

五、日本人カ企業上必要ナル資料物品及企業ヨリ得タル物品ノ運輸ハ既存法令ノ範圍内ニテ該企業家ノ自由撰擇ニ委スルコト、(本項ハ體面上相互の規定ニ改ムルモ可ナリ)

六、本取極ハ日蘭貿易取極ト同様ノ期限ヲ定ムルコト。

然ルニ本省カラハ左ノ如ク別ノ意見ヲ云フテ來タ、之ハ前記ノ電報カ着イタ時既ニ出來上ツテ居タ爲、我方ノ意見ヲ研究セスニ其儘發電シタモノト思ハレル。

海運問題ニ關シ先ツ「ランネフト」代表カ本大臣ハ「バプスト」公使ニ對シ該案諸項目ノ討議ニ主義上異存ナシト云ヒタリト述ヘタルハ「ラ」ノ誤解ニシテ、八月八日本件ニ關スル「バ」公使ト最後ノ會談ニ於テ本大臣ヨリ「何レニセヨ海運問題ノ如キモノニ付公式ニ政府間ノ申合セヲナスコトハ他國トノ振合ヒニ於テ國際的ニ先例ヲ作ルコトナリ、日本ノミナラス和蘭ノ立場ヲモ困難ナラシムル惧レアリ、日本政府トシテハ船舶業者ノ話合ヒヲ中心トシテ考フルヲ可トスルトノ方針ナリ」ト明白ニ說示シ置キタル次第ナレハ、此點先方ノ誤解ナルコトヲ指摘シ置カレ度シ。

次ニ「ラ」ニ於テハ現在ノ狀況ニテ不満足ニアラス、神戸會商ノ結果ニモ毫モ異議ナシト言ヒ、剩サヘ我方カ當業者代表者ノ話合ヒノ結果ニ對シ政府ニ於テ確認スト迄言明シ居レルニモ不拘、又兩國代表委員間ニ話合ヒヲ行フモ、帝國政府ノ權限ヲ以テ船舶業者ヲ強制實行セシメ得サルモノアルヲ以テ、右委員會ノ話合ヒヨリモ當業者代表ノ話合ヒノ方實際上ノ效果多キニ不拘、斯ク迄固執シ、我方ニ於テ受諾セサレハ會商不能ト迄主張スルハ我方ノ諒解シ難キ所ナルコトヲ強調セラレタル上、蘭印側豫テ希望ナルヲ以テ我方ハ會商全般ノ大局ヨリ考察シ、海運業者ノ非常ナル反對アリシニモ不拘難キヲ忍ビ最後案トシテ左ノ條件及方針ノ下ニ話合ヒヲ爲スコトニ漸ク當方ノ意見ヲ取り纏メタル次第ナルニ付貴電ノ次第ハアルモ左記ヲ申入レラレ、右申入レニ際シテハ此點ヲ充分徹底セシメラル様致度、結果回電アリ度シ(尙貴電別電(甲)及(乙)ハ(二)ニ依リ話ヲ進ムル際何分電報致スコトシ度シ御含ミ迄)

(一) 本件話合ヒハ非公式且ツ私的(informal and private)ノモノタルヘキコト、從テ今次會商ノ議題ト

シテ取扱ハス、越田總領事ヲシテ其衝ニ當ラシムルコト。

(二) 兩國政府當局間ニ右ノ形式ニテ話合ヒヲ行フトスルモ、事項ニ依リテハ(例ヘハ不定期船ニ關スルモノハ、此點貴代表限リノ御含ミ迄)現行ノ法律命令ニ基ク帝國政府ノ權限ヲ以テ海運業者ヲ強制實行セシメ得サルモノアルヘク、斯カル事項ニ關シテハ政府當局間ニ於テ話合ヒヲ遂クルコトノ不可能ナルヘキコトヲ豫メ蘭印側ニ諒解セシメ置クコト。

(三) (イ) 海運問題ニ付兩國當局間ニ話合ヒノ上ハ、之ヲ夫々自國關係海運業者ノ協議ニ移シ、(ロ) 兩國船會社間ノ協定トシテ成立セシメ、(ハ) 兩國關係當局カ夫々自國關係海運業者ニ對シ之ヲ確認スルコト。

(四) 蘭印側モ我方モ會商ノ進捗ヲ切望シ居レルニ鑑ミ、海運問題ニ關スル兩國當局間ノ非公式話合ヒハ少クトモ他ノ事項ノ商議ト併行之ヲ行ヒ、先方ニ於テ海運問題ノ解決ヲ見タル後ニ非レハ會商ノ正式議題ノ商議ニ入ラストノ主張ヲ爲ス時ハ極力反對スヘキコト。

右ノ電報ニ接シタ我々ハ(一)乃至(四)ヲ英譯シ、九月八日筆者及越田代表ハ「ランネフト」代表及「ハルト」長官ト會見シテ左ノ談話ヲ交換シタ。

本使ヨリ前記來電中段迄ノコトヲ述ヘタル後、海運問題ニ就テハ妥協點ヲ發見スル爲メ日本政府モ出來得ル限りノ考慮ヲ費シ、又自分モ極力之カ爲メ進言セル結果、日本政府ハ會商全般ノ大局ヨリ考察シ又協調ノ精神ニ則リ、海運業者ノ非常ナル反對アリシニ拘ハラズ、最後案トシテ此ノ如ク纏メタリト述ヘ、

來電(一)乃至(四)ノ英譯ヲ手交シタル後、之ハ只今モ申述ヘシ通り日本政府ノ考ヘ得ル最後ノ案ナルコトヲ充分諒解アル様致シ度ク、之ニ付申述ヘ度キハ此案カ七月十六日「デ・グラトフ」外相ヨリ武富公使ニ述ヘラレシ所ト合流シ居ルコトニテ、同外相ハ本問題ヲ會商上ノ公然ノ討議事項トセストモ非公式討議ニテ差支ナシト云ヒ、又政府委員間ニ大體ノ具體的原則ヲ話合ヒタル後、之ニ基キテ日蘭當業者間ニ私的商議ヲ遂ケシメ、其結果ヲ兩政府間ニ確認スルト云フコトニテ話ヲ纏メ度ク、右ハ國旗問題トスルヲ欲セサル日本ノ主張ヲ斟酌セルモノナリト附ケ加ヘラレシコトアリ、本案考慮ノ參考上申上クル次第ナルカ、此他ニモ七月三十一日「バプスト」公使カ廣田外相ト會見ノ際切メテ極ク「インフォマル」乃至「ブライヴエート」トシテノ話合ニテモ「バタヴキヤ」ニテ行ヒ得マジキヤト云ヒシコトアリト追加シタル後、貴下ニ於テモ日本政府ノ妥協的精神ヲ大イニ「アツブレシエート」セラル、ト同時ニ、此案ニ異存ナキコト、確信スル旨ヲ述ヘ、先程モ申セシ如ク本案ハ日本ノ考ヘ得ル最後案ニ付、之ニ對シテ我々貴方ニ要求スル所ハ單ニ諾否ノ回答ヲ求ムル迄ナリト述ヘ、若シ本案ニ付何カ説明ヲ要求セラル、點アラハ遠慮ナク質問セラレ度シト言ヒテ同案ヲ讀ミ上ケタルニ「ラ」ハ第一項本會商ノ議題トセスト云フ點ニ付グジグジ云ヒ居レルカ、本使ヨリ和蘭外相ノ云ヘルコトヲ再ヒ繰返シタル後、就テハ當方ヨリハ總領事ノ資格ニ於テ越田氏又領事ノ資格ニ於テ姉齒氏會談ニ列席スヘシト述ヘ、次ニ第二項ニ關シ「ハルト」ヨリ之ハ一體如何ナル事柄ヲ指スモノナリヤト聞ケルニ付、本使ハ夫ハ今ヨリ分リ居ラス、話カ具體的ニ進ムニ從ヒ種々ノ事項ニモ觸ルヘク、自然二項ノ豫見スルカ如キ問題アル場

合ニ鑑ミ豫メ之ヲ留保シ置クノ趣旨ニ他ナラスト云ヘルニ、「ラ」ハ過日送付セル「アヂエンダ」ニ從ヒ話ヲ進メラル、トシテ本項ハ其例外ヲナスノ趣旨ナリヤト問ヘルニ付、本使ハ決シテ然ラス貴方ニテハ先般來「アヂエンダ」ナル文字ヲ使用セラル、カ、我々ガアノ書類ノ送付ヲ受クルニ至レル經緯ヨリシテ、我々ハ海運問題ニ付如何ナル事ヲ協議セラレント考ヘ居ラル、ヤヲ知ル爲之ヲ申受ケタル迄ニテ、如何ナル事ヲ議題トスルヤト云フカ如キ問題ハ愈々談判開始後委員間ニ決定セラルヘキ問題ナリト應酬セルニ、「ハルト」ハ然ラハ往航ニ關スル神戸會商ハ議題トスルモ復航ニ關シテハ議題トスルヲ欲セスト云フカ如キコトアリテハ甚タ當惑スト云ヘル故、本使ハ此ノ如キ意圖ヲ有スルモノガ會議ヲ開キテモ良シト云フ譯モ非サルヘシト云ヘルニ、彼モ苦笑シ居レリ。

第三項イニ付「ハルト」ハ政府委員間ノ協議纏マレル場合之ヲ船會社カ一蹴シ日本政府ヨリ事態斯クノ如キニ付最早何モ出來スト云ハレテハ甚タ困ルト述ヘ、會議中關係船會社トハ常ニ接觸ヲ保ツ様致シ度シト云ヒタルニ付、本使ハ之ハ双方内部ノ關係ニ屬スル事ニテ、此ノ如キ事項ニ付貴方ノ容喙ヲ受クル立場ニ非ス、然シ乍ラ双方協議ノ結果ハ之ヲ双方ノ關係船會社ニ各々呈示スト云フ以上、呈示セル場合ノ結果ヲ豫想シテ必要ナル工作ヲ施ス必要アル場合ニハ何人タリトモ常識ニ從テ行動スルコト、思フカ要ハ政府委員間ニ纏マレル案ヲ各々其國ノ營業者ニ示シ營業者ハ之ニ付テ意見ヲ述フル餘地モアルヘク其意見ヲ理由アリト認ムレハ双方ノ政府委員ハ互ニ之ヲ持チ寄り重ネテ協議スルコトモアルヘシト云ヘルニ、彼ハ良ク了解セリト述ヘタリ。

右ニテ一應ノ意見交換ヲ終リ、「ラ」ヨリ本件ハ自分トシテ非常ニ重大ナリ、殊ニ貴方ハ之ヲ最後案トシテ單ニ諾否ノ回答ヲ求メ居ラル、ニ付本國政府ニ請訓ノ上ナラテハ如何トモ申シ難ク、多分來週火曜十一日位ニハ回答シ得ル運ヒトナルヘシト云ヘルニ付、本使ハ若シ其回答カ「ノー」ナル時ハ我々ノ仕事モ之ニテ終了スヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ何レニセヨ我々ハ本會議ノ爲オ互ニ忠實ニ努力セリト云ヘリ、別レニ臨ミ「ラ」ハ雜談中自分ノ總督代理トナル前ニハ色ヨキ御返事ヲナスコトラ期待スト云ヒ居タリ。東京テハ此會談ノ成行ヲ頗ル重大視シ、武富公使ニ左ノ電報ヲ送ツタ。

海運問題ニ關シ我海運業者ノ態度強硬ナルハ長岡代表宛再三ノ電報ニ依リ御承知ノ通りナル處、同代表宛電報ノ案ハ眞ニ我方ノ最後案ニシテ、我方ハ營業者ノ說得等ニ多大ノ努力ヲ爲シ漸ク此程度迄漕付ケタル次第ナリ、而シテ右案ハ貴電和蘭外相陳述ノ筋ニモ殆ト合致セルモノナルニ付、貴官ハ至急貴國當局ニ面談セラレ、右案ニ同意スル様此際側面ヨリ精々說得ニ努メラレ度シ。

九月十五日朝「ランネフト」代表ハ筆者ヲ訪問シタ。之ハ同氏ガ翌日カラ總督代理ヲスルニ付其挨拶ノ爲デ從ツテ用談ニ觸レルコトモ少ナカツタガ、海運問題ニ關シ氏ハ當方最後案ヲ本國政府ニ傳達シタ丈ケデ、其後本件ニ付電報ノ往復ハ皆無デアル、尤モ和蘭ノ閣議ハ每週火金ノ兩曜ニ開カレルガ、火曜(十一日)ノ閣議ニハ本問題ハ上程サレナカツトノ情報ヲ得タノミダト云フテ居タ、從ツテ本國カラ如何ナコトヲ云フテ來ルカ見當付カヌモノ、如ク「ラ」自身トシテハ日本案デ進ミ差支ナイト思ヒ居ルガ如キ印象ヲ筆者ニ與ヘタ。

九月十七日夕蘭代表部書記官「イーデンブルグ」氏ヨリ電話デ、「ハルト」臨時首席ガ「フアン・ヘルデレン」教授滯同筆者ニ十八日朝十時會場テ面會シ度シト申込シテ來タカラ、用件ハ何デアルカ、海運問題ニ關スル事カト反問サセタラ、「ヘルデレン」氏在席セルモノ、如ク同氏ト相談ノ上、今「ハルト」氏不在故詳細ハ分ラヌガ一般問題ニ關シ御話シシタク、海運問題ニ付テハ知ラヌトノ答デアツタ、一般問題ト云ヘハ筆者カ既ニ「ランネフト」代表ト意見交換濟ノ諸件カ乃至ハ委員會ニ關スル問題ナルヘキニ付、越田代表ノ方適任ト考ヘ、且ツ「ハルト」氏ハ首席代表代理ニ關シ未タ挨拶ニモ來ラス、又今同電話ノ申入レモ儀禮ニ添ハヌカラ、筆者ハ不快デ引籠ツテ居ル故越田代表ガ明朝面會スルト答ヘサセタ處、先方ハ然ラハ筆者ノ快癒迄面會ヲ延ハスヘシト答ヘタトノコダ。仍テ十八日朝最近日蘭兩代表部ノ連絡係ヲ命セラレタ「フアン・デル・ブール」大佐ノ來訪ヲ求メ、越田代表ヨリ前記ノ次第ヲ述ヘ先方ノ禮ニ缺クル所以ヲ指摘スルト同時ニ、日本代表部ニ於ケル全權委員トシテノ越田代表ノ地位ヲモ説明シタ處、同大佐ハ直チニ「ランネフト」及「ハルト」兩氏同席ノ所デ之ヲ報告シタラ、先方モ大イニ其過誤ヲ了解シ、「ハルト」氏早速筆者ヲ來訪シ度キ旨取次ケルニ付、然ラハ十八日午後五時半面接スヘク、外出不能ナルニ就テハ其際要談ヲ聞クモ差支ナシト述ヘサセテ置イタ。

「ハルト」氏來訪談摺濟ミシ後筆者カラ日本代表部ノ構成ハ會商當初ニ送付セル「リスト」ニテ御承知ノコト、存スルカ、貴方ハ「チーフ・オブ・デレゲーション」ト「アンダー・チーフ・オブ・デレゲーション」ト記載シアル處、當方ノハ全權委員トシテ筆者及越田總領事ノ名前ヲ記載シアリ、社會的地位ニ關スルコトハ暫ク措キ

代表部ニ於ケル法的地位ハ兩人ノ間ニ些ノ差別モナク、例ヘハ會商ノ結果「バラフエー」スヘキ協定ニ到達セルト假定シ、若シ其「バラフエー」ヲ越田代表カ拒絕セハ筆者亦之ニ「バラフエー」スルヲ得サル様ナ次第ニテ、日本政府ハ從來國際會議ニ少クモ全權委員二名ヲ送ルヲ例トシテ居ル、之ハ一人カ病氣又ハ事故ノ爲故障アル場合ニ備フル爲デ、又巴里講和會議ノ例ニヨルモ主トシテ活動セルハ主席全權タル西園寺侯ニ非スシテ次席ノ牧野男タリシハ御承知ノコト、存スト云ヘルニ、「ハルト」氏ハ克ク了解セリ何分ニモ問題重要ナリシニ付貴大使ニ直接申上クル方宜カルヘシト思ヒタル爲ナルカ、今後ハ充分御趣旨ノアル所ヲ尊重スヘシト述ヘタ。

以上ハ先方今回ノ態度ニ鑑ミ且ツハ八月三日「ラ」代表ノ仕打モアルノデ（陶磁器輸入制限令ノ章參照）間モ無ク開カルヘキ委員會ニ首席トシテ出席スル越田代表ノ地位ヲ、充分先方ニ認メサセテ置ク必要ヲ感シタ爲デモアルガ、本件ハ一段落ヲ告ケタノデ用談ニ入ツタ。海運問題ニ關スル會談要領ハ左ノ通りテアル。

「ハ」ハ海運問題ニ關シ本國ヨリ返電アリ、總ヘテ日本提出ノ基礎ニテ會談ヲ始ムルニ異存ナシ、自分ハ右ヲ通告スルノ愉快ヲ持ツト同時ニ、「アヂェンダ」ニ關シ蘭側トシテハ之ニ包含スル諸問題ヲ提起スル自由ヲ保有スルコトヲ附言致シ度シト述ヘタルニ付、本使ハ自分トシテモ此通告ニ非常ナル満足ヲ表スル次第ナリ、議題ノ問題ニ付テハ日本側ヨリ追加ヲ要求スヘキコトモアルヘク、何レニセヨ之ハ關係者カ相互ニ其時々ニ協議決定セハ充分ナルヘク、自分ノ考トシテハ先ヅ日本ヨリ爪哇ヘノ往航ノ問題ヲ議題トシ神戶會商ノ成果ニ付過日「ランネフト」氏ハ異存ナシト云ハレ居タルコトナレハ之ヲ其儘取上クルコト、シ

次テ復航ヲ審議スルコト然ルヘキヤニ思考スト述ヘタ、「ハ」ハ本國政府ハ海運問題ヲ含マサル通商追加協約ハ意味ヲ爲サスト考ヘ居レリト云ヘルニ付、本使ハ先般來屢々述ヘシ如ク協議整ヘル場合之ヲ如何ナル形式ノ文書ニスルヤハ其時ニ研究スヘキガ、非公式會議ヲ前提トスルコトナレハ其成果モ亦之ニ順應セサル可ラスト答ヘタルニ、「ハ」ハ能ク了解セリト答ヘタリ。

斯クシテ九月二十一日午後五時半ヨリ開會セル第一回（輸入分科委員會）終了後午後六時半カラ海運問題ニ關スル第一回の談合ハ開始サレタ、當方ヨリハ越田總領事、姉齒領事及早間事務官、先方ヨリハ「ヘルデレン」「ホーフストラーテン」「モー」「ブラート」及「デロース」ノ五氏出席ス、會談要領左ノ通り

一、先ツ「ヘ」ヨリ口ヲ切り蘭側トシテハ曩ニ貴方ニ提出シ置キタル海運問題ニ關スル提案ヲ討議ノ基礎トシ度キ處、右案ニ關シ概括的註釋ヲ附加シ度シト前置キシタル後、抑々日蘭印間定期航海ハ歐洲大戰中蘭船「社線」カ開始セルニ端ヲ發シタルモノニシテ、次テ南洋郵船、大阪商船兩社線ノ就航ヲ見、斯クシテ一九二三年以降三一年ニ至ル迄ノ間ハ極メテ圓滿裡ニ此等三社線ノ事業繼續セラレ居リシカ、三一年中頃ニ至リ石原汽船カ割込ミ來リ低運賃ヲ以テ攪亂シタル結果、種々ノ問題勃發シタル次第ナルカ一九三二年末ニ至リ關係日蘭船社間ニ運賃同盟成立スルニ至レル處、積荷分配問題ニ就テハ依然未解決ノ儘現在ニ至リタリト述ヘ、之ヲ要スルニ前記海運問題蘭提案ハ（一）日本「マカツサ」及瓜哇間直接航行問題（二）日本「マカツサ」以外ノ外領間直接航行問題（イ）瓜哇ヲ經由セサルモノト（ロ）瓜哇ヲ經由スルモノトアリ（三）「スルー・トラフキツク」問題ノ三ニ分カタル右（一）ニ就テハ積荷比率ハ日

蘭兩國籍別ニ五分五分ヲ主張ス、而シテ（二）ニ就テハ蘭印力數多ノ島嶼ヨリ成リ居ルノ特殊事情ニ鑑ミ、此等島嶼間ノ海路交通ハ宛然大陸ニ於ケル鐵道交通ニ類スヘキモノナルヲ以テ、特殊交通經濟ノモトニ或種ノ「レギュレーション」ヲ考慮スルノ要アリト述ヘ（イ）開港數（ロ）航海度數（ハ）積荷比率ノ問題ヲ解決スルノ要アリ、又（三）就テハ蘭側トシテハKPM船ヲ保護スルノ必要アリトニ説明シタリ。

二、右ニ對シ越田ハ貴方説明ノ趣旨ハ諒解シタルカ、日本側ハ未タ本件海運問題ニ關シ本國政府ヨリ何等訓電ニ接シ居ラサルヲ以テ即答シ兼ヌルモ、孰レ近日中ニ接到ノ答ナリト述ヘタリ。

三、「ヘ」ハ就テハ只今説明セル趣旨ハ月曜日頃迄ニ書面ヲ以テ申送ル答ナルニ付、右ニ依リ何分御研究アラム事ヲ望ムト述フルト共ニ、最後ニ一言シ度ハ會商圓滿妥結ノ結果得タル成果ノ調印ハ、海運問題ニ關スル圓滿解決ノ日迄之ヲ差控フルヘキモノナリト述ヘタリ。

四、越田ハ前記一、中ノ日本蘭印間積荷問題ニ關スル蘭側主張ハ兩國籍別ニ割當ヲ要求スルモノナルカ、日本側トシテハ本件問題ヲ國旗問題トスル事ニ絶體反對シ居ル事ハ御承知ノ通ナルニ付、此點篤ト誤解ナキ様セラレ度シト注意ヲ喚起シタルニ「ヘ」ハ良ク諒解ス、自分ノ考ヘテハ日本船社全體ノ割前ト蘭蘭船側割前トヲ二大別シ、假令將來他社カ割込ミ來ル場合ト雖モ其船ニ對スル割前ハ右船ノ國籍ニ屬スルノ船社團ノ割前中ヨリ之ヲ吐出シ他方ノ船社團ノ割前ニハ何等影響ナキ事トセシムル意味ナリト説明セルヲ以テ、越田ハ孰レニセヨ「フラツグ」ト云フ言葉ハ使用セサル形式ノモトニ海運問題ヲ圓滿取纏

メ度シト述ヘ本日ノ會談ヲ終レリ。

此情報ニ接シタ筆者ハ頗ル心外ニ心得、九月二十四日「ランネフト」代表ト會見ノ際筆者ヨリ海運問題ニ關スル協議ノ際「ヘルデレン」教授ハ越田總領事ニ對シ日本爪哇往復船ノ割當ニ付五分五分ノ比率ヲ要求セリト同總領事ヨリ聞及ヒタルカ、右ハ貴官トノ話合ニ矛盾スル様思考スト述ヘタル處、「ラ」ハ此ノ如キコトヲ「ヘ」ハ果シテ申出タルヤト頗ル苦々シキ表情ヲシタ。筆者ハ「ヘ」ハ何レ文書ニテ要求大綱ヲ送付スル旨述ヘシ由ナルカ、何レニセヨ海運問題ニ關スル根本原則ハ大體我々兩人間ニ打合セ濟ナレハ、此「ライ」ハ尊重サル、様致シ度シト述ヘテ置イタ。

右ノ書面ハ九月二十七日ニ接到シタノデ、越田總領事ハ之カ對案トシテ左記ヲ十月三日ノ非公式談合ノ際先方ニ渡シタ。

日本政府ハ日本及蘭印間ノ海運事項中ニハ性質上兩國政府間ノ諒解ニ依ルヘキ事項ト兩國海運當業者間ノ協議ニ委スヲ可トスヘキ事項トノ二ツアル事ヲ認メ、從ツテ右ノ標準ニ依リ之レヲ區別シテ檢討スル事ハ實際的ニシテ、本件非公式且ツ私的談合ヲ容易ナラシメ、結果ニ到達スル所以ナリト信スルヲ以テ、本官ハ本國政府ノ命ニ依リ左記ノ方式ニテ協議ヲ進メンコトヲ提議ス。

日本政府ノ對案中ニ用ヒタル別記方法ハ貴方ノ列記方法トハ異ナルモ、大體ニ於テ貴方ノ提議セラルル重要事項ヲ網羅シ居ルモノト信ス、尤モ日本爪哇間及其復航ノ海運ニ關シ、貴方カ其内容ノ詳細ニ付テモ本官トノ非公式談合ニ於テ定メント欲スルニ反シ、日本政府ニ於テハ右ハ此非公式談合ニ於テ民間當業者間

ノ會商ニ委讓方ヲ審議セシメントスルノ差異アリ、而シテ神戸民間會商ニ於テ大體決定セラレタル事項ノ内容ニ付テハ、從來貴方累次ノ言明ニ依リ異議ナキモノナル事明瞭ナルヲ以テ、兩政府間ノ斡旋ヲ以テ此際神戸會商ヲ速カニ再開續行セシメ協議ヲ纏メシムル事トセハ、政府當局者間ニ於テ取扱フヘキ事項ハ比較的單純容易トナルヘシト思考ス。

第一、兩國政府間ノ諒解ヲ遂クヘキ事項ハ

一、民間交渉ノ結果ヲ確認スルコト。

但シ右確認ハ夫々自國ノ關係當事者ニ對シテ之ヲ爲シ、右確認シタル事項ヲ一方ノ政府ヨリ他ノ政府ニ通知スルコト。

二、商品別其他ノ方法ニ基キ輸出入港指定ヲ爲ササル事ヲ保障スルコト。

三、不定期船ノ積取リハ之ヲ自由トスルコト。

四、企業上必要ナル資料物品及企業ヨリ得タル物品ノ不定期船ニ依ル積取リニ付テハ、特定國籍ノ船舶ヲ指定セサルヘキハ素ヨリ、之ニ對シテハ能フ限りノ便宜ヲ供與スルコト。

五、蘭印ノ諸港間ノ輸送ニ付テハ、日本側各社ト蘭印KPM社トノ貨物積替ヘ契約ヲ確認スルモ差支ナキコト。

六、以上二、三、四ニ關シテハ日本カ右ニ杆格スルノ措置ヲ執ラサル間、蘭印モ亦之ヲ保障スル旨ヲ蘭印側ニ於テ宣言スルコト。

七、以上作製セラルル各文書ハ秘密文書トスルコト、
八、右政府間ノ諒解及民間協定ノ期間ハ二年トスルコト。

第二、兩國當業者間協議事項

日本政府ハ次記ノ事項ニ關シテハ之ヲ兩國當業者間ノ協議ニ委シ、右協議ノ結果ヲ確認センコトヲ主張ス。(第一ノ一參照)

一、日本瓜哇航路同盟ニ關スルモノ。

本航路ニ於ケル各社ノ配船、運賃率及積荷割當等ハ舉ケテ之ヲ同盟各社ノ協議ニ任スコト。

尤モ各社積荷割當率ニ關スル日本當業者ノ意見ハ左ノ通りナリ。

A、日本—瓜哇航路ニ付テハ既ニ同盟ノ神戸會商ニ於テ各社ノ割當率大體妥協出來タルニ付、其儘之ヲ成案トスルコト。

B、瓜哇—日本航路ニ付テハ大體ノ實績ヲ基礎トシ、神戸會商ヲ繼續シテ協議決定スルコト、

二、日本—「スマトラ」航路ニ關スルモノ

本航路ニ於ケル配船、積荷割當率及運賃率等ハ南洋郵船及J社ノ協議ニ委カスコト。

尙ホ同盟各社ノ「スマトラ」其他ノ蘭印外領ニ對スル將來ニ於ケル新規配船ノ是非ニ付問題アラハ、彼我加盟五社間ノ協議ニ任カスコト。

三、日本蘭印間航路以外ノ定期航路並ニ盟外配船等ニ付テハ、政府間ニ於テ交渉ノ限リニ非ルハ固ヨ

リ、當業者ニ於テモ協議ノ餘地ナカルヘキコト。

其後私的談合ハ屢々行ハレ、我方ハ十月三日ノ對案ノ補遺トシテ詳細ニ亘ル意見書ヲ十一月五日先方ニ交付シタガ、是ヨリ先キ越田總領事ハ「ファン・ヘルデレン」教授ノ希望ヲ容レ、双方意見ノ相違點ヲ簡單ニ記載セル調書ヲ作り、十一月七日兩人之ニ署名シタ。以下主要會談ヲ列記ス。

十一月八日長岡「ラ」會談。

「ラ」ハ日本側ノ意見書ヲ閱覽セルガ、本問題ハ非常ニ複雑困難ニシテ、結局會商ヲ不調ニ導クヘキ難關アリトセハソハ本問題ニ非サルカヲ惧ルト云ヒタルニ付、本使ハ日本側トシテ斯クノ如キ難關アリトハ思ハス、先頃送付ノ意見書ヲ翫味セラルレハ明瞭ナルヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ例ノ比率ニ關シ蘭側ヨリ四割要求セル件ニ就テハ自分トシテモ頗ル不快ニ感シ居リ、只今確言スル譯ニハ行カサルモ本件ニ付テハ貴方ニ満足ヲ與ヘ得ヘシト思考ス、其他ニ就テモ亦相當歩ミ寄ル積リナルカ、何レニセヨ貴方ノ意見書ニ付テハ近日中「ハ」ヨリ越田總領事宛文書ヲ以テ回答スヘキ筈ナリト云ヘリ。

十一月二十日越田「ハ」會談

越田ハ「ハ」ニ對シ海運ニ關シ十九日貴下ヨリ海運業者私的會商ノ場所ニ付言及セラレタルカ、日本當業者ハ本年初頭ノ神戸會商ノ繼續トシテ斷然同地ヲ主張シ居ルニ付、今仮リニ「バタヴキヤ」ヲ提議セラルルモ徒ニ問題ヲ紛糾シ會商ヲ遅延セシムルニ過キサリヲ以テ、此際蘭側當業者ヲシテ速ニ神戸會商ノ再開ヲ受諾セシメラルル様配慮アリ度キ旨述べタル處、「ハ」ハ蘭側當業者カ神戸ニ赴ケハ日本側當業者ハ多勢

ニシテ且ツ共同的態度ニ出ツヘキ事必定ナルヲ以テ、蘭側當業者ハ威壓セラルルノ惧アリト愚痴ヲコボセルニ付、越田ハ日本當業者間ニ於テモ各社ノ利害關係複雑シ居リ、曩ニモ現ニ比率問題決定ノ際種々ノ異論ノ爲容易ニ議纏ラサリシヲ、政府幹旋ノ結果漸ク妥協出來シ様ニ記憶ス、日本政府ハ今後民間會商開催ニ至ル時ハ妥結ニ到達ノ爲メ極力幹旋努力スル筈ナレハ、前記ノ懸念ハ無用ナルヘシト種々説明シ、次テ「ヘ」ハ仮令神戸民間會商開催ニ至ルトモ大體ノ原則定リ居ラサレハ容易ニ纏ラサルヘシト云ヘルニ付、越田ハ日本「マカツサ」及瓜哇間ノ航路等ニ於テハ航海數、運賃率、積荷等ニ關シ既ニ原則成立シ居ル次第ナレハ、別ニ原則ヲ定ムルノ必要モナカルヘク、要ハ民間業者カ自由ニ此等原則ヲ決定シ得ヘキ性質ノモノナルニ付、政府カ干涉スヘキ筋合ニ非スト答ヘタル處、「ヘ」ハ積荷比率問題ニ付依然ジ社ノ現有勢力ヲ三〇%以上ナリト主張シ、又日本郵船割込ミノ場合ノ保障ナキ事ニ觸言セルニ付、越田ハ種々應答シ、要之ニ若シ増率ヲ得ンカ爲商議セントスル儀ナラハ寧ロ之ヲナササルニ如カス、J社カ一層大ナル比率獲得ノ爲種々手段ヲ講シ居ル内情ニ付テハ日本當業者ハ充分之ヲ知悉シ憤慨シ居ル次第ニシテ、又郵船割込ミ問題ノ如キモ神戸ニ於テ商議ノ結果何トカ打開ノ途モ發見シ得ルヤニ思料セラルル旨力説シタル後、實ハ本邦船會社ハ「ブール」問題カJ社ノ不誠意ノ爲今日迄未解決ノ儘トナリ居ルニ忍耐シ切レス、曩ニ神戸會商ニ於テ略ホ纏リタル比率ニ依リ十二月一日ヨリ往航積荷「ブール」ヲ實行セントシ、若シJ社之ニ應セサルトキハ日本當業者間ノミニテ實施スヘキ事ヲ近々J社ニ通告セントスル意向ナルカ如ク、日本政府ハ「バタヴキヤ」會商圓滿進捗ノ爲斯卡ル手荒キ方法ヲ執ル事ニ對シ百方慰撫ニ努メツツアルモ、若シ當

業者カ之ヲ敢行スル場合ニハ政府モ現行法規上之ヲ押フル事能ハサルヘク、結局自由競争ノ出現トナリ日本瓜哇間ノ海運上一大混亂ヲ招來スルノ惧モアルニ付、速ニJ社ヲシテ神戸會商再開ヲ諾セシムル事急務ナルヘシト云ヘルニ、「ヘ」ハ頗ル驚愕ノ色ヲナシ、斯卡ル狀態ニ立チ至ラハ蘭印側ニ於テモ特別立法ニ依リ自國海運ノ保護ヲ講スルノ要アルヘク、斯卡ル非常手段ニ出ツル事アルヘキヲ日本側ニ於テ知悉シ居ル儀ナリヤ、又日本海運業者カ斯卡ル極端ナル措置ニ出ツル場合日本政府及對蘭印輸出關係業者ハ對蘭印貿易ニ及ホスヘキ非常ナル影響ヲ顧念シ何等取締リ又ハ反對運動ヲナシ得サルモノナリヤト反問セルニ付、越田ハ日本政府ハ會商目下ノ情勢ニ鑑ミ極力宥メツツアルモ、若シ當業者カ斷然タル態度ニ出ツル場合強制スルノ手段モナカルヘク、又對蘭印輸出業者トシテモ其實害ナキ限り團結シテ反對運動ヲ起ス事モナク場合ニ依リテハ反ツテ同情的聲援ヲ爲ス事モアルヘシト思ハル、要之本官ハ蘭側當業者カ神戸會商ニ應スルヤ否ヤヲ本月二十四、五日頃迄ニ承知致度ト云ヘルニ「ヘ」ハ右ノ如キ「シヨート・ノーチス」ノ通牒ヲ發セントスル日本當業者ノ態度ハ意外トスル處ニシテ、宛然蘭側ニ對シ「デクテート」セントスルモノナルガ、兎ニ角至急會議ヲ開キ蘭側ノ態度ヲ決定スルコトトスヘシト答ヘタリ。

十一月二十二日越田「ヘ」會談。

「ヘ」ヨリ覺書ヲ示シ、其中ノ海運問題ニ關シ左ノ通り申出タリ。

兩國政府代表者間ニ行ハレツツアル討議ニ依リ近々關係會社ヲシテ私的協議ヲ開催セシムルノ可能性アルニ至レリ。然レ共和蘭政府ニ於テハ海運ニ關スル若干ノ基準の事項ノ協定カ通商ニ關スル協定ト同時ニ成

立スルニ非サレハ後者ヲ受諾シ得ストノ建前ヲ堅持シ、且ツ海運ニ關スル民間協議カ満足ナル結果ヲ得ル爲ニハ左記ノ條件カ履行セラルル事ヲ必要トスルモノナリ。

A、關係船會社ノ私的協定ハ兩政府カ「コンファーム」スルコト。

B、民間協議中政府代表者一名公式「オブザーヴァー」トシテ會議ニ參列セシムルコト。

C、通商協定ノ遲滯ナキ實施ヲ圖ル爲ニハ和蘭政府ノ前記「コンファメーション」ヲ可能ナラシムルヲ要シ、此目的ノ爲蘭側官吏ハ民間協定中ニ包含セラルル事ヲ必須不可避トスル條項ヲ速ニ日本總領事ニ手交シ、此條項ハ日本政府ノ斡旋ニ依リ日本關係船會社ヘ交付セラルヘシ、成ルヘク速ニ且ツ如何ナル場合ニ於テモ二週間以内ニ日本船會社カ前記條項ヲ包含スル協定ニ記名スルノ意向ヲ表明スヘキモノトス。

D、民間商議地トシテ蘭側ハ「バタヴギヤ」ヲ主張ス。

越田ハ前記申出ノB項官吏ノ立合ニ付テハ日本政府ハ夙ニ反對ノ意ヲ表シ居ルニ付、蘭側ノ關スル限リ在神戸領事カ蘭側會社代表ト聯絡ヲ採レハ差支無ナカルヘク、全ク民間ノ會議ナレハ官吏ノ立會ヲ要セサルヘシト云ヘルニ「ハ」ハ先頃トハ事情モ變化シ居ル事ナレハ此點日本政府ノ再考ヲ得度シト述ヘタルニ付越田ハ右ハ困難ナリト答ヘタリ。

C、項ニ付テハ和蘭政府カ挿入ヲ欲スル基準條項案ヲ蘭側會社代表者ヲシテ民間會商ニ提議セシムレハ可ナルヘシ、民間協議ノ自由ヲ拘束スルカ如キ條項ヲ政府側ヨリ「デクテート」スル事ニハ日本政府ハ絕對

ニ反對スヘシ。

D、商議地ニ付テハ一日モ説明シタル通り前回ノ引續トシテ神戸ヲ選フノ外ナク、若シ今ニ至リ此點ニ關シ問題ヲ起セハ益々遲延スヘク、通商會商ヲ當地ニ開キタルニ鑑ミ海運民間會商ヲ神戸ニ開クハ好意ヲ「レシブロケート」スル意味ニ於テモ當然ナルヘシト云ヘルニ「ハ」ハ此點ハ強テ主張セスト答ヘタリ。

十一月二十三日越田「ハ」會談。

越田、前記先方申出中B項ニ關シ日本政府ハ民間會商ニ政府ノ代表者ヲ「オブザーヴァー」トシテ參列セシムル事ニ反對ナルヲ以テ、此點ニ關シ再ヒ政府ノ意向ヲ問合スモ無用ナリト思考ス若シ貴方ニ於テ「オブザーヴァー」ヲ是非共參列セシメ度キ意向ナルニ於テハ、蘭側船會社代表者ヨリ會議開催ニ當リ日本側代表ノ承諾ヲ取付クルノ外ナカルヘシ、尤モ日本側カ之ヲ承諾スルヤ否ヤハ別問題ナリ。而シテ事實問題トシテ在神戸領事カ蘭側代表ト連絡ヲ取レハ和蘭政府ヘノ報告ニハ差支無カルヘシト述ヘ、

C項ニ付テハ本官ノ受ケ居ル訓令ニ依レハ到底右提議ニ同意スルヲ得ス、私見ニ依レ蘭政府ニ於テ民間商議ノ結果タル協定中ニ包含セラルル事ヲ必要トスル條項ヲ用意セラルルニ於テハ、之ヲ蘭印船會社ノ代表者ニ訓令シ民間會商ノ劈頭之ヲ提議セシムルノ外ナカルヘク、日本政府トシテハ右會商ノ討議事項ヲ豫メ兩政府間ニ於テ決定シ之ヲ民間會商ニ「デクテート」スルカ如キ「プロセヂューア」ニハ反對ナルコト勿論ナリト述ヘ、

D項ニ於テハ之亦昨日陳述ノ通り神戸ニ於テ開催ノ外ナカルヘシ。若シ蘭印側ニ於テ主義上神戸會商ノ開

僅ニ同意スルニ於テハ、日本政府ハ日本船會社側カ現在採ラント企テツツアル行動ヲ宥ムル爲幹旋スヘク、加之右會商開始ノ場合ニ日本船會社側代表者ノ威壓ニ關シ蘭印船會社側ノ抱キ居ル危惧ヲ除去スル爲「日本政府ハ會商ヲ出來得ル限り成功ニ導ク爲幹旋スヘシ」トノ保障ヲ本官ノ名ニ於テ文書ヲ以テ與フルコトヲ得ヘシト述ヘタルニ。

「ヘ」ハ蘭側ハ日本側船會社今次ノ行動ノ結果民間會商開催ニ同意セントスルモノニ非スシテ、今日ニ至ル非公式交渉ノ結果ヨリ來レルモノナル事ヲ述ヘ、又日本側カ蘭側ニ於テ必須條件トセル條項ヲ容レサルトキハ、蘭印政府ニ取り比較的重要性少キ爾餘ノ事項ヲ協議スル民間會商ヲ欲セサル次第ナルニ付、蘭側申出テC項ノ通り日本政府ノ幹旋ヲ得度ク、右ハ日本政府カ民間會商中與ヘントスル幹旋ヲ會商開始前ニ於テモ與ヘ得サル理由ナシト思考ス。要之蘭側今次ノ申出テハ多大ノ讓歩ナレハ日本側ニ於テモ幾分ノ讓歩ヲ得タシト執拗ニ繰返セルニ對シ、越田ハ日本政府ハ民間會商ノ議題タルヘキ事項ニ付テハ非公式談合ニ於テハ觸レサル建前ナルニ付、貴方ノ提議ヲ受入ルルハ結局民間會商事項ヲ政府間ノ非公式談合ニ於テ討議スル結果トナルヲ以テ強硬ニ反對スル次第ナリ、依テ前述ノ方法ニ依ルノ外ナシト答ヘタルニ「ヘ」ハ前記各項共己ムヲ得サルモノト認ムルカ如キ容體ヲ示セリ。

十一月二十八日越田「ヘ」會談。

一、越田ヨリ二十六日會見ノ際神戸民間會商ニ對スル蘭印側ノ態度ハ二十七日蘭側代表部ノ會議ニ於テ決定ノ上本日貴官ヨリ本官ニ何等回答アルヘシトノ事ナリシカ如何ト尋ネタルニ「ヘ」ハ昨日ノ會議ニ於

テハ何等決定ニ達セサリシ旨ヲ以テシタルニ付、越田ハ一昨日話シタル通り貴方ノ態度ニ付日本政府ヘ報告スルノ必要アルニ付至急決定セラレタシト云ヘルニ、首席代表トモ協議ノ上決定次第電話スヘシト答ヘタル後、實ハ「シヨート・ノート」ニ記載ノC項ニ付日本側ノ幹旋ヲ得サルヲ遺憾トシ居リ、右カ民間會商ニ於テ採用出來サレハ民間會商ヲ催スモ無意味ナリト思惟シ居ル次第ナリト云ヘルニ付、越田ハC項ハ結局民間協議トナルヘキ事項ニ付政府間ノ非公式話合ヒト爲サムトスルノミナラス、此種事項ニ關スル政府ノ關與ハ却テ營業者ノ態度ヲ硬化セシメ解決ヲ困難ナラシムヘシトテ來電ノ趣旨ヲ強調シタル上、右様ノ次第ナレハC項ハ如何ニスルモ之ニ同意スル事ヲ得スト答ヘ、

二、次テ日本政府ハ十月三日付當方ヨリノ對案中ニ記載シタル政府間ニ於テ協定スヘキ事項ノ討議ヲ遲滯ナク爲ス事ヲ必要トシ居リ、神戸會商ノ圓滿ナル進展ノ爲日本政府ノ採ラントスル幹旋ナルモノハ蘭側ニ於テ政府間ノ討議ヲモ爲スモノナリトノ期待ノ下ニ提供セラレタルモノナリ、本官ハ蘭側カ日本政府ニ依リ示サレタル好意ヲ「レシブロケート」シ、本件事項ニ關シ協議ニ入ラントスルモノナリヤヲ承知シタシト問ヘルニ「ヘ」ハ十月三日ノ日本對案ヲ取り出シ第二項ノ政府協議事項ニ付逐條的ニ意見ヲ述ヘタリ。

一、異議ナシ。

二、民間會商カ成功セサレハ此保障ヲ與フル事困難ナリ。

三、之ハ蘭側カ最モ重點ヲ置ク所ニシテ、之ヲ取締ランカ爲焦慮シツツアル次第ナレハ、之ニ同意ス

ルコト困難ナリ。

四、前項同様蘭印側トシテハ多大ノ困難アリ。

五、異議ナシ。

六、前記數項ノ決定カ先決條件ナリ。

七、異議ナシ。

八、蘭側ハ海運協定ト通商協定トハ同一期間ナルコトヲ必要トス。

越田ハ誤解ヲ避クル爲メ前記蘭側ノ意見ノ詳細ヲ書面ニテ提示ヲ得度キ旨ヲ申入レタル處、「ヘ」ハ之ヲ承諾セリ。

三、「ヘ」ハ日本側ノ「オブザーヴァー」問題ニ關スル讓歩及民間會商圓滿進展方ニ關スル斡旋保障並ニ目下ノ問題トナリ居レル日本船會社側ノ行動ニ關シ探ラレツツアル慰撫ニ付、謝意ヲ表スルト同時ニ一昨日ノ狀態ヨリ幾分變化ヲ見タル次第ナレハ此點ヲ具シテ首席代表ト早速協議ヲ爲スヘシト附言セリ、四、「ヘ」ハ何ノ途此懇談モ此處一、二回ニテ済ムヘク、日本側ノ對案ヲモ含ム報告ヲ作成シ、今週末前ニ首席代表ニ移シ度ト云ヘルニ付、越田ハ輸出入及比率ニ關スル我方ノ總括的提案ハ目下取急キ作製中ナルモ更ニ數日ヲ要スヘキ右ノ提案ハ兩首席代表會見ノ際長岡大使ヨリ提出スル事トシ、明日迄ノ懇談ノ狀況ヲ第二報告トシテ作成セハ割合簡單ナル事ヲ得ヘシト信スルカ如何ト云ヘルニ、「ヘ」ハ之ニ同意セリ、「ヘ」ハ語ヲ繼イテ結局兩首席會見ノ上本國政府ニ報告シ最後ノ決定ヲ仰クヨリ外ナシト信スト謂

ヘリ。

十一月二十九日越田「ヘ」會談。

「ヘ」ハ左ノ通り回答セリ。

(一) 蘭側ハ神戸ニ於テ海運業者ノ會商ヲ開催スル事ニ同意ス。

(二) 蘭側ハ「オブザーヴァー」ヲ右會商ニ參列セシムヘク、但シ此「オブザーヴァー」ハ單ナル傍聽者タルヘク討論等ニ容喙セサルヘシ。

(三) 日蘭兩政府ハ海運業者間ニ於テ成立シタル結果ヲ確認スヘク、右確認ハ兩政府カ各自國ノ當業者ニ對シ夫々之ヲ行ヒ、兩政府ハ相互ニ其確認事項ヲ通知スヘシ。

(四) 神戸民間會商ノ成功ヲ期スル爲メ日本總領事ハ日本當業者ニ對スル日本政府ノ斡旋ヲ保障シ、又蘭側ハ自國當業者ニ對シ同様斡旋スヘシ。

「ヘ」ヨリ蘭側ハ神戸ニ於ケル討議ノ前提條件トシテ基本原則案ヲ提出セシメ、日本側カ受諾セサル時ハ其後ノ討議ヲ爲サシメサルノ意アルヘキ旨ヲ述ヘタルニ付、越田ハ右ヲ如何ナル時期ニ提出セシメントスルヤト尋ネタルニ、民間會商ノ準備會(ブリタミナリ・セツシヨン)ニ於テ提出セシムヘシト云ヘルニ付越田ハ凡ソ會議ノ準備會ニ於テハ會議ノ準備的事務ヲ打合セスルモノナルヲ以テ、其際重要提案ヲナスハ異例ナルヘク、且ツ蘭側提案ノ先議權ヲ主張スルハ會商開始ノ一條件トモ見ルヲ得ヘク、日本當業者ハ之ヲ受諾セサルヘキノミナラス、今本官ト貴官トノ間ニ民間會商ノ「アヂエンダ」及議事方法ノ如キモノヲ

討議スルハ權限外ニシテ、此等ノ事項ハ民間會商自體ニ於テ決定スヘキモノナリ、從ツテ貴方ノ提案ハ本會議ノ席上提出スルコト本體ナルヘク、又如何ニ貴方ノ重要視スル基本原則ナレバトテ之ヲ「デクテート」スル譯ニハ行カサルヘク、一方日本側ハ例ノ五月ニ略々纏リタル規定ノ採用ヲ主張スルコトト思ハルルニ付、會商開催受諾ノ條件ナルカノ如キ觀ヲ呈スル基本原則案提出ノ件ハ政府代表間ノ問題トセサル事トシタシト云ヘルニ、「ヘ」ハ準備會ニ提出スル事ハ思ヒ止マルヘシト答ヘタリ。仍テ越田ハ此基本原則ノ呈示ニ付テハ會商受諾ノ條件ニ非サル事ヲ明ニスル爲、自分ヨリ日本側ヘハ正式ニ知ラシメサルヘシト述ヘタルニ、「ヘ」ハ之ニ同意スルト同時ニ右基本原則案ノ重要性ニ付左記ノ通り述ヘタリ。

(イ) 蘭側ハ假令通商ニ關スル協定成立スルモ海運協定成立セサルハ効力ヲ發セシメサル建前ナルガ、海運ニ關スル全般的民間協定ノ成立スルニハ多大ノ日子ヲ要スヘキニ付、蘭側トシテハ此基本原則ヲ包含スル協定カ短時日例ヘハ二週間位ニテ成立スレハ直ニ通商ニ關スル協定ト共ニ發効セシメントスル趣旨ニシテ、爾餘ノ詳細ナル海運取極ニ付テハ永引クモ差支無シ。

(ロ) 右基本原則不成立ノ際ハ、全般ノ海運協定及通商ニ關スル協定ヲモ不成立ナラシムル重大ナル結果ヲ來スヘキニ付、右基本原則案及説明ハ蘭側民間代表ヘ訓令ノ上ハ參考トシテ日本總領事ヘ送付スヘシ。

前記ヲ報告スル電報ノ末尾ニ我々ハ「本件基本原則案ノ條件的提出阻止方ニ關シテハ相當激論ノ上撤回セシメタル義ナルカ、蘭人ノ性質上愈々神戸民間會商開會ニ際シテハ如何ナル苦肉策ヲ弄スルヤ逆睹シ難キニ付

右經緯報告ス」ト特ニ註記シテ置イタ。

越田、「ヘルデレン」兩氏ハ約ニ從ヒ十二月十日迄ノ意見交換要領書ヲ作り之ニ署名セルガ、和蘭船會社側ハ「ヘ」ノ公約ニ拘ラス前記基本原則ノ承認ヲ日本船會社ニ要求シタ、否蘭代表部ハ「ヘ」ノ公約ヲ無視シ船會社ヲシテ右原則ヲ提出サセタ、之ニ關スル來電ハ左ノ通デアル。

十二月十日「コーレス」ハ突如本邦側四社ニ對シ本邦會社側カ基本原則ヲ諾スヘキ明確ナル聲明ヲ二週間以內ニナスコトヲ條件トシテJ社ハ神戸會商ニ入ルノ用意アルコトヲ通告シ來リタル處、右通告ニ對スル措置振目下當業者ニ於テ協議中。

而シテ蘭側ノ要求スル基本原則トハ左ノ如キモノデアル。

一、日本船會社即チ石原産業合資會社、南洋郵船會社、日本郵船會社及大阪商船會社トJ社トノ間ニ日本蘭印及蘭印日本間ノ貨物輸送ニ關シ、又前掲會社トK・P・Mトノ間ニ所謂通過貨物ニ關シ、協定締結セラ

ルヘキコト。

二、本協定ハ日蘭間ニ結ハルヘキ追加通商條約ノ有効期間存續スヘキコト。

三、「イ」船會社ハ以下ノ例外ヲ除キ、「マカツサ」及「ジャヴァ」以外ノ蘭領印度諸港ニ於テ、貨物ノ積卸ヲ爲ササルヘキコト。

「メナド」ニハJ社及日本郵船會社ノ所屬船舶寄港シ得ルコト。

「バダン」及「バレムバン」ニハJ社及南洋郵船會社ノ所屬汽船寄港シ得ルコト。

「バラワン・デリ」ニハ本會商諸會社船寄航シ得ルコト。

「バリク・ババン」及「オストハーフエン」ニハJ社船寄港シ得ルコト。

(ロ) 航海度數ハ相互協定ニ依リテ定メラルヘキコト。

四、協定ノ變更、運賃其他料金ノ改正變更ノ如キ本協定ニ關聯スル原則及重要性アル總テノ事項、本「ブル」協定ニ新會員加入許可ノ如キ日本蘭印間ノ運輸ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ナル總テノ事項、及他ノ船會社ノ競争ニ關シテ執ラルヘキ各措置ハ、全員一致ノ投票ニ依リテ決セラルヘキコト。

重要ナラサル其他ノ事項ハ、多數決ニ依リ決セラルヘキコト。

五、「トランプ」船貿易ニ關シ協定ニ達シ得ル爲、努力スヘキコト。

之ヲ圍繞シテ生シタル波紋ノ詳細ハ、委員會末期ノ經緯ト共ニ、一括記載スル方當時ノ事情ヲ闡明シ得ルト思フカラ、本項ハ是レデ擱筆スルコトニスル、而シテ神戸會商ガ日本側ノ提出ニ係ル用語問題ノ爲不調ニ終ツタコトハ周知ノ通りデアル、

二、陶磁器輸入制限令

昭和九年七月二十五日筆者ハ「ランネフト」代表カラ左記要領ノ如キ書翰ヲ受取ツタ。

家庭用陶磁器輸入ニ關スル暫定規則カ、蘭印總督令ヲ以テ布告サレシコトヲ通告ス。

本規則ハ三個月間ニ輸入シ得ル各種陶磁器ノ數量並ニ輸入商ニ與フル特許制及此特許ヲ享ケ得ヘキ主體ヲ

規定ス。

本規則ノ目的トスル所ハ、之ニ依リテ過度ノ輸入ヲ防止スルト共ニ、本貿易ニ從事セル現輸入業者ノ諸團體ガ市場ヨリ驅逐セラル、ヲ防止スルニアリ。

本制限令ノ實施セラル、ニ至リタルハ、蘭印ニ於テ日本陶磁器輸入業者組合ナルモノ設立セラレシ事實ニ基クモノナリ。

專門家委員會ニ於テ蘭代表部ノ質問ニ對シ七月十七日日本代表部提出ノ陳述書ニ徵スルニ、該組合ハ日本ニ於ケル同様ノ貿易ニ從事スル輸出組合ト最モ密接ナル關係ヲ有シ居ルカ故ニ、結局日本輸出組合ニ依リ支配セラレ、換言スレハ外國ノ勢力ニ依リ蘭印ノ輸入機構カ左右セラル、コト、ナリ、之ヲ默過スルコト能ハス。

斯カル外國勢力カ會商ノ途中ニ於テ働キツツアル事實ニ鑑ミ、蘭印政府ハ其將來執ルコトアルヘキ措置ガ前以テ阻害セラル、ヲ防止セントノ趣旨ヨリ、今次制限令ヲ發布シタルモノナリ。

從ツテ本令ハ特殊事態ニ對應スルヲ目的トシ、毫モ新ナル制限措置ヲ講シタルモノニ非ス、輸入許可數量ヲ一九三三年ノ實際數字ニ求メタルハ之カ爲ニシテ、又本令第二條A及B二種類ノ輸入業者ノ關係ハ同年ニ於ケル實際ノ情況ニ近キ樣定メタルコトヲ諒トセラレタシ。

然シ一九三三年度ノ陶磁器輸入量ハ餘リニ過剩ナリシ爲當業者ハ一九三四年春以來其低減ヲ協定済ニテ、又二條A及Bトハ夫ノ歐洲人商業組合四以上ノ加入者即チA級ニ輸入總量ノ六割、其他即チB級ニハ殘四割ノ

輸入權ヲ與ヘントスルモノデ、單ニ條理不徹底ナルノミナラス、假令實績ニ近キ場合ニモ第二條ノ如キハ主義上到底我々ノ承服出來ヌモノデアル。此「ジャヴァ」陶磁器輸入業者組合（先方書翰ニ「日本」トアルハ誤リニテ、組合ノ設立者ガ「ジャヴァ」ナル文字ヲ使用セルハ、會々本組合ノ目的ガ決シテ蘭側ノ評定スル如キモノニ非サルヲ示スモノデアル）設立ノ由來及現狀ニ付テハ、筆者カ東京ニ送ツタ左ノ報告ヲ闡明スルコト、思フ。

爪哇ニ於ケル本邦陶磁器輸入蘭商ハ本年四月十二日迄ニ伊藤箇別ニ歴訪シタル結果、蘭商全部ノ口頭ノ内諾ヲ得、正式加入ノ手續ハ英文定款作成ノ上ニテ之ヲ爲ス事トナリタルニ依リ、將來組合員ノ大多數タル邦商十四名ハ四月十六日不取敢「スラバヤ」ニ於テ創立總會ヲ開キ定款及統制規程ヲ作成シ、同時ニ一年ノ輸入總數量及期別輸入數量ヲ決定シ、次テ四月二十三日販賣價格ヲ決定シ輸入市場ノ統制ニ着手シタリ而シテ右組合ヲ邦人ノミニテ組織セル當初ヨリ蘭商側ニハ不絶通報シ置キタルニ何等異議ヲ申出テス、右組合創立ニ付テハ了解アリタルモノト推斷セラル、即チ邦人間ノ輸入組合ハ本代表日本出發前既ニ成立シ輸入統制ヲ實施シ居リ、本邦當局ニ於テモ推獎セラレタルモノニ有之（尙ホ華商全部十二名ハ七月十七日正式加入ノ手續ヲ了シタリ）

伊藤ハ重ネテ六月二十三日爪哇ニ到着スルヤ、蘭商ニ對シテモ四月以前ニ於ケル話合ニ基キ英文定款ヲ示シ正式加入ヲ勸誘シタリ。

然ルニ會商ノ結果蘭商ハ自己ニ有利ナル條件ヲ獲得スヘシトノ思惑ニヤ俄然態度ヲ一變シテ煮エ切ラサル

態度ヲ示シ、「ボルスミ」ノ如キハ明ニ會商終了迄加入ヲ見合ハス旨ヲ確言シタリ。

此ノ間蘭商及華商側ノ濫賣市場ニ續出シ、折角ノ我方統制ヲ案サントスルニヨリ、華商側ハ加入ノ上ハ此舉ニ出テサルヘキヲ明言シテ參加ヲ諾シタルカ、「ボ」ノ如キハ加入セサル以上全然自由ナリトノ態度ヲ示シ全ク邦商ヲ輕視シ居リタリ、茲ニ於テ伊藤ハ蘭商ノ參加諸否ノ意思ヲ明瞭ニ確知スルノ要ヲ認メ、文書ヲ以テ之ヲ確カメントノ意向ヲ有シ居リタル際、突然七月二十日附ヲ以テ蘭商側ヨリ進ンテ同文ヲ以テ組合加入絶對拒絕ノ回答ヲ送付越シタリ、他面阪神在留蘭商側ハ我輸出組合側ト會合シ全然從來ノ談合ヲ無視シ別ニ圓卓會議ヲ開ク事ノ申合ヲ爲シクル趣ナルカ、伊藤カ當地蘭商側ニ確メタル所ニ依レハ阪神方面ヨリ今日迄何等通報ニモ接セストノ事ナリ、此等ハ蘭人ノ特性タル「ダブル・プレー」ノ一例證トモ云フヘク、右ノ事情ヲ充分飲ミ込ミタル上ニテ、伊藤ハ獨リ「ボ」ニ對シ斯クノ如キ態度ニ出ツル上ハ我輸出組合ノ規約ニ依リ不賣ヲ爲スヤモ知レスト強ク出テタルモ、今日迄極力穩便ナル方法ニ依リ加入ヲ勸誘セントシ百方手ヲ盡シタルモノニシテ、當地邦商團結ノ力ヲ以テ脅迫的ニ出テタル事實ナシ。

本件ノ經過ハ如上ノ通りナルカ、代表部ノ關係セシハ六月代表旅行中「スラバヤ」ニ於テ蘭商側カ一方會商ヲ口實ニ前言ヲ食ミ、他方亂賣ノ事實ニ照シ、場合ニ依テハ制裁ヲモ仄カシテ組合成立ヲ促進セムトスル處、會商進捗ヲ妨害スル事ナキヤト組合側ヨリ意見ヲ求メタルニ對シ、木村ハ寧ロ此種組合ノ成立コン會商ニ有利ナル影響ヲ齎スヘク、邦商ノ結束統制力ヲ示ス上ニモ蘭商側從來ノ橫暴態度ニモ鑑ミ此際「ボ」ニ對シテ強ク出ツル事得策ナリト答ヘ置キタリ、其ノ後圓卓會議ニ關シ意見ヲ求メラレタルニ對シ、之ハ

蘭商側ノ慣用猾手段ニ外ナラス眞面目ニ取レハ輸出組合側ハ馬鹿ヲ見ルヘク、蘭商ノ態度ハ新制限令ノ實施ヲ見越シ相當蘭印政府側トモ裡面ニ聯絡ヲ取リテノ我利的立場ヨリノ策略ナルニ付、本邦營業者ニ於テ此ノ際結束ヲ固メ對戰ノ覺悟ヲ要スル旨說示シ、伊藤ハ其ノ旨電報セル筈ナリ、貴電ニ依レハ蘭商側ヲ無視シテ邦人輸入組合ヲ組織シ蘭側ニ參加強要セルモノトシテ代表部ニ於テ之ヲ支持シ責任凡テ邦商並當部ニアル様御考察ノ如クナルカ、之ハ全然事實ニ反ス、本件ニ關スル經緯ハ蘭代表部側ト巨商トノ聯契ニ依ル會商方針ト密接關係アルニ付詳報ス。

前記「ランネフト」代表ノ書翰ヲ受取ツタ筆者ハ同日附テ（二十六日朝發送）左ノ回答ヲ送り又二十八日ニ左記覺書ヲ送附シタ。

本日貴翰ヲ受取リタル余ハ非常ナル驚ヲ以テ之ヲ閱讀シタリ、貴翰ニモ援用セラレアル如ク會商進行中ナル何等ノ制限令ノ發布セラレサル事ハ本會商ノ圓滿ナル進行ニ最モ必要ニシテ、日本政府ハ之ニ重點ヲ置キタレハコソ、會商受諾ノ前提條件トシテ和蘭政府ニ保證ヲ求メ、其回答ニ満足シテ初メテ余ノ任命ヲ見タル所以ナリ。

今回發布セラルル制限令ハ其法文ヲ入手シ居ラサルニ付之ニ關スル當方ノ意見ハ後日ニ留保スヘキガ、貴翰ノ接到ト同時ニ「アネタ」通信ハ新制限令ノ發布セラレタルコトヲ報シ、日本代表部ノ議長タル予カ貴翰中ニ送附ヲ豫告セラレタル法令ヲ未タ接受セサルニ先チ既ニ該法令ノ摘要ヲ該通信社カ發表シ居ルハ、予ヲシテ今迄列席セル多數國際會議ニ於テ未タ嘗テ受ケタルコトナキ一種ノ雰圍氣内ニ在ルコトヲ自

覺スルノ已ムヲ得サル立場ニ在ルヲ悟ラサルヲ得サルニ至ラシメタリ。

陶磁器輸入組合問題ニ關スル是迄ノ經過並ニ我專門委員カ委員會ニ於テ述ヘタル諸件ニ付テハ別添覺書ニ於テ之ヲ詳述スルニ付、此等ノ事實ヲ知ラルルニ於テハ貴方ノ有スル情報カ如何ニ正確ヲ缺クカヲ自得セラルヘシト信スルガ、貴翰ニ宣明セラルルカ如ク右組合參加勸誘ヲ以テ新制限令發布ノ理由否口實トセララルコトハ當方ノ首肯シ得サル所ナリ、將又假リニ貴方ノ情報其儘トシテ若シ其實現カ蘭印ノ爲ニ危險有害ナリト看做サルル場合、何故ニ之カ矯正方ヲ先以テ當方ニ申入レラレサリシヤ了解ニ苦シム所ニシテ、双方ノ協議纏マル見込ナクナリシ場合ハ別トシテ、日本帝國政府ノ會商受諾ノ重要條件ヲ一言ノ撝撝モナク蹂躪セラレタルハ、獨リ我代表部ノミナラス帝國政府トシテ默視シ得サル所ナリト信ス。

我々ハ日蘭兩國ノ關係ヲ圓滿ニセンカ爲ニ當地ニ來リ、其折衝中貴方ニ於テハ一面日蘭双方ノ意見一致セス會商停頓スルノ虞アルニ於テハ制限令ノ發布亦已ムヲ得ストノ口吻ヲ漏ラサレ、他面日本ノ承諾シ得サルコトヲ知リツツ海運問題ヲ提起シ、爲ニ會商主題ノ商議遷延ラルルコトナレリ、是余ノ頗ル心外ニ感スル所ナリ、斯クノ如ク會商繼續中種々ノ口實ヲ設ケ蘭印政權カ拔打のニ勝手ニ各種制限ヲ發布シ得ルトノ立前ノ下ニ會商ヲ進メラレントノ趣旨ナルニ於テハ、余ハ此國際議禮ハ勿論國際慣例ニ反スル態度並ニ考察ニ付日本國ノ名譽ノ爲ニ到底之ヲ甘受スルヲ得サルニ付、此點ニ關シ明確ナル回答アラン事ヲ要求ス。尙ホ覺書ハ追テ送付ス。

覺書

日本代表部ハ長岡首席代表宛七月二十五日附「ランネフト」和蘭首席代表書翰記載ノ事項中蘭印輸入ノ陶磁器輸入制限令ノ公布實施ノ理由ニ關スル説明並ニ其基礎事實カ餘リニ真相ト掛離レ居ルコトヲ發見シ、和蘭代表部ノ欲スル正確ナル認識ヲ得ル爲ニハ真相ト事實ヲ説述シテ前記書翰中ノ誤解ヲ訂スコト、會商進捗並ニ日蘭經濟關係改善ノ爲最モ必要ナリト信ス、仍テ茲ニ第一ニ爪哇陶磁器輸入商組合設立經過ノ實情ヲ述ヘ、進ンデ書翰記載事項ノ誤謬ヲ指摘セムトス。

A、蘭印ニ於ケル日本陶磁器ノ不當競爭ト輸入超過ヲ防止シ、市場ノ安定並ニ價格ノ統制ヲ計ルコトハ日蘭貿易上相互ニ有益且ツ必要ナルコトニ鑑ミ、之カ目的達成ノ爲先ツ日本輸出組合側ト蘭印輸入業者側トノ協力ヲ必要トシ、之カ協力機關トシテ蘭印ニ於ケル日本陶磁器輸入業者全部ヲ網羅スル團體ヲ組織スルヲ適切ト認メ、本年二月二日迄ニ關係邦商間ニ諒解成リ、日本輸出組合側代表派遣方要請アリタリ。

右在留邦商ノ要請ニ基キ三月二十二日輸出組合代表伊藤理事來爪、蘭印内ノ日本陶磁器輸入業者（蘭、華商ヲ含ム）ニ輸入組合ノ目的、運用方法就中輸入數量自制的限定其割當ノ點ヲモ説明ノ上、組合組織方ヲ勸誘シタル結果、四月十二日迄ニ邦商、蘭商、華商全部ニ互リ組織贊同ノ口頭ノ内諾ヲ得タリ、但シ正式組織ハ英、漢文定款作成ノ上ニテ之ヲ爲スコトナリタリ。

如斯關係輸入商ノ内諾アリタルヲ以テ、先ツ輸入邦商ハ四月十六日不取敢「スラバヤ」ニ於テ創立總會ヲ開キ、前記下協議ニ基キ定款及統制規程ヲ作成シ、一應組合契約ヲ締結セリ、但シ右組織進行中ハ當初ヨリ不絶蘭商側ニ其經過ノ通報ヲ爲シ居タルニ不拘何等異議ヲ申出テサリシハ、畢竟全蘭印輸入商組合結成

ノ過渡的段階タリト十分ノ了解アリタルモノト推斷セラル。

次テ五月二十日英文定款成ルヤ輸入組合書記長ヲシテ六月十日迄ニ蘭商全部ヲ各二回宛訪問セシメ、組合組織完成ノ爲參加方勸誘シタルモ埒明カサル爲、伊藤理事ハ重ネテ六月二十三日来爪シ、英文定款案モ成リタル事故四月ノ約束履行アリ度キ旨申入レタリ、（七月十七日華商全部ハ四月ノ約束通り正式組合參加ヲ表明シタリ）、然ルニ七月七日一蘭商ハ日蘭會商終了迄加入セサル趣ヲ以テ伊藤理事ノ勸誘ヲ拒絕シ次テ七月二十日ニ至リ關係四蘭商ハ文書ヲ以テ組合組織參加ヲ拒絕シ來リタリ。

如斯蘭商ハ四月ノ談合ヲ無視シタルノミナラス、從來價格維持ニ協力シ居リタル蘭商ハ、三月下旬ヨリ俄然申合セタルカ如ク自由ノ立場ニ據リ協定價格ノ下潛リヲナシ市場攪亂ヲナシ今日ニ及ヒタリ。

B 一、前記書翰第四項ニ於テ陶磁器輸入制限令ノ目的ハ第一ニ過剩ナル輸入ヲ阻止スルニ在リト陳ヘラレタル處、輸入商組合コソ正シク右ノ目的ヲ達成スルコトヲ主要目的トスルモノナルコトハ何人モ疑ハサル所ナリ。

又同項ニ於テ陶磁器輸入制限令ノ目的ハ第二ニ此特種産業ニ從事スル現存輸入業者カ市場ヨリ驅逐セラルルヲ防止スルニ在リト陳ヘラレタルカ、本組合ハ正ニ國籍ノ如何ヲ問ハス關係輸入業者全部網羅加入セシムル目的ヲ以テ組織セラレタルモノニシテ、該組合カ右關係業者ヲ除外セントスル趣旨何處ニモ見出し得ス。此ノ故ニ蘭印政府ノ企圖スル目的ハ全然本組合ノ組織ニヨリテ最モ自然ニ且ツ有効ニ達成セラルヘキモノト云ハサルヲ得ス、果シテ然ラハ本組合成立ヲ以テ蘭印政府ノ目的ニ背反スルノ理由ヲ以テ新制限令

ヲ公布セラレタルハ正ニ推理ノ顛倒ニ非サルカ、本代表部ガ蘭印政府ノ意圖ニ付了解ニ苦シム所實ニ茲ニ存ス。

二、前記書翰第五項ニ記載ノ“Japan pottery Importers' Association”ナル語々“Java pottery Importers' Association”ノ誤ナル事ヲ指摘セントス、從テ毫末モ邦商ノミノ組合組織ヲ目的トスルモノニ非ラスシテ、全蘭印輸入商ヲ以テ一團トスル組合完成ヲ目標トスルモノナリ。

三、次ニ日本代表部ノ最モ奇異ニ感スル點ハ、前記書翰第七項ニ於テ日本專門家ノ説明ヲ引用シテ直ニ「輸入商組合ハ輸出組合ニ隸屬シ、其結果蘭印市場ノ輸入機構ハ外國ノ勢力ニ依リ支配セラルルニ至ルヘシ」トノ推論ヲ下サレタル事はレナリ、抑々今日蘭品市場ノ攪亂ヲ防止シ其「スタビリゼーション」ヲ期スル最モ實際的ニシテ且ツ最モ進歩的ナル手段トシテハ、輸出輸入兩組合ノ聯絡協定ヲ最良トスル事ハ、各國政府ノ獎勵シ世界各處ニ實行セラルル處ニヨリテモ明ナリ、輸入制限ノ必要ヲ喚起スル要因即チ市場攪亂ヲ排除スル最モ自然且ツ有効ナル手段ハ實ニ此輸出入組合間ノ自主的統制ニアリ、然ルニ右輸出入組合聯絡統制協力ヲ目シテ一方カ他方ニ隸屬スル關係ナリトノ推論ハ吾人ノ全ク理解シ得サル點ナリ、況ンヤ先ツ輸入關係業者ノ利益擁護ノ爲關係者全部ヲ網羅シテ強固ナル組合ヲ作り、輸出組合即チ外國勢力ト對立均等ノ地位ニ於テ協力共存ヲ企圖スルモノナルニ於テヲヤ。

斯カル機關ノ成立ハ兩國政府カ進ンテ之ヲ幫助スヘキ理由アリトモ之ヲ排斥スヘキ理由ナシ。

四、又前記書翰第八項ニ於テ輸入商組合ノ計畫ハ蘭印側將來ノ措置ノ妨害トナルモノト考ヘ、新措置實施ニ

至リタリト説述シ居ルモ、右ハ甚タシキ曲解ナリト云フヘシ。

惟フニ本計畫ハ會商開始前ヨリ輸出入兩當業者間ニ計畫セラレタル事ニ屬シ、而モ當業者ノ利益調節ノ爲當業者間ニ接衝ヲナスノ例ハ近ク「セメント」協定ニモ見ルヲ得ヘシ、若シ日蘭經濟關係カ如斯當業者ノ發意ニ依リ自主的ニ調整セラルルトセハ、斯カル計畫コソ利害ノ圓滿ナル解決ヲ計ル爲進ンテ選擇サルヘキ第一ノ方法ナリト思料セラル。

五、前記書翰第十五項ニ於テ斯ル新措置ニ出テシコトハ國際慣例ニシテ且ツ會商進捗ノ良好ナル空氣ヲ維持スル所以ナリト陳述セラレ居ル點ニ關シテハ、日本代表部ハ右新措置ノ結果カ全然反對ノ空氣ヲ作レルコトヲ指摘スルニ止メ、之レ以上兎角ノ言辭ヲ弄スルコトスラ差控フルカ賢明ナリト思惟スルモノナリ。

蘭側ニ對スル抗議並ニ對策ヲ離レ、筆者トシテハ蘭側今回ノ傍若無人ナル措置行動ヲ日本代表部否日本帝國ニ對スル侮蔑的表示ト看做サ、ルヲ得ヌ、從ツテ其責任ヲ痛感シ左ノ電報ヲ廣田外相ニ送ツタ。

事茲ニ至リシ點ニ付本使トシテ遺憾ノ念ニ堪ヘス、衷心責任ヲ感シ居レリ。今日迄蘭印側ノ威壓ト不誠意ニ對シ陰忍自重、會商遷延ノ責任ヲ先方ニ歸シ、會商進行ノ爲當方ヨリ何時公表スルモ耻カシカラサル提案ヲ爲シ先方ノ出方ヲ俟チ居リタルカ、終ニ今回ノ如キ組合成立ノ瑣事ヲ口實ニ、會商ノ相手ヲ目前ニ控ヘナカラ抜打的ニ新制限令ノ一部ヲ實施シ我方ノ面目ヲ踏附ケタル態度ヲ見ルニ至テハ、是等該法令ノ内容詮議ノ問題ニハ無之、國際信誼ノ問題ニ屬シ、不取敢嚴重抗議シ置キタルモ、本省ニ於テモ海牙ニテ同様抗議有之ヘクト拜察ス、乍去蘭側ノ回答ハ從來ノ遺口ニ徴シ詭辯ヲ弄スルニ止マリ何等埒明カサルハ豫

想ニ難カラス、從來當地ニ於ケル總領事ト蘭印政府トノ交渉ハ常ニ相手ヲ蔑視スル態度ヲ以テ前言ヲ食ムコトハ常習ニ屬シ、全ク今回ノ遣口ト同様ナリ、從テ今後ノ一切ノ對蘭印接衝上ニ要影響ヲ及ホス本件ノ如キハ此儘泣寢入ニ附シ得サル儀ト愚考ス、就テハ本使ノ今後ノ措置ニ付御指圖相仰キタク、尙ホ本使一身ノ如キハ問題ニ無之、場合ニ依テハ一時本會商ヲ停止シ別人ヲ以テ新ナル交渉ヲ別ノ手續ニテ開始セラルコトモ局而展開ノ一方法ナリト考ヘラル、御參考迄申添フ。

筆者ハ更ニ事態ヲ闡明スル爲左記ノ電報ヲ發シタ。

(一) 今回ノ措置カ單ナル陶磁器問題ニ止マラス五十六種制限令ノ漸次的公布ノ前觸タル事ハ、蘭印代表部カ最近頻リニ見越輸入數量調査ニ狂奔シ、前記來翰中ニモ暗示ニ類スル文句存スル處、右ハ未晒綿布ニシテ、晒制限令ノ結果該品ノ需要激增ヲ來シ、之ヲ蘭商ノ有利ナル割當ノ下ニ買占メムトノ魂膽ナリ即チ晒以外綿布ノ新制限令發布ノ前觸ナル事ニ深甚ノ注意ヲ拂ハレタシ、從テ今回ノ新制限令ノ抜打的公布ハ其影響スル重大ニシテ、決シテ泣寢入ニスヘキ問題ニ非ス。

(二) 右ノ如キ蘭印側ノ態度仕打ニ對スル我方ノ對策ハ目下御考究ト存スルモ、民間側ノ結束亦最モ急務ナリ、在爪哇輸入商側ニハ夫々警告ヲ與ヘ置キタルカ、最モ大切ナルハ本邦ノ製造家及輸出業者ノ態度ナリ、現ニ陶磁器ノ輸入數量ノ如キ一九三三年基礎ヲ聲明シ、僅三ヶ月ヲ限り該年度實數ヨリモ少シク割高、更ニ組合側ノ自制輸出量ヨリ遙ニ多ク、輸入超過ヲ理由トシテ制限ヲ主張セル蘭印政府ノ遣口トシテハ奇怪千萬ナリ、然シ朝令暮改馴合ノ巨商共ノ御都合次第ニテ如何様ニモ改變セサルヘキ事ヲ欽込

ミ置カサレハ更ニ打撃ヲ受クル事明白ナルヘシ、唯目前ノ輸入數量増加ノ狡策ニヨリ邦人輸出商ヲ操縱シ、資格制限ニヨリテ輸入商ヲ叩ク例ノ「ダブル・プレート」タル事推測ニ難カラス、本邦輸出業者カ再ヒ蘭商ニ翻弄セラレサル様政府ヨリ嚴重ニ警告シ、獨リ陶磁器營業者ノミナラス他ノ重大輸出商ニ於テモ同情的結束ヲ固メ、對抗スルノ氣運ヲ早メニ作り置カルル事必要ナリ。

(三) 此ノ際陶磁器ノミナラス他ノ輸出業者ニ於テモ組合ノ裏切者ヲ出ス事最モ警戒ヲ要ス、「サロン」輸出業者ノ悲壯ナル決議ノ裏ニ、最近「バンドン」方面ノ「サロン」工場（「インター」所屬）ニ阪神方面ヨリ私カニ機械ヲ買入レ「サロン」織機ノ一職工長ヲ社員名義ノ旅券ニテ入國セシメ、機械組立ニ從事セシメ、日本人及領事館トモ交通ヲ禁止シ居ル事實アリ、（右裏面ノ邦商目下探查中）産業統制法ノ勵行此ノ際必要ナリト思考ス。

(四) 蘭印政府カ今回抜打的ニ陶磁器輸入制限措置ヲ執ルニ至レル裏面ニハ種々ノ事情伏在シ居ルモ、就中現在蘭商ハ本品ノ在庫量僅少ノ爲困リ居ル實情ナレハ、之ヲ救フ爲先ツ一見近親視者流ノ喰付キ易キ比較的好條件ノ措置ニ依リ多量ノ陶磁器ヲ輸入セシメ、相當量ノ滯貨ヲ生セシメタル頃合ヲ見極メ、斷然邦商壓迫ノ舉ニ出ラントスルモノノ如ク察セラル、既ニ御承知ノコトトハ存スルモ内地營業者御指導ニ當リ此ノ點何等參考迄。

廣田外相ハ在蘭武富公使ニ左記ノ電報ヲ送ツタ。

一、在「スラバヤ」營業者ノ輸入組合案自體ハ彼我關係業者双方ノ利益ノ爲考案セラレ、其設立以前ヨリ

蘭商ト聯絡ヲ保チ來レル次第ハ、極メテ明白ナル事實ナルノミナラス、在本邦蘭商側ニ於テ日蘭營業者共存共榮ニ立脚スル此種措置ニ對シ同一ノ步調ヲ取り居ル次第ハ、既電ノ通りナリ、然ルニモ拘ラス本月二十日蘭印ニ於ケル蘭商全部組合加入ヲ拒絕シ來レル所以タルモノハ、今次會商ヲ有利ニ轉回セシメントスル蘭印政府ノ入智惠ナルヘキコト、恰モ「ブール」問題ニ對シ同國政府ノ態度ト軌ヲ一ニシ居リ折角彼我營業者間ニ何等話合ヒノ着ク段ニ至リ、右様政府カ飛入りテ之ヲ打チ壞ハスカ如キハ、「ラ」カ長岡代表宛覺書中ニ繰返ヘシ居ル所謂「會商ニ有利ナル空氣ノ醸成」ト正反對ノ行方ニシテ、我方トシテハ先方代表部ノ真意果シテ奈邊ニアルヤヲ解スルニ苦ルシム次第ナリ。

二、況ヤ今次陶磁器輸入制限令自體會商中新制限令ヲ出サズトノ諒解ニ背反シ、我方トシテハ之レヲ甘受シ得ル限リニ非ス、我方營業者モ異常ニ憤激シ居リ、目下頻リニ對策考究中ニシテ、(委細別ニ電報スヘシ)本件ハ或ハ組合設立ノ趣旨ニ關スル先方ノ誤解ニ出テ居ルヤニ思考セラレ、此ノ際蘭印側ニ於テ事態ヲ靜視シ會商促進ノ爲右制限令ノ撤回乃至ハ其適用ノ一時的停止等ノ措置ニ出テ、以テ彼我感情ノ融和ヲ計リ會商ヲ正道ニ引キ戻スコト急務ナリト思考ス。

三、貴官ハ至急外相又ハ拓相ニ面會ノ上、以上ノ趣旨可然御提述相成ト共ニ、産業部長ガ貴官ニ逡ヘタル「蘭印側新規措置ハ今後植民大臣ノ許可ヲ要スヘキコト」トナシタル點ニ關聯シ、今次措置カ同省ノ許可ナクシテ爲サレタルモノナラハ、至急之レカ不許可方又若シ其許可ノ後ニ爲サレタルモノナラハ前記ニ冒頭ノ諒解ト齟齬スル次第ニ付、至急前述二、末尾ノ如キ是正方先方ニ於テ特ニ手配相成度旨適宜要請

ノ上結果回電アリタシ。

前記電報ノ引續キトシテ左電ハ武富公使ニ發セラレタ、括弧内ハ當時筆者カ此電報ヲ讀ミナガラ記シタモノデ、東京ト見方ノ相違點ヲ闡明スル爲、之ヲ其儘掲ケル。

前電二、ニ關シ

七月二十七日日本省ニ於テ通商局長、商工次官、陶磁器業者代表ト會見、意見ヲ交換シタルガ、其席上營業者側ノ語レル所大要左ノ通り

一、蘭印ニ陶磁器輸入組合ヲ設立シ當方ノ輸出組合ト協力シ輸出統制ノ爲本年度蘭印向輸出ヲ昨年度ノ七割ニ減シ、(之ヲ二期ニ分チ第一期ハ其七割ヲ、第二期ハ残り三割ヲ輸出スルコトス)既ニ第一期中相當數量輸出セラレタルハ事實ナリ、將又營業者中申合セニ違反シ輸出シタルモノアルコトハ遺憾トシ之ヲ認ムルモ、抑々ノ主旨ハ自發的ノ制限ニ依リ日、蘭、華關係業者ノ共存共榮ヲ目的トシタルニ外ナラズ。

二、然ルニ今回突如蘭印側ガ制限令ヲ發スルニ至レルハ蘭商ニ於テ伊藤及其他ノ在留邦人ノ行動ヲ誤解シ又ハ其間多少感情ノ阻隔モ加リ蘭印政府等ヲ動カシタルモノナラント思考セラルトコロ、本邦ニ於ケル蘭商ハ本邦輸出組合ノ趣旨ニ同意シ一致ノ行動ニ出ヅルコトヲ約シタルコトハ事實ナルガ、日本ト蘭印トノ間ニ何等カノ手違ヒアリ、今次ノ結果ヲ生シタルモノナルベシ。(我々ハ手違ヒナリトハ思ハズ、蘭側ノ「所謂ダブル・ブレイ」ト見ル方正鵠ナリ。)

三、現在制限令發布セラレタル以上ハ先ヅ之ガ撤廢ヲ希望スルハ勿論ナルモ、若シ先方ガ直ニ撤廢ヲ肯セザル場合ハ、右問題ガ専門委員會ニ提出セラレタル事項ニ關係モアリ、兩政府代表部及日蘭双方當業者會合懇談ノ上其誤解ヲ正シ、何トカ打開ノ道ヲ講シ、先方ノ自省ヲ要求スルコトハ如何ナルベキヤ、(迂遠ノ極ナリ、専門委員會云々ハ先方之ヲ口實トナセルニ過キス、談合ハ無意味ナリ)、而シテ右會合ニ依リテモ兩者間ニ話合成立セザルニ於テハ(斯クノ如キ取扱振ニテハ其間蘭商ハ多量ノ「ストツク」ヲ得ヘシ)當業者最後ノ腹ハ不賣ヲ決行シ先方ノ措置ニ對抗スルノ決意アリ、但シ右制限令ハ存續スルモ、ソノ輸入割合等緩和セラルルニ於テハ不賣迄ヲ爲スノ意無シ。(緩和トハ何ヲ意味スルヤ、將來ニ對スル保障即チ現制限ノ比率ヲ變更シ、之カ維持ノ保障コソ第一要件ナリ、然シ今ハ内容ヲ論スル時期ニ非ス不賣ヲ斷行シテ反省ヲ求ムヘキナリ)。

四、自分等ガ鮮ナカラザル犧牲ヲ忍ビテ迄モ斯カル決心ヲ爲シタル理由ハ、陶磁器ハ曩ニ蘭印側ノ採ラントセル五十六品目制限令案中最初ニ槍玉ニ擧ゲラレタルモノニシテ、蘭印側ハ同種措置ヲ漸次他ノ五十六種ノ品目ニモ及ボサントスルノ下心アルヤニモ察セラルルニ付、之ヲ牽制スルノ意味ニ於テモ我國策ニ貢獻スルトコロアルベシト思考シタルガ爲ナリ、右不賣ノ決心ニ付テハ既ニ二十六日名古屋ニ於テ決議濟(此決議ノ實行ハ前項ノ道行ヲ經テ初メテ爲サル、モノナリヤ)。

五、官廳側ヨリ「愈々ノ場合ニハ前記輸入組合ヲ解消シ本邦輸出組合ノミニテ目的ヲ達成スルコト可能ナラズヤ」ト訊シタルニ對シ、輸出組合ヲ關係業者ノスベテヲ網羅シ完全ナル統制ヲ行ヒ得ル強力ナルモ

リトセバ、輸入組合無クテモ差支ヘ無キ次第ナルモ、其際ニ於テモ「アメリカ」ニ於ケル實例ノ如ク單ナル情報交換ノミヲ目的トスルモノトシ、之ヲ存續セシムルコトモ又一案ナルベシ。

右ニ對シ官廳側ハ「蘭印政府ハ既ニ「コムミニケ」ヲ出シタル次第ナルヲ以テ、我方モ其從來ノ經緯ニ關シ同様聲明ヲ發表スベキコト及萬一事態更ニ惡化シ不賣實行ノ必要起ルニ於テハ政府トシテハ輸出許可ノ制度ヲ設ケ之ニ對抗スルコトモ爲シ得ザルニ非ズ」トノ意嚮ヲ漏シオキタリ、(少シク悠長過キル如ク思ハル)。

右ニ從ヒ武富公使ノ爲シタル交渉報告左ノ通り。

七月二十八日外務大臣ヲ往訪シ貴電一、及二、ヲ説述シタル後、新制限令ノ發布ハ本使モ之ヲ知リタル時ヨリ甚タシキ約束違反ト考ヘ居レリ、斯クノ如ク蘭印側ニテ非常事態ニ藉口シ約束違反ヲ防衛手段トシテ正當化スルカ如キ態度ヲ採ル様ニテハ、今般ノ會商進行上ニモ不安ヲ感セサルヲ得ス、殊ニ輸入組合ノ成立云々ノ理由ノ如キハ事實ヲ曲解乃至誤解シタル言分ト認メ居レル處、昨夕訓令ニ接シタル次第ナルカ、先ツ右ニ關スル貴見ヲ訊シ置キ度ト切り出シタルニ、大臣ハ會商前約束アリタルコトハ勿論其ノ通りナルカ、日本政府トハ言ハサルモ日本商人カ右政府間ノ約束ヲ知リテカ知ラヌデカ盛ニ蘭印ヘノ輸入數量ヲ増加シ居ル事實アリ、右ハ買ハネハ賣ル譯ニモ行カヌ商賣關係故蘭商モ同様ノコトアリシナランモ、免二角獨リ陶磁器ト言ハス他ノ商品ニ付テモ見越シ輸入額莫大ニシテ、一説ニハ今後二年分位ノ持越シアリト聞ク。

尤モ自分ハ専門家ニアラサル故専門的ニ反駁サレテハ困ルカ、大體如斯狀態トナリテハ蘭側トシテハ往日ノ約束モ取消シ度キ氣持ニナラサルヲ得ス、殊ニ在蘭印日本人輸入商カ蘭印市場獨占ヲ企圖スルカ如キ組合ノ組織ナルニ至リテハ、蘭印當局モ急遽此種ノ手段ニ出テサルヲ得サルヘク、此事情ヲ諒トセラレ度ト答ヘタルニ付、本使ハ見込輸入云云ハ恐ラク會商ノ専門家委員會ニテ研究中ノ事項ノ一ナルヘク自分ハ専門的的反駁ヲ求メラレテモ材料ノ持チ合セ無キモ、組合ノ設立ノ事情ニハ少クトモ蘭印側ニハ大ナル誤解アリト信ストテ、本邦ノ輸出組合カ在本邦蘭商トモ聯絡シツツ對蘭印陶磁器輸出ノ調整ヲ計ル爲賣値、數量等ノ關係上蘭印ニモ日蘭支輸入商ヲ網羅シタル輸入商組合ヲ作ラシメントセル誠意アル協調的自制的ノ計畫カ在蘭印商側ノ反對ノ爲頓挫シ、或ハ見様ニ依リテハ蘭印市場獨占ノ企圖ノ如ク見ラルル形トナリタル迄ニテ、斯カル組合成立シタリトテ本邦輸出組合カ蘭印輸入ヲ此組合ニ獨占セシメヌ限リ獨占シ得ラルルモノニアラス、若シ通商戰トモナリ居レハ兎ニ角、現ニ交讓妥結ヲ旨トセル會商進行ノ時代ニ於テ、我政府ニハ輸出組合ニ對シ此種ノ獨占ヲ強制スル意向スラナキハ明カナルニ付、何等蘭側ニテ脅威ヲ感セラルルコトハ無カルヘク、總シテ蘭印側ニテハ邦商ノ進展ヲ政府ノ後援支持ノ下ニ行ハルル組織的侵略ナルカノ如ク見ラルル傾向アルモ、多クハ疑心暗鬼ノ結果ニシテ、殊ニ本件ノ如キハ曲解ナラスハ誤解ナル所以ヲ説明シ、尙ホ長岡代表カ「ランネフト」代表ニ與ヘタル長文ノ覺書要旨ハ月曜頃迄ニ「ノート」ニシ差上ヘキニ付、組合設立ニ伴フ誤解ハ之ニテ一掃セラレ、蘭印政府ヲシテ新制限令ノ撤回乃至ハ其適用ヲ會商終了迄延期セシムル様御配慮ヲ得度必要ナラハ本使ヨリ拓相ニ直接説明スルモ可ナリト力説シタルニ、

大臣ハ自分トシテハ右カ貴説ノ通り蘭印側ノ誤解ナルコトヲ望ムモ、在蘭印日本輸入商組合ナルモノガ全然市場支配ノ意向スラナカリシ如キ説明ニハ諒解出來ヌ點アルモ、「ノート」ヲ研究シタル上何分ノ確答ヲ爲スコトトシ度シ、又今日ノ事態ハ拓相ニ説明セラルル迄モ無ク明カナラスヤトテ、幾分當惑ノ色ヲ示シ拓相モ實ハ十日程前ヨリ休暇ニテ外國ニ靜養中ナルヲ以テ、本件ハ多分知ラサルヘシトテ消息ヲ洩ラシタルニ付、本使ハ貴官ノ日蘭親交ノ増進ト會商ノ成立トヲ希望セラルル誠意ニ信賴シ、本件ハ貴大臣ノ配慮ニ依リ、帝國政府ノ要望達成ヲ計リ度キ處、今次蘭印側ノ新措置カ蘭國政府ノ了解ナシニ行ハレタリトハ如何ニシテモ考ヘラレス、其間ノ事情ヲ承リ得ルヤト訊シタルニ、大臣ハ外務省トシテハ發令迄ハ承知セサリシコトナルモ、斯カルコトトナリハセヌカトハ思ヒ居リタリ、實ハ今次ノ措置ヲ何等ノ豫告モ相談モ無シト言ハルモ、會商委員會等ノ席ニテ數次警告的言辭ヲ貴方ニ發シアル筈ト自分ハ承知シ居レリト稍曖昧ナル辯明ヲ爲シタルカ、同時ニ自分ハ會商ノ圓滿ナル進行妥結ヲ希望スル餘リ船舶問題ニハ妥協案スラ提出シタル次第ナルカ、日本政府ノ強硬ナル反對ヲ受ケ痛措ニ堪ヘヌ故、過日貴官トノ會談後同案ニ付テ「バプスト」公使ニ廣田外務大臣ト直接會談今一應諒解ヲ求ムル様電訓シ置キタリ、自分ハ此ノ際ニツノ困ツタ問題ヲ同時ニ取扱ハネナラヌヲ遺憾トスト述ヘ居リタリ。

右電報ノ轉送ヲ受ケタル我々ハ詳細ノ情報ヲ供給シ置クノ必要ヲ認メ、左記二電ヲ武富公使ニ發シタ。

(其ノ一電)

二十八日貴公使外務大臣ト會談ノ際同外相ハ兎ニ角獨リ陶磁器ト言ハス他ノ商品ニ付テモ見越輸入額莫大ニシテ云々ト述ヘ、今次陶磁器輸入制限令ノ實施力如何ニモ同品ノ見越輸入ニ基因スルモノナルコトヲ主張シ居ル處。

一、右ハ全ク事實ニ反ス抑々一九三三年ニ於ケル蘭印ヘノ陶磁器輸入總數量(制限令ノ適用ヲ受クルモノ)ハ約六萬噸(中日本ヨリノ輸入量約五萬四千噸)ナリシヲ以テ、蘭印市場ニ於ケル本品ノ過剩ヲ防止スル爲茲ニ輸入組合ヲ組織シ、蘭商、日本輸出組合トモ慎重協議ノ結果一九三四年ノ輸入量ヲ約三萬五千噸ト確定シ、右ハ寧ロ前年ニ比シ約一萬九千噸ノ輸入量ノ減少ヲ計ラントシタル次第ナルニ付、蘭側ノ主張スル陶磁器ノ見越輸入額莫大云々ノ言ハ虛構モ甚タシキコトト思考ス、加之前年度ノ輸入實數ニ基クヘシトノ先方説明ニ則リ今次制限令ニ依ル三ヶ月ノ輸入許可量ヲ一年ニ引延セハ、實ニ約六萬一千噸ト云フカ如キ過大量トナリ過剩輸入ヲ防止セントスル蘭側カ却テ本令實施ノ目的ニ背馳スル過大ノ輸入量ヲ認ムルカ如キ矛盾ヲ自ラ容認セントスルハ頗ル不可解ナリ、(過大ノ輸入量ヲ認メントスル蘭側ノ魂膽ニ付テハ本代表發大臣宛電報御參照アリタシ)。

二、次ニ陶磁器以外ノ他ノ商品ノ見越輸入云々ニ付テモ亦事實ニ反ス、若シ先方カ蘭印ニ於ケル未晒生地ノ見越輸入ニ付云々セル際ハ「右未晒生地綿布ニ付テハ最近相當ノ輸入ヲ見ツツアルモ、右ハ蘭印カ曩ニ實施セル「キャンブリック」及「サロン」輸入制限措置ノ結果、蘭印市場ニ於ケル「サロン」ノ原料品タル「キャンブリック」ノ市價昂騰ヲ招來シタルモ、其製品タル「サロン」ノ市價ハ之ヲ引上ケ得サル實情ナルヲ以テ、「サロン」業者ハ廉價ナル生地未晒綿布ノ使用ニ轉向シタル爲、其需要増進ヲ招致シ、日蘭商トモ其輸入量ヲ増加シ來レル次第ニシテ、斯カル原因ヲ作レル責コソハ寧ロ晒制限令ヲ發布シタル蘭印政府側ニ在リト言フヲ得ヘシ」トノ趣旨ヲ述ヘラレ之レヲ反駁セラレ度シ。

三、更ニ「今次ノ措置ヲ何等ノ豫告モナシニト謂ハルルモ、會商委員會等ノ席上數次警告的言辭ヲ貴方ニ發シタル筈ナリ」云々ト言ヘルモ、斯カル事實全然ナシ、即チ本代表發大臣宛電報二十五日附「ラ」ノ來翰中ニ初メテ今次措置ノ公布及實施ヲ通告シ來レルモノニシテ、事前ノ警告嘗テ無シ、尙ホ本件ニ關シ先月二十七日第二回一般委員會席上「ラ」ハ蘭印側トシテハ寧ロ將來執ラントスル諸般ノ制限措置其ノモノヲ本會商ノ議題トスル意向ナル旨ヲ主張セルニ對シ、本代表ハ右ノ如キ諸般ノ措置其ノモノニ付商議スル爲來レルモノニ非ス、日蘭兩國間ニ存在スル種々ノ懸案的具體問題一切ヲ根本的ニ討議セントスルモノナル旨強硬ニ主張シ、「ラ」ノ所說ヲ反駁シタル經緯アルモ、右ハ前記ノ警告トハ別問題ナリ、右何等御參考迄

(其ノ二電)

蘭側ニ於テハ問題ノ爪哇陶磁器輸入商組合ノ組織ニ依リ邦商カ蘭印市場ノ獨占ヲ企圖スルカ如キ感ヲ懷キ居ルモノノ如キモ、實ハ右組合ノ組成ニ當リテハ邦商側ハ左ノ諸點ニ付テモ特ニ蘭商側ノ利益ヲ考慮シ居ルノ明白ナル事實有之ニ付、右不取敢何等御參考迄電報ス。

一、前記組合既加入者ハ邦商員數一九(出資口數四五)及華商一二(口數一二)ナルカ、尙ホ蘭商六ニ對シテハ口數二〇ノ豫定ニテ又土人商ニ對シテハ員數三及口數三ノ如キ豫定ニテ、夫々加入方勸誘ノ筈ナリシ

ナリ、而シテ同組合定款（邦英兩語定款郵送セリ）ニ依レハ、各人ハ十口迄ハ任意之ヲ有スルコトヲ認メラレ又右口數毎ニ一個ノ議決權ヲ行使スルコトナリ居レル處、總會議決ノ成立ニハ出席者ノ議決權總數ノ三分ノ二以上ノ贊成ヲ要スルカ故ニ、如何ナル場合ニ於テモ邦商カ議決權ヲ獨占專行スルカ如キコトハ之ヲ防止シ得ル仕組ニナリ居レリ。

二、蘭商取扱割合ノ決定ニ付テ、蘭商ニトリ最モ有利ナル年度タル一九三三年ノ輸入總量ニ對スル取扱割合三二、九%ヲ基礎トシ、之ヲ更ニ有利ニシ一九三四年度ニ於テ三五%ヲ與ヘントシ居ルヲ以テ、邦商カ市場獨占ヲ目論ムカ如キハ何等根據ナキ說ナリ。

七月三十日筆者ハ廣田外相カラ左記ノ電報ヲ受取ツタ。

一、今回ノ陶磁器制限令ニ付テハ充分先方ノ反省ヲ促スノ要アルハ勿論ナルモ、其内容ニ付テハ輸入總量ヲ一九三三年度ニ採リタル點ハ之ヲ認メ差支ナク、唯問題トナルハ邦商取扱ヒ量割當ナルカ、元來邦人組合側ハ既報ノ通り右輸入總量ヲ昨年度ノ七割ニ減シ、其中五割五分ヲ彼等ノ手ニ獲得セントスルモノ、即チ一九三三年輸入總量ノ三割八分五厘ヲ以テ満足セントスル次第ニテ、貴電ニ依ルモ今回ノ制限令ニ依ル取扱量トノ差僅少ニテ、從テ此ノ際先方カ突如右制限令ヲ發布セルハ專ラ蘭印側ノ誤解ニ基クモノト推察セララル處。

（イ）將來再ヒ此種措置ヲ執ルコト無キ様彙ニ和蘭外相ヨリ武富公使ニ對シ與ヘ居ル諒解ヲ確認セシムルコトトシ。

（ロ）他方先方ノ「ノート」中ニアル如ク輸入許可總量ハ一九三三年ニ依ルコトトシ、輸入商ノ「グループ」ヲ出來得ル限り現状ニ近カ寄ラシムルコトヲ以テ一般原則トスルニ於テハ、當方ハ先ツ陶磁器ニ付今回制限令ノ内容ヲ委員會ノ討議ノ基礎トシ、之ニ適當ナル修正ヲ加ヘタル協定ヲ作成シ、速ニ之ヲ實行シ今回ノ制限令ヲ撤回スルカ又ハ右協定ヲ内容トシタル新制限令ヲ發布セシムルコトトセハ、局面打開ノ途必スシモ無キニアラスト思考セラル。

二、而シテ此ノ際會商自體ヲ軌道ニ上シ以テ其圓滿ナル進行ヲ策スルコト諸般ノ關係上望マシキ次第トモ存セラルルニ付、貴代表申入ニ對シ「ラ」ノ回答振リ如何ニ依リテハ別ニ電報スヘキ在本邦和蘭公使ノ本大臣ニ對スル談話ノ次第モ參酌シ、此ノ際蘭印側ニ於テ海運問題ヲ當地ニ於ケル會商ヨリ「セツト・アサイド」シ之ヲ海牙ニ於ケル話合ヒノ進展ニ委セ置クト共ニ、神戸「プール」問題ノ促進ヲ積極的ニ勸說スルノ態度ヲ取り、貴地ニ於テハ此ノ儘委員會ノ構成ニ入り會商「プロバト」ノ會談ニ進ムコトヲ條件トシ、我方ノ妥協的精神ノ發露トシテ前項末尾ノ討議ヲ目標トスル委員會案ヲ提示セラレ、以テ本會商ノ促進ニ資セララル様御努力相成度シ。

（別 電）

一、七月二十八日在京和蘭公使本國政府ノ訓令ニ基キ本大臣ヲ來訪、和蘭政府ハ制度上、海運問題ト輸出入問題トヲ切離シ得ザルニ付、何トカシテ海運問題ヲ「バタヴキヤ」會商ニ於テ議スルコトト致度希望ナリ

尤モコマゴマシキ具體問題ハ當業者間ノ解決ニ委ネ然ル可シト思考シ居レルモノニシテ、只二三根本的原則 (very few basic principles) ニ付話合ヲ爲シ、將來當業者間交渉ノ基礎ヲ發見セントスル趣旨ニ外ナラザルニ付、右和蘭政府ノ希望ヲ容レタレタキ旨、並ニ日本側ニ於テ何等表立テタル協定ヲ爲スニ躊躇セラルナラバ、秘密協定ニテモ可ナリト思考シ居ル旨述べタリ。

二、右コ對シ本大臣ハ海運問題ニ付日蘭當業者間話合ノ進行シ居ル今日、本件ヲ「バタヴキヤ」會商ノ議題トスルコトハ承知シ難キコト (代表ハ本問題討議ノ訓令ヲ有セザルコト、代表部ニ船舶關係專門家無キコト) ヲ述べ、尤モ和蘭政府ガ右當業者間話合ヲ續行セシメタル上、前記原則ナルモノヲ在蘭武富公使ニ申入レラレ、同公使ヨリ報告アリタル際ハ、本大臣ニ於テモ之ヲ研究スルコトトスベキガ、夫レハ兎ニ角目下我方ニ於テ最モ重大視シ居レルハ今回蘭印政府ヨリ出拔ケニ發布セラレタル陶磁器制限令ノ問題ナリ、右ニ依リ會商ハ行詰リニ達セルモノト云フベク、長岡大使ヨリモ極メテ重要ナル電報接到シ居レリト述ベタルニ、公使ハ和蘭トシテハ會商中ハ蘭印ノ「ステータスクオー」ヲ維持スルコトヲ建前トシテ五十六種商品ニ對スル制限令實施ヲ見合セ居レル次第ナルニ、最近阪神方面ニ於ケル有力ナル日本陶磁器組合ハ在蘭印日本商人ト協力シテ蘭印市場ヲ征服センガ爲アラユル策動ヲ爲シタルニ付、已ムヲ得ズ制限令ヲ發布シタル次第ト承知シ居ルガ、一九三三年度ヲ基礎トシテ輸入總量ヲ決定シ、日本側ニ有利トナリ居ル點ハ諒トセラレタシト述べタルニ付、本大臣ハ海運問題ノ如キハ當初ヨリ會商ノ議題中ニアラザルモノナルガ之ニ反シ陶磁器ノ如キハ本來會商ノ議題タルニ拘ラズ、又會商中ハ新措置ヲ採ルコト無カルベキ旨ノ諒解

ヲ與ヘ置キ乍ラ、長岡代表ニ對シ一言ノ話合モ無ク前記制限令ヲ發表セラレタルハ、同代表ノ立場ヲ無視スル仕打ナルノミナラズ、我政府ニ於テモ頗ル心外トスルトコロナリ、若シ蘭印政府ニ於テ其ノ欲スル儘ニ各種ノ商品ニ對シ拔打的ニ次々ニ制限令ヲ發布セラルトセバ、今次會商ハ全ク無意味ナルニ非ズヤ、蘭印側今回ノ仕打ニ依リ逢着シタル難關ヲ打開シ會商ノ空氣改善ノ必要アリトテ今次制限令ノ撤回又ハ修正方申入オキタリ。

三、次ニ本大臣ハ當方モ各種ノ關係ヲ考ヘ、長岡大使ノ如キ外交界ノ先輩ヲ派遣シ居ル次第ニ付、此ノ際兩國々交ノ大局的見地ヨリ本問題ヲ善導スルタメ同大使ト總督ト談合スルコトモ一策ナルベシト述ヘタルニ對シ、同公使ハ總督ト長岡代表又ハ木村顧問トノ間ニ「インフォーマル」ニ談合スルコト誠ニ面白カルベシト信ズ、自分ヨリ早速右ヲ海牙ニ勸奨スベシト答ヘタリ。

東京ノ考ヘ方ト我々ノ觀測トノ間ニ大ナル開キガアルノヲ知ツタカラ、其一電ハ筆者ヨリ大臣ヘ、他ノ一電ハ木村顧問ヨリ來栖通商局長ヘ夫々之ヲ發送シタ。

(其ノ一電)

一、今次制限令ノ發布ヲ以テ專ラ蘭印側ノ誤解ニ基クモノト御推察相成居ル處、累次ノ往電ニテ全然其ノ然ラサル所以ハ既ニ御賢察有之シ儀ト思考ス。

二、新制限令カ一見我方ニ差シテ不都合ナキカノ如キ内容ノ下ニ發布セラレタルハ、之ニ依リテ我當業者ノ

結束ヲ亂シ、延テハ政府牽制ノ具ニ供セントスルト同時ニ、「アンダーセル」ノ爲手持品ノ不足ヲ來セル蘭商ヲシテ三ヶ月内ニ之ヲ補充セシメントノ魂膽ニ外ナラスシテ、此見エスキタル餌ニ喰付クハ、徒ラニ彼等ノ術中ニ陷ルモノト云フヘク、此新制限令ノ條件カ三ヶ月以後如何ナル變更ヲ受クヘキヤハ豫測スルニ難カラス。

三、當方ノ了解スル處ニ於テハ日本品輸入割當數量ノ問題モ去ルコト乍ラ、蘭商保護ノ爲ニスル各種組合加入ト云フカ如キ條件ノ撤廢コソ今次會商ノ最大主眼ニシテ、貴電一、(ロ)ハ此ノ人爲的差別ヲ或程度迄承認セラレントスル御意向ナルカノ如ク見受ケラルル處、斯クノ如キハ帝國商業政策ノ將來ニ及ホス影響甚タ重大ナルニ付、今一應篤ト考究セシメラルル様致度。

四、要スルニ新制限令ハ蘭國政府カ武富公使ニ對シテ爲シタル公約ヲ理不盡ナル口實ノ下ニ破毀セルモノニテ、之ニ依リテ毀損セラレタル帝國ノ名譽カ恢復セラレサル限り、該令ノ内容等些細ノ點ニ亘リ論議スヘキ限りニ非スト思考ス、若シ蘭印側ノ此暴舉ヲ聊カニテモ甘受スルカ如キコトアランカ、彼等ノ心理狀態ニ鑑ミ會商ノ進行ハ素ヨリ今日迄築キ上ケタル我國ノ地歩ハ容易ニ彼等ニ蹂躪セラルヘク、其將來ニ及ホス影響重大ナルモノアルヘキヲ虞ル。

五、仍テ按スルニ先決問題ハ蘭國政府ヲシテ今後如此キ新制限令ヲ會商ノ進行中決シテ發令セサルコトヲ確約セシムルト同時ニ、今回ノ制限令ノ實施ヲ會商中停止セシムルニ在リ、此二條件ニシテ満足ナル解決ヲ得白紙ノ原狀ニ復シテ後初メテ會商ノ繼續モ行ハルヘク、問題ノ解決モ見込アルヘシト存ス、而シテ前記

蘭印ノ術策ノ裏ヲカク爲一日モ速ニ蘭印向陶磁器ノ不賣ヲ決行シ、之ヲ輸出セサルコト目下ノ急務ニシテ當地邦商ハ此苦痛ヲ忍フヘク悲壯ナル決議ヲ爲スト共ニ、「ライセンズ」下附期間ノ滿了期日八月十日迄ハ特別ノ事情アル小賣商ヲ除キ結束シテ到着ノ既註文陶磁器ヲ高率ノ倉敷料ヲ支拂フモ之ヲ受取ルカ爲ニ新制限令ニ依ル「ライセンズ」ヲ申請シ累ヲ帝國ニ及ホサザランカ爲保税倉庫ニ之ヲ拋置スルノ決議ヲ爲セリ。

右返電旁卑見申進ス。

(其ノ二 電)

今ヤ會商展開ノ重大期トナレリ、當地ノ政情殊ニ蘭印人ノ心理ヲ見極メ確乎タル決意ヲ以テ之ニ處スヘク泣寢リスヘキモノニ非スト愚考ス。

一、今回ノ制限令カ單ナル誤解ニ基クトノ御觀察ハ當ラス、根底深キモノ別ニ存ス、當植民地ノ無暴ナル施政振リハ全ク經濟省「ウエレンスタイン」一味ヲ中心トスル五大蘭商、船會社等所謂政商等一團ノ專横ニ基因シ、僻地ニ偏在スル爲大勢ニ暗ク、土民搾取以外條約モ外國(但シ英米ハ除ク)モ眼中ニナキ有様ナリ、而モ一切ノ貿易政策ハ此一團ノ政商保護ノ外何モノモナシトハ彼等ノ公言シテ憚ラキル所ナリ、日本ノ陶磁器モ最初ハ彼等ノ眼中ニナク、最近二三年ニ其土民ノ需要ニ適シ邦商ノ手ニ依ル輸入ヲ見ルヤ、俄然政商カ手ヲ付ケ初メ、邦商輸出輸入兩組合ノ強固ナル團結ヲ見、之ヲ今ノ中ニ叩潰ササレハトノ底意ガ

今度ノ政策ノ真相ニシテ、其發令ノ理由ノ矛盾曲解モ凡テ今日迄ノ專横振リヲ如實ニ物語ルモノナリ、問題ノ核心ハ輸入數量ニ非ス、(之レハ勝手ニ變更シ得ヘシ) 割當ト特許制ナリ、即チ結局輸入權蘭商獨占ニ依リ我輸出商ノ團結モ日本政府ノ統制モ悉ク其膝下ニ屈服セシメントスルニ在リ、舊制限令ハ素ヨリ五十六種制限令ノ重心ハ皆茲ニ存ス、而シテ之カ會商ノ至難ナル病源タルコトモ既ニ御承知ノ通りナリ、從テ今回ノ如キ先方ノ主張ノ最モ薄弱ナル際ニコソ此病源ヲ切開スルコト最モ大切ナル「タクチック」ナリト確信ス、貴電ニ此ノ點ヲ冷視セラルルノ感アルハ遺憾ナリ。

二、加之當方ノ心配セシハ蘭印側ノ猜策タル一九三三年數量基礎ナル甘キ言ヒ分ニ當業者カ乗セラレハセスヤト云フ點ニアリシカ、果シテ紡績聯合ノ如キハ未晒布、次イテ一般綿布(蘭商ドモノ最大利得獨占ノ目標ト考ヘ居ル商品)ニ付テ右基礎ニテ話合ヲ請願シ來レルカ、苦笑ノ外ナシ。現ニ蘭印政商一味ノ「ジャヴアボーデ」紙ハ未晒ノ日本人見越輸入ハ莫大ノ數ニ上リ直ニ制限令ヲ發布スヘク、蘭印政府カ既ニ非常時ノ緊急策トシテ何時ニテモ發令シ得ル權限ヲ得居ルコトハ夙ニ報道セシ所ナリ、調印モセサル兩國政府間ノ口約ナド問題ニ非スト豪語シ、確カナル筋(經濟省)ノ報ニ依レハ、日本カ「ボイコット」スレハ何時ニテモ歐洲方面「チエツコ」ヨリ廉價ニ代用品ヲ輸入シ得ルノ準備ナレリト報シ居レリ、脅喝カ虛勢カハ知ラネト日本側ヲ見縊リ居ル態度ハ明白ナリ、然ルニ貴電ニ依レハ本省又ハ商工省方面ニモ一九三三年基礎數ヲ重要視シ居ラルルハ小生ノ意外トスル所ニシテ、之カ爲ニ本制限令ヲ其儘トシテ交渉ヲ進メヨトノ御趣旨ナラハ、先方ノ猜策ニ乗セラルルニ止マルト信ス、假リニ二、三ヶ月之ヲ實施シタル後其ノ欲ス

ル數量ヲ得又ハ他ニ方策アリト見込附カハ、約束モ法令モ一朝ニ變改スヘキハ從來ノ遺口ニ徴シテ疑ナシ御再考ヲ煩ハス。

三、蘭印人ハ貴地ニテハ想像モ及ハサル程食言家ナルト同時ニ事大主義者ナリ、英國ニ對シテハ不平ヲ言ヒ乍ラ屈從シ、蘭印最大ノ資源タル油田ハ舉ケテ「ダツチセル」ノ手ニ委ネ、財政窮窮ノ非常時ニ於テ救済ノ爲ニ之ヲ利用スルコトスラ敢テセサル有様ナルニ反シ、對手弱シト見レハ士民ハ素ヨリ邦人ニ對シテスラ執拗ニ無理難題ヲ持チ掛ケムトス、「ボッキサイト」問題ノ最後ノ瞬間ニ無理條件ヲ附シ今ニ至レルコトニテモ貴官御承知ノ通りナリ。故ニ今回ノ無謀ナル仕打ヲ其儘ニシテ會商ニ入レハ、日本弱シト見縊リ、無理ナル要求難題續出スヘク、海牙ニテノ曖昧ナル了解ヤ約束ナトハ問題ニ非ルヘシ、從テ會商ノ進展ヲ期待セラルルナラハ、寧ロ此ノ際強硬ニ彼ノ非ヲ責メ本令撤回少クトモ實施停止ヲナサシメ、白紙ノ原狀ニ復シテ後會商ヲ進メラルヘキモノト信ス。

四、次ニ蘭印人カ妥協性ニ乏シキ特性ハ邦商悉クノ實驗セル處ニシテ、小生モ會商ニ依リテ體驗セリ、今制限令ヲ其ノ儘或二、三ノ了解ヲ條件トシテ會商ノ議題ニ上サンカ、御希望ノ如キ妥協案等思ヒモ及ハサルヘク執拗ニ自說ヲ固持シ最モ難關タル蘭印政府ノ絕對自由權ニ基ク特許制ハ撤回モ改正モナササルヘク、他ノ問題ニモ累ヲ及ホスヘキハ豫想ニ難カラス。

五、要スルニ前記歐商一團ノ横暴振リハ本國政府モ如何トモシ難キ實情ニテ、會商進展彼等ノ思惑豫定通りナラサルヤ焦慮ノ極、理義ニハ諒解ノ傾アル本國政府派遣ノ二委員ヤ臺銀救済ヲ德トセル爪哇銀行總裁ニ

對シ自己ノ機關紙ヲシテ其ノ退去ヲ叫ハシメタル程ニテ、此一團ヲ押ヘサレハ何事モ進捗セス、而シテ御存ノ通り彼等一味ノ缺損窮境ハ御想像以上ニテ、目前唯一ノ利得ハ日本品ノ仕入、日本ノ砂糖買上ケ、日爪間ノ運輸ニ在リ、彼等ノ焦慮茲ニアリ、彼等ノ死命ハ日本ノ手ニ在リ、此ノ點ヲ充分利用シ彼等ヲシテ日本ニ對シ無暴ト横暴ハ効ナキコトヲ切實ニ感セシムルコト絶好ノ機會ナリ。

以上當地着以來ノ體驗ヲ卒直ニ申進ス、此五點ヲ御諒察ノ上ニテ我代表稟電御詮議相成度切望ニ堪ヘス重光次官ニモ切ニ考慮ヲ煩ハス。

右木村顧問ノ電報ニ對シ重光次官カラ左ノ如ク言ツテ來タ。

來栖宛貴電ニ關シ御意見ハ十分拜誦セルモ、最高方面及有識階級ハ勿論内地ノ空氣ハ、一般ニ交渉決裂ヲ心配シ居ルコト御想像以上ニシテ、此ノ點ハ充分考慮ノ要アルト共ニ、確カナル情報ニ依レハ和蘭側モ近ク何等ノ妥協點ヲ發見セサルニ於テハ決裂ヲ辭セサル様子ナリ、此形勢轉換ニ關シ本省ニ於テモ苦慮致シ居ル次第ナリ。右御含ミアリタシ。

又筆者ノ電報ニ對シテハ八月二日廣田大臣カラ左ノ返電ガアツタ。

一、今次制限令ノ發布カ蘭印側ノ深キ魂膽ニ出ツルモノナルコトハ當方ニ於テモ充分之ヲ推測シ居レル處、和蘭並ニ蘭印政府ニ對シテ誤解ニ基クモノナルヘシトナシ先方ニ對シ「ヲノラブル・レトリート」ノ途ヲ開キツツ、營業者側ノ對策ト相俟チテ善處スルコト効果的ナルヘシト思考シ居レル次第ナリ。又輸入資格ニ關シ蘭商保護ノ爲ニスル各種組合加入ト云フカ如キ人爲的條件ノ不當ニシテ之カ撤廢ノ必要アル次第ハ

貴代表出發前ヨリ論議シ貴代表携行ノ政府方針中ニモ其趣旨ニテ記載シアル次第ニシテ、往電中輸入商ノ Grouping ヲ出來得ル限り現状ニ近カカラシムルニ於テハト言ヒタルハ、蘭商及本邦商人ニ對シ數量割當ヲ現状ニ即シ公平妥當ナラシムヘシトノ意味合ヒニシテ、之ヲ既得營業權尊重等可然形ニ於テ協定トナシ置クニ於テハ、先方ノ勝手ニ之ヲ變更シ得サルヘク、從テ貴電御懸念ノ蘭商ノ輸入獨占ハ之ヲ防キ得ヘク、一方之ヲ全然自由トスルニ於テハ競争ノ結果反對ニ邦商ノ輸入獨占ニ歸スヘキヲ惧レ先方ノ同意ヲ得ルコト難カルヘシト思考ス。

二、尙ホ在本邦和蘭國公使重テ三十一日本大臣ヲ來訪、前回ト略ホ同一ノ申入レヲ爲シタルニ付、本大臣ヨリモ大體同様ノ返事ヲ與ヘ置キタルカ、其ノ際同公使ハ我方ニテ海運問題ニ付先方ノ所謂 Informal and Private ノ話合ヒニ應スルニ於テハ、同公使ニ於テモ長岡代表ノ立場ヲ容易ナラシムルニ必要ナル何等 Repair ノ爲ノ努力ヲナスヘキ旨ヲ言明シ居リ、其間妥協ノ途存スルヤニ看取セラレタル次第アリ、此ノ際貴電「ノート」ニ對シ蘭印側ノ出方如何ニ依リテハ充分協調スルヲ得策ト存スル次第ナリ。

三、海運問題ニ付テハ既電ノ通りトシ、輸入制限令問題ニ付同電ノ趣旨ヲ更ニ明確ニスルト共ニ多少之ヲ擴充シ、別電ノ通り改案シタルニ付右ニ依リ措置相成度。

四、尙今後會商ノ圓滿妥結ハ我方朝野ヲ通シ強ク希望シ居ル處ニシテ、決裂云々ノ如キ表面新聞紙上ヲ賑ハシ居ルモ、識者ハ何レモ會商ノ前途ヲ危惧シ居ル實情ナルニ付、局面打解ノ爲此ノ上トモ折角御盡力アリ度。

別 電

一、將來五十六品輸入制限實施ノ必要生シタル際ハ、蘭印政府ハ一九三三年又ハ實施ノ直前年度ニ於ケル右商品ノ輸入量ヲ基礎トシテ輸入許可數量ヲ決定シ、且ツ本邦輸入業者ノ既得權ヲ尊重スル建前ニ於テ同年度ニ於ケル實情ヲ基礎トセル公平妥當ナル割當量ヲ與フルコトニ付、明確ナル了解ヲ取付クルコト、(公正妥當ナル割當方トシテ右實績ニ基キ例ヘハ蘭商六割日商四割ノ如ク定メ、商業組合加入數ト言フカ如キ不自然ナル標準ニ依ラサルコト)。

二、今次陶磁器制限令ニ付テハ例ヘハ専門委員會(當業者モ適宜之ニ加ヘ)ニ於テ制限令ヲ討議シ、之ニ右一、ノ原則ニ基キ適當ナル修正ヲ加ヘタル當業者協定ヲ作製シ、(ナルヘク輸入組合案ニ依ルコト)速ニ之ヲ實行シ、以テ制限令ヲ撤回スルカ又ハ「セメント」ノ場合ノ如ク右協定ヲ内容トシタル新制限令ヲ發布セシメ、將來其變更ニ當リテハ常ニ先ツ同様ノ當業者協定ヲ作成スルコト。

八月二日「ランネフト」代表カラ七月二十五日附同代表書翰ニ對シテ筆者ノ送ツタ返事ニ對スル反駁書ヲ送附シテ來タ、之ハ非常ニ長文ノモノデアルガ、要領ハ「陶磁器制限令ハ會商ノ爲當分ノ間實施ヲ延期セル他ノ各種制限措置トハ性質ヲ異ニシ、蘭印市場ノ現狀ガ一部日本當業者ノ不當ナ活動ニ依リ攪亂サレントスルノヲ防止スルヲ目的トスルニ過キヌ」ト云フニ盡キテ居ル。先方ノ論旨ハ實ニ四離滅裂デアアルガ、就中「専門委員會デ日本代表部ハ本年四月十六日既ニ「ジャヴァ」陶磁器輸入業者組合ガ成立シ居タルニ拘ラス、「ジャヴァ」ニ輸入組合存在セスト回答セルニ鑑ミ、日本代表部ハ明カニ「ジャヴァ」ニ於ケル日本人ノ實社

會ニ關與スヘキ權限ヲ有セストノ結論ニ達シタ、故ニ蘭代表部カ日本代表部ノ行動圈外タルコトノ斯クノ如ク明瞭ナル事柄ニ付テ相談シナカツタノハ當然デアアル」ト云フニ至ツテハ、餘リニ常識ヲ超越シテ喧嘩ニモ成ラス。一事ハ萬事デ蘭側ノ論理ハ屢々此種類ニ屬スルカラ、所謂暖簾ト腕押ノ威ジノスルコトガ尠ナクナイ。

更ニ八月四日當方覺書ニ對スル反駁覺書モ來タ、其大要ハ左ノ通りテアル。

一、爪哇陶磁器各輸入商組合ノ設立ニ關スル日本代表部覺書中ノ説明ハ蘭印政府ノ得タル真相ト異ナル、真相ハ(イ)蘭輸入商ハ陶磁器ノ無統制輸入ノ調整及價格標準ノ安定ノ爲協力スル計畫ニ關心アル旨ヲ伊藤ニ表明シタルモ、未タ嘗テ蘭商側トノ商議ヲ無視シ日本商ニ依リ組織セラレタルカ如キ輸入組合ノ設立ニ對シ同意ヲ與ヘタルコトナシ、(ロ)蘭商側ハ組合定款及輸入統制規定案ノ内容ニ付制定前何等商議ニ與リタルコトナシ(ハ)蘭商側ハ組合設立進行ニ關スル正式ノ情報ヲ受ケタルコトナシ。

二、又組合員ノ多數カ外國人ヨリ成リ、從テ右カ絶對多數ノ議決權ヲ享有スルカ如キ仕組ノ組合ハ之ヲ容認スルヲ得ス、本組合ヘ強制的組合ナルコトニ反對ス。

三、本組合ニ加入セサル者ハ日本陶磁器ノ市場ヨリ除外セラレ、他方同組合ニ加入スル者ハ日本以外ヨリ輸入スルコトヲ得ス。

四、本組合ノ成立ハ會商開始前ニハ存セサリシ手段ヲ會商中ニ齎ラシ、現狀ニ重大ナル變更ヲ誘致セルモノナリ。

實際此度ノ會商ハヤ、コシイ、八月三日「ランネフト」代表ハ左記磐城電報ニ添ヘテ書翰ヲ寄セ、陶磁器制限令ニ付邦商ノ有スル疑懼ハ杞憂ニ過キヌコトヲ述ヘタ後、右電報ニ依レハ日本代表部員ガ日本商ノ會合ニ參加シ、蘭印政廳ノ暴擧ヲ膺懲スル爲不賣斷行ヲ提言シ、且ツ此態度ヲ以テ日本代表部ノ見解ナリト述ヘタトノコトダ、此電報ハ「アネタ」通信ニ掲載ヲ差止メタガ、之ハ日本代表部カ蘭印政廳ニ反對シ又蘭印ノ法律ニ反對スルノ運動ヲ爲スモノトシテ抗擊セラル、ヲ防止スルカ爲デ、斯クノ如キ行動ハ蘭印政廳ノ看過シ得ヌ所デアアル、外國ノ代表部ガ我政廳ニ對スル反對ヲ指駭スルニ携ハリツツ在ルト云フガ如キ評判丈ケデ、會商ノ空氣ハ頗ル毀損セラル、カラ、余ハ日本代表部及其部員ニ關スル聯合通信ノ報道ハ誤謬デアアルコトヲ明確ニ表示スル共同聲明ヲ新聞ニ公表センコトヲ閣下ニ提言ス、蓋シ此共同聲明ヲ必要トスル所以ハ蘭代表部ガ右通信ヲ以テ當國ニ在ル日本代表部ニ不名譽ナル非難ヲ與フルモノト確信スルカラデアアルト云ヒ越シタ

七月二十七日磐城電報

聯合「バタヴキヤ」二十七日蘭印政廳ノ理不盡ナ陶磁器輸入制限令ニ對シ激昂シタ邦人陶磁器雜貨業者ハ「ジャヴァ」全島カラ「バタヴキヤ」ニ集合、二十六日午後八時カラ對策協議會ヲ開イタ、日本代表部カラハ木村顧問、姉齒隨員ガ參會シ、特ニ次ノ二案ニ付協議シタ。第一、絶對的日本陶磁器非賣案、第二、輸出統制案、「ジャヴァ」陶磁器輸入組合ト日本陶磁器輸出組合トノ間ニ既ニ諒解ガ出來テ居タ邦商五割五分蘭商三割五分、支那商人一割ノ比率ヲ、制限令デ定メラレタ範圍デ適用スル。右二案ヲ中心ニ前後三時間協議ヲ遂ケタガ、議論沸騰シテ決定セス、二十七日夜會議ヲ續開スルコト、シテ、午後十一時一旦散會シ

タ。代表部トシテハ此際大局の立場カラ非賣ヲ斷行、蘭印政廳ノ暴擧ヲ徹底的ニ膺懲スヘキダトノ強硬意見ヲ堅持シテ居リ、結局強硬論ガ大勢ヲ支配シ、二十七日夜ノ會合デハ斷然非賣決議ヲ採擇スルモノト見ラレテ居ル。

註解ヲ加フル迄モナク、若シ我々ガ先方ノ云フ通りニ共同聲明ヲ出セハ勝負ハ之レデ着キ、軍配ハ先方ニ揚ガツテ、以後陶磁器輸入制限令ノ非難ヲスルコトハ封ジラレ、不賣ノ斷行ハ却ツテ先方ヨリ抗議ヲ受ケル羽目ニ陷ルノデアアル。思フニ先方ハ本邦輸出業者ガ八月三日カラ積止ヲ決行スルトノ情報ニ接シテ、共同聲明ト云フガ如キ見ヘ透イタ小細工ヲ試ミタモノデアロウ。仍テ筆者ハ八月四日附テ左ノ如キ回答ヲ認タメタ。

一、日本代表部員ガ日本商人ノ會合ニ列席セルハ事實ナリ、然レトモ「オブサーヴァー」トシテニテ、討議ニハ參加セス。

二、故ニ該會合ニ於テ如何ナル事項ガ討議セラレシニセヨ、日本代表部員ガ「不賣斷行ヲ提言セリ」ト云フカ如キハ絶對ニ捏造ナリ。

三、斯ルガ故ニ日本代表部ハ「蘭印政廳ニ反對シ又蘭印ノ法律ニ反對スル運動ヲ爲ス」ト云フガ如キ極メテ重大ナル非難ヲ受クヘキ何等ノ理由ナシ。

四、貴翰中ニ引用サレタル「蘭印政廳ノ暴擧ヲ膺懲スル爲」ナル字句ハ、該通信終リノ一節ヨリ取ラレタルモノナルヘキ處、此一節ハ通信員ノ註釋又ハ想像ニ過キササルモノナルコトヲ附言セサルヲ得ズ、日本代表部員ハ何人モ未タ斯クノ如キ意見ヲ發表セルコトナシ。

筆者ハ陶磁器制限令ノ發布以來抗議ノ意味デ故意ニ「ランネフト」代表トノ會見ヲ避ケテ居タガ、最早接觸シテモ好イ時期ガ來タ様ニ思ヘタカラ、其瀕路トシテ越田代表ニ八月六日右ノ書翰ヲ「ラ」代表ノ所ニ持參テ貰ツタ、其時ノ會見録ハ左ノ通りデアル。

越田ヨリ日本代表部及自身ノ名ニ於テ經濟長官「ウエレンスタイン」氏ノ病死ニ對スル吊辭ヲ述ヘタル處「ラ」氏ハ右ニ對シ蘭國代表部ノ名ニ於テ謝意ヲ表セリ。次テ磐城新聞電報ニ關スル八月三日附「ラ」氏ヨリ長岡全權宛書翰ニ對スル回答ヲ手交シ、御開披ノ上何等補足的説明ニテモ御希望ナラハ本官ヨリ之ヲ爲スヘキ旨ヲ以テシタル處、右ハ蘭側代表部員一同ニヨリ閱讀セラルヘキモノナレハ後程拜見スヘシト云ヒテ開封ヲ欲セス、若シ右ニ關シ何等述ヘラレ度キ事アラハ政治問題擔任ノ「モウ」氏ニ申入ラレ度シト云ヘルニ付、本官ハ右我方ノ回答ニ付貴方ニ於テ補足的説明ヲ希望セラルルニ於テハ本官ハ之ヲ説明スルノ用意アル旨ヲ述ヘタル迄ナリト返シ、尙ホ本官ハ爪哇陶磁器輸入組合ニ關シ説明セント欲シ、先ツ陶磁器制限令ニ言及セントシタル處、右ハ經濟問題擔任ノ「フアン・ヘルデレン」氏ト話合有度、自分ハ會商ノ一般的進捗方ニ付長岡大使ト懇談ヲ遂ケ度トテ話頭ヲ回避シタリ。

我々ハ「ランネフト」代表カ越田代表ニ對シテ執ツタ態度ヲ尠ナカラズ不快ニ感シタガ、彼ヲ覺醒サセル爲ニハ好機ノ到來ヲ待ツコト、シ、(海運問題ノ章參照)、其希望ニ基キ同日々會見シ、左ノ如キ意見ノ交換ヲシタ。

一、「ラ」ハ當方ヨリ會見ヲ申込メルコトヲ非常ニ喜ヒ、實ハ自分ヨリ會見ヲ申出ント思ヒ居タル矢先貴方ヨ

リ電話アリ甚タ満足シ居レリト云ヒタル後、何レヨリ話ノ緒ヲ切ルヘキヤト問ヒタルニ付、本使ハ何ハ兎モアレ本使カ本日訪問セル用向ハ陶磁器ニ關スルモノニシテ、貴下ノ書翰ヲ接受セル時余ハ非常ニ心外ニ感セリ、其譯ハ蘭印側ニハ何等カ不滿ノ點アルヤニ思ヒタレバコソ、七月二十四日山中顧問ヲ「フアン・ヘルデレン」氏ノ許ニ差遣シ、若シ今日迄ノ日本側ノ仕打乃至規約等ニ不滿ノ點アラハ之ヲ協議變更シ得ヘキ旨ヲ通達セシメタルニ、「ヘ」ハ之ニ對シ何等應答ヲモ爲サス、而モ其翌日貴下ノ書翰ヲ受領シタレハナリ、惟フニ本件ニ就テハ非常ナル誤解アル様思考セラル、第一貴方ニ於テハ日本人カ組合ヲ設立シ強制的ニ蘭商ヲ之ニ加入セシメントシ居ルモノ、如ク考ヘ居ラル、處、右ハ全ク事實ニ反シ本組合ハ其成立ノ時ヨリ蘭・華商カ加入シテ始メテ成立ノ可能性アルモノト考ヘラレ居タルモノニシテ、本使等日本出發前本案ヲ聞キ、右ハ輸入ヲ調節シ市價ヲ安定セシムルコトナレハ、此組合ハ蘭印政府ニモ非常ナル好感ヲ以テ迎ヘラルヘキモノト豫期シ、本使等トシテモ其成立ヲ推獎シタリ。又實際日本側ハ始メヨリ常ニ蘭商ト接觸ヲ保チ居タリ、殊ニ貴下ハ本組合ヲ以テ日本商人カ商權ヲ壟斷スルモノ、如ク云ハル、モ、總會ノ決議ハ三分ノ二ノ多數ニヨルコト、ナリ居リ、又豫定ニヨレハ日本商十九、華商十二、蘭商六ト云フカ如キ仕組ニナリ居リ、而モ投票數ハ會費納入ノ口數ヲ一票トシ蘭商ニハ二十口ヲ與フル豫定ナリシニ付、日本側丈ニテハ如何ニシテモ三分ノ二ノ多數ハ得ラレサル譯ナリト説明セルニ、「ラ」ハ繰返シ其覺書ニ記載セルカ如キコトヲ縷述セル後、何レニセヨ專門家委員會ニ於テ貴方委員ハ右組合ノ定款ヲ知ラスト答ヘラレタルニ拘ハラス、該定款ハ既ニ四月ニ作成セラレ居リ、我々トシテ此ノ如キ事態ノ下ニ最早相談ヲカケル

ニモ及ハサルヘシト考ヘタル次第ナリト云ヘルニ付、本使ハ貴下ノ言ニ依レハ如何ニモ我カ代表部員カ事實ヲ知り乍ラ之ヲ隱蔽セルカ如ク聽取レルガ、察スルニ我專門委員ハ其當時定款ノ存在ハ何等承知シ居ラサリシモノナルヘン、本使モ爪哇旅行ノ途次「スマラン」ニ於テ伊藤氏ニ面會ノ際始メテ彼ヨリ英文案ヲ作成シ蘭側ニ提出スル積リナリト聞キ及ヒ、未タ定款ナド出來居ルモノトハ思ヒ居ラサリシ程ナレハナリト述ヘタル後、單ニ四月作成ノ定款トノミ云ヘハ如何ニモ正規ノ定款既ニ確定セルカ如キ感ヲ與フルモ、前述ノ如ク右定款ハ蘭、華商ノ加入承諾ヲ前提トスルモノナレハ、其實現前定款ハ確定セサル次第ナリト答ヘタルニ、「ラ」ハ然シ右定款ヲ盾ニ實際蘭商ハ一種ノ脅迫ヲ受ケタリト述ヘシニ付、本使ハ右ハ多分「ボルスミ」ノコトヲ指示セラル、モノナランガ、彼ハ賣崩シヲ敢テセルヲ以テ日本側ヨリ之ヲ指摘セル迄ナリト答ヘタルニ、「ラ」ハ日本側ニモ廉賣セル者アリト云ヘルニ付、本使ハ昨年ナラバイザ知ラス本年四月以降日本人中ニハ斷シテ此ノ如キコトナシト答ヘタル後、何レニセヨ本件ノ爲會商ハ行詰リトナリ居ル狀態故何トカ現實ニ即スル方法ニテ之ヲ打開スル必要アリト思考スルガ、例ヘハ貴方ハ前述ノ定款カ氣ニ入ラサルニ於テハ之ヲ適宜修正スルコト、シテハ如何、尤モ此場合妥協成立スル迄新令ハ其効力ヲ停止セシムルコト必要ナリ、更ニ貴方ハ組合カ蘭印政權ト相容レサル組織ナリト云ハル、處、若シ強テ希望セラル、ニ於テハ之ヲ解散セシムルコトモ敢テ不可能ニ非サルヘシ、但シ此場合新令ノ發布カ組合ノ成立ニ基因スルモノナレハ新令ハ當然廢止セラル、コトヲ前提トセサルヘカラスト述ヘタルニ、「ラ」ハ右法令ノ廢止又ハ効力停止ノ二ツトモ到底自分ニハ承諾シ得サルコト、思考スルモ、和蘭又ハ蘭印政府ニ於テ之ヲ如何

様ニ考フルヤハ別問題ナリ、然シ新令ハ一九三三年ノ現狀維持ヲ目標トスルモノナレハ日本側ニ於テモ好感ヲ以テ迎ヘラル、モノト考ヘ居タルニ、反對ノ結果ヲ生セルハ極メテ不可解ナリト云ヘルニ付、本使ハ之ニハ二大原因アリ、其一ハ貴方カ手續上大ナル遺漏ヲナセルコトニシテ、其二ハ比率ニ關シ毫モ現狀維持ニ非サルコト是ナリ、今日日本ニ於テ陶磁器ノ輸出ヲ停止セルハ右二點ニ對スル抗議ナリト御承知アリ度シ、然シ只此ノ如キ事ヲ論議スルモ實際的ニ非サルヲ以テ、本使トシテハ直截ニ貴方ニ於テ如何ナル「コンビネーション」ニ依ルトモ新令ノ廢止又ハ其効力ヲ停止スルノ意志ナキヤ承知シ度シト云ヘルニ、「ラ」ハ自分丈ニテハ否ト御答ヘスルノ他ナシト答ヘタルニ付、然ラハ例ヘハ委員會ヲ開キ其初頭ニ右新令ヲ討議スル事トシテハ如何ト試問セルニ對シ、「ラ」ハ海運問題解決セサル限り委員會ノ開催不可能ナリト答フニ、次ニ「ラ」ハ當方ノ調査ニ依レハ會商開始以來日本商品中非常ニ多量ニ輸入モラレタルモノアリ、其表ハ明日ニテモ御送付スヘキガト云ヘルニ付、本使ハ右ハ又新制限令ヲ發布スル前提ナリヤト反問セルニ、「ラ」ハ夫レハ豫斷シ難ク自分トシテハ差當リ然ルコトアルヘシトモ思ハサルカ、何レニセヨ今後ハ發布前御耳ニ入ル、コト、スヘシト述ヘタルニ付、本使ハ會商中新制限令ヲ出サストノ約束ニ關スル武富公使發大臣宛電報二通ヲ示シ其不當ヲ指摘セルニ、「ラ」ハ右後電ノ方ハ承知シ居ラスト云ヒ之ヲ筆記シタル後曰ク右双方ニアル如ク *Resultats des pourparlers* トアル故會商長引クニ於テハ「レジュルタ」ナキモノナリト云ヘルニ付、本使ハ大イニ然ラス、「レジュルタ」トハ會商不調ニ終ル場合ヲ想像セルモノニテ、例ヘハ非常ニ會商長引キ貴方ニテ最早見込ナシト考ヘ之ヲ打切ル意思表示ヲセラル、コトアラハ其時始メテ「レジュ

ルタ」ナシト斷言シ得ヘキモ、苟モ會商ヲ常規ニ依リ繼續中ハ、如何ニ其期間長クトモ貴下ノ如キ解釋ニ同意スルコト不可能ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ苦笑シタル後、夫ハ兎モ角五十六種制限令ハ全ク別問題ニテ若シ會商中更ニ何等發令ヲナスコトアリトスルモ之ハ現狀維持ヲ目標トスルモノニ他ナラスト云ヘルニ付本使ハ現狀維持ト云ハル、カ陶磁器ニ就テモ比率ニ關シテハ決シテ現狀維持ニ非スト述ヘ、其系數ヲ指摘セル後各種商業組合加入者ト云フカ如キ人爲的差別ヲ今次ノ新令中ニモ設ケアルカ、此ノ如キ差別ハ日本側トシテ到底受諾シ得サル所ニシテ、只單ニ日蘭間ノ比率ヲ決定スルコト、スル方至當ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ自分モ右差別主義ヲ善シトハ認メス、自分一個ノ考ナルカ閣下ノ云ハル、比率ノミニテ日蘭間ニ比率ヲ決定スルコト可ナリト考フルモ、他同僚ノ意見ハ未タ徴シ居ラサルニ付之ヲ確定意見トシテ申上クル譯ニハ行カスト附言セリ。

三、右ニテ双方ノ意見交換モ一段落ヲ告ケタルニ付、本使ハ自分ノ記憶ヲ正確ニスル爲ナリト前提シ、今迄貴下ノ述ヘラレタル所ヲ約言スレハトテ左ノ應答ヲナセリ。

(イ) 如何ナル「コンビネーション」ニヨルモ陶磁器制限令ノ廢止又ハ効力ノ停止ハ之ヲ肯ンセラレサルヤトノ本使ノ質問ニ對シ「ラ」ハ自分限りニテハ不可能ナリト答フル外ナキカ、和蘭及蘭印政府ノ意見ハ承知セスト答ヘタリ。

(ロ) 會商中更ニ五十六種新制限令ヲ發布スル豫告トシテ日本品ノ輸入表ヲ當方ニ送付セラル、儀ナリヤトノ問ニ對シ、「ラ」ハ前述ノ如ク今左様ニ確定セル譯ニハ非サルモ、如何ニモ其數量多キニ上リ居ルニ

付、該表ヲ一覽ノ上今後ノ輸出調節方ニ付日本政府ニ於テ自分方ノ進言ヲ容レ効果アラハ、自然新制限令ハ發布ノ必要ナキニ至ルヘシト答ヘタリ。

四、最後ニ「ラ」ヨリ之ハ閣下ニ不愉快ナル話乍ラト前置シテ聯合通信ノ件ヲ持出シタルニ付、本使ヨリ此件ニ付テハ越田代表ヨク事態ヲ承知シ居ルヲ以テ態々同氏ヲ今朝煩ハシタル次第ナルカ、若シ之ニ付御話セラレ度キコトアラハ再ヒ同氏ヲ煩ハスヘシト云ヒタルニ、「ラ」ハ越田代表來訪セラルレハ喜ンテ接受スヘシト云ヘルニ付、本使ハ當方ニテハ今朝越田代表持參ノ返翰ニテ最早問題解決濟ト思考シ居ル次第ニ付、若シ貴方ニテ何等求メラル、所アラバ越田氏ヲ煩ハシテモ差支ナシト云ヒシ迄ニテ、進ンテ當方ヨリ出向ク必要ハ何等之ヲ認メ居ラスト述ヘタルニ、「ラ」ハ一體代表部員殊ニ當蘭領ニテ領事ノ職務ヲ執リ居ル者カ蘭印ニ反抗スル行動ニタヅサルカ如キハ到底默視シ得サル所ナリ、或ハ之ニ關シ政府ヨリ申出スルコトアルヤモ知レスト述ヘタル故、本使ハ木村、姉齒兩氏カ當夜在留日本人ノ會合ニ立會タルハ單ニ「オブサーヴァー」トシテノ意味ニテ、何等議論ニハ參加シ居ラス、又列席前如何ナル論議カ行ハル、ヤ知ル由モナク、事實上當夜ハ何等結論ニ達セサリシ次第ナリ、聞ケハ該通信ノ發電者ハ木村、姉齒氏事態聽取ノ爲參列セリト云フ意味ノ文句ヲ挿入シ置ケルニ、通電中ノ誤リカ又ハ東京本社ニテ之ヲ削除セルカハ知ラネド此字句缺如シ居ル旨ヲ語レリ、若シ原電ノ儘ナリシナハ貴方ノ見ラル、所モ亦大イニ異リシナランガ、何レニセヨ兩氏ハ論議ニハ參加シ居ラス、又該通信ノ後段ハ發電者ノ意見ニ過キサル故、之ニ付責任ヲ執ルコト能ハスト反駁セリ、「ラ」ハ更ニ日本新聞ノ記事ニ關シ冗々ト不平ヲ並ベタルヲ以テ、本使

ハ當方ニテモ爪哇「ボーデ」紙等ノ論說ニ付充分ノ不平ヲ持チ居ルモノニテ、實ハ今朝此事モ申上ケ度キ意味ニテ越田代表ハ澤山ノ新聞切抜ヲ持參セル次第ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ爪哇「ボーデ」ノ論說等ト日本新聞ノ書キ振リトハ大ナル徑庭アリ、同日ニ之ヲ論スヘキニ非ストテ二、三例ヲ引キタルヲ以テ、本使ハ蘭印カ米國ト關係少キコトハ幸ナリ、若シ日本ト同様ノ關係ヲ米國ニ有セハ貴下ハ更ニ苦キ經驗ヲ踏マルヘシト慷慨シ本件ヲ打切レルカ、玄關先ニテ「ラ」ハ貴方ノ回答ニ對シ更ニ書翰ヲ差出スヤモ知レスト云ヘルニ付、本使ハ當方ニテハ本件ハ最早解決シタルモノト考ヘ居レリト述ヘタルニ「ラ」ハ然ラハ双方ノ書翰ヲ公表スルモ一案ナリト云ヘル故、本使ハ無論之ニ異議ナシ、其際ハ聯合通信ヲモ同時ニ公表シ、之カ判斷ヲ讀者ニ委スルコト、スヘシト答ヘタルニ、「ラ」ハ聯合通信ノ公表ハ之ヲ欲セサリシモノカ苦キ顔ヲシテ笑ヒ居リタリ。

別ニ臨ミ「ラ」ヨリ此ノ種會談ヲ屢々ナスコト有益ト認ムル旨申出タルニ付、本使モ全然同感ナルニ付貴方ヨリ電話ヲ受クレハ何時ニテモ喜ンテ會見スヘシト答ヘタリ。

八月九日筆者更ニ「ランネフト」代表ト會見ス、本章ニ關係スル會談要領左ノ如シ。

一、「ラ」ハ豫メ用意セル佛文ヲ朗讀セルガ、其要領ハ日本ハ大國ナリ今後益々發展性ニ富ミ居ルコトハ自分モ之ヲ認ムルモ、餘リ之ヲ強調サレテハ會商モ不可能ナリ。本會商ハ最初ヨリ自分ノ述ヘ居ル如ク純然タル經濟事項ニシテ、即チ賣買ノ問題ヲ協議スルニ過キササルモノト御承知アリ度シト云フニ歸着ス、仍テ本使ハ之ハ意外ノコトヲ聞クモノナリ、成ル程貴下參加ノ前ニテ本使ヨリ總督ニ何カ右ノ如キ錯覺アラン

ヲ俱レスカル場合ニハ此危懼ヲ一掃スル爲日本ハ和蘭乃至蘭印ノ希望セラル、如何ナル保障ニテモ與フルニ吝ナラスト述ヘタルカ、右ハ畢竟今申述ヘラレシ如キ疑惑ヲ一掃センカ爲ノ趣旨ニ外ナラサリシモノナル處、和蘭側ニテハ其要ナシト云ハル、ニ付、當方ヨリ進ンテ何等措置ヲ講スヘキ次第ノモノニモ非サル故其儘ニナリ居ルコトハ御承知ノ通ナリ、夫レ以來本日迄我代表部トシテ又代表部員トシテ政治問題ニ觸レタル覺エナシト反駁セルニ、「ラ」ハ之ヲ首肯スルト共ニ、然シ閣下ノ「ステートメント」ト云ヒ、今回陶磁器ノ「ボーコット」ト云ヒ、何レモ政治的色彩アリト云ヘルニ付、本使ハ陶磁器問題ヲ惹起セル根源ハ決シテ日本側ニ非ス、蘭印政廳カ國際儀體ニ反シ利害關係者ノ一方ヨリノミ聞ケル情報ヲ基礎トシテ新令ヲ發布セルニ憤慨セル結果ナレハ、責ハ蘭印側ニアリテ日本側ノ關知スル所ニ非スト應酬シ置ケリ。

二、「ラ」ハ陶磁器問題ニ關スル新令ニ付テハ全ク日本ノ誤解ナリ、之ハ一九三三年ノ現狀ヲ其儘維持セント欲シタルニ過キササルモノニシテ、比率ニ關シテモ其現狀ニ適合スル様處置シ得ル裕取リヲ設ケアリ、之ニ付今頃「ホーフストラーテン」越田代表ト會議シ居ルコト、思考スト述ヘタルニ付、本使ハ若シ總ヘテノ點ニ於テ一九三三年ノ現狀カ維持セラル、ニ於テハ、日本トシテ又當業者トシテ之ニ反對スル理由モナカルヘタ、從テ之カ解決スレハ積出停止問題モ亦解決セラレ得ヘシト答ヘタリ。

三、「ラ」ハ若シ一九三三年ノ現狀維持ヲ本會商中維持スルト云フ考案ハ閣下ノ贊同ヲ得ヘキヤト問ヒタルニ付、右ハ數量ノミナラス比率其他ニ付テモ總ヘテヲ網羅シタル現狀維持ト云フコトナレハ本使トシテ之ニ異存ナシ、然シ之ヲ蘭印政府ノ一方的發令トシテ公布スルニ於テハ必ス空氣ヲ惡化セシムヘキニ付、

此現狀維持ノ約束ハ貴下ト本使トノ署名セル宣言等ニヨリ之ヲ公表スル途ヲ講セサルヘカラスト思考ス、尤モ此ノ如キ手段ヲ執ル爲ニハ一應日本政府ノ同意ヲ求ムル必要アリト云ヘルニ、「ラ」ハ自分トシテモ政府ニ諮ラサル可ラサルガ、出來得レハ此考案ニテ進ミ度シ但シ申ス迄モナク右ハ會商進行中限リノ問題ニテ、會商ニテ如何ニ取極ムヘキヤ、將又會商不調ノ場合ニ於ケル對策ハ自ラ別問題ナリト云ヘリ。

四、「ラ」ハ又聯合通信ノ件ニ言及シ、當方ノ回答ニ對スル返翰ハ多分明日位送付スヘキガト云ヘルニ付、本使ハ我々ハ我方ノ回答ニテ最早濟ミ居ルモノト了解シ居レリト云ヘルニ、「ラ」ハ御互ノ文書ヲ公表セサルコトヲ承諾スト述ヘシ故、本使ハ之ハ不思議ナコトヲ聞クモノナリ、承諾スト云ハルレハ當方ヨリ申入レシ如クナルカ、當方ハ最初ヨリ公表問題ニ觸レシコトナク、前回會談ノ際貴下カ之ヲ公表シ度シト云ハレシ故、此場合ニハ通信其モノヲモ公表シテ公衆ノ批評判斷ニ俟ツヘシト答ヘタルノミナリト應酬セルニ「ラ」ハ苦笑セル後、一體木村顧問カアノ會合ニ列席シ此ノ如キ「ムーヴメント」ヲ取り鎮メ吳レラレサリシハ甚タ遺憾ナリト云ヘルニ付、本使ハ貴方ノ了解スル所ト我々ノ見ル所トハ頗ル大ナル逕庭アリ、木村姉齒兩氏カ當夜居ラレタレハコソ事態ニ昂奮セル當業者連カ即夜何等ノ決議ニモ到達セス議論モ比較的穩健ニ濟ミタル次第ニテ、兩氏ノ臨席コソ事態ヲ極端ニ進メサリシ效果アリシモノナリト述ヘ置ケリ。

五、「ラ」ハ重ネテ陶磁器問題ニ入り、日本側ノ「ボイコット」ニ關シ又輸入組合ニ關シ長々ト愚痴ヲ零セルニ付、本使ヨリ其前提ノ全ク誤マレル所以ヲ言葉ヲ盡シテ説明セル處、「ラ」ハ何レニセヨ蘭印政權ヲ無視スル底ノ組織ニハ同意出來ズト云ヘルニ付、日本側トシテ此ノ如キ意向毛頭ナカリシコトヲ説明スルト

同時ニ、實ハ斯クノ如キ強力ナル團體出現ノ場合蘭印官憲ノ承認ナクシテ之カ設立ヲナスハ穩ナラスト考ヘ、本使ヨリ關係者ニ愈々設立ト決定セル上ハ蘭印當該官憲ノ認可又ハ諒解ヲ得置ク必要アル旨ヲ述ヘ置ケルカ、不幸ニシテ其二、三日後ニ新令發布セラレシ様ノ次第ナリト述ヘタルニ、「ラ」ハ自分トシテモ陶磁器ノミナラス各種重要輸入品ニ付日・蘭・華商ノ輸入組合ヲ設ケ統制ヲ圖ル必要ノアルコトハ充分之ヲ認メ居ルニ付、此方向ニ進ミ度思ヒ居ルカ、蘭印官憲ヲ無視スル態容ニテハ不可ナリト云ヘルニ付、本使ハ只今申述ヘタル如ク我々トシテモ又當業者トシテモ斯クノ如キ意向毛頭ナシト云ヘルニ、「ラ」ハ夫ハ大ナル福音ナリ、然ラハ今右カラ左ト云フコトハ現在ノ空氣ニ鑑ミ或ハ困難ナルヘキモ、何レニセヨ此方針ニテ進ミ度シト述ヘシ故、本使ハ誤解ナキ様一言スルカ、蘭印官憲ノ額ヲ立テハ勿論ナルガ、然レバトテ蘭印官憲カ勝手ニ規則ヲ定メ、之ニ日本商人參加セヨト云フカ如キ容體ニテ本件カ實行セラル、場合ニハ日本商人ハ斷シテ之ニ加ハラサルヘキコトヲ今ヨリ言明シ得ト云ヘルニ、「ラ」ハ無論斯クノ如キ意思ハナシ蘭印官憲ヲ立テルトシテモ、考案其他ハ先ツ當業者間ニ於テ協議スヘキコト勿論ナリト答ヘタリ。

六、最後ニ「ラ」ハ會商遲々トシテ進マス、先般來申述ヘシ如ク出來ル丈速ニ之ヲ終了セシメ度シト云ヘル故、本使ハ自分トシテモ至極同感ナリ、就テハ海運問題ハ當分差シ置キ、貴方カ此問題ヲ會商ニ加ヘスシテハ會商續行不可能ナリトセラル、ニ於テハ、若シ日本政府之ヲ拒絕セハ、夫レ迄ナセル委員會ノ決議ハ全部無効ノコト、豫メ諒解シテ、他種問題ノ協議ヲ進メテハ如何ト云ヘルニ、「ラ」ハ右ハ自分トシテ不可能ナリト素氣ナク答フルト同時ニ、九月總督カ外領巡回中自分ハ之ヲ代理セサル可ラサルニ付、此期間ニ

ハ會商ニ參加スルヲ得スト違ヘシ故、本使ハ然ラハ此間ハ本日ノ如キ私的會談ヲモナシ得ストノ儀ナリヤト試問セルニ、何分用務多クテ口ヲ濁シ居タリ。

右ノ會談中「ランネフト」代表ノ述ヘタ通り、越田代表ハ經濟省デ「フアン・ホーフストラーテン」氏ト同シク會見シテ居タ、其會談錄左ノ通り。

「ホーフストラーテン」ハ先ツ陶磁器輸入制限令中六割及四割振當ノ條項ニ關シ、條文ニハ六割（歐洲人商業組合加入者ニ振當ツヘキ分）ト四割（非加入者ニ割當ツヘキ分）トアルモ、同時ニ同條項中ニ「一九三三年ノ輸入實績ニ應スル立前故、經濟省ニテ六割カ過多ナリトノ判斷ヲナセル場合ハ、其内ノ一割又ハ夫レ以上モ四割ノ「グループ」ヘ廻ハスコトナルモノナレハ、日本商社ノ客年輸入實績ハ充分考量ニ入レ得ヘキコトヲ反覆説明シタル後、日本ニテハ陶磁器ノ不賣（「ボイコット」ト稱セリ）ヲナシ居ル様ナルカ、今回ノ制限令ニテハ數量トシテモ一九三三年ヲ基礎トシ、又日本輸入商ニ對シテモ同年ノ實績ヲ考量スル以上、輸出業者ニモ輸入業者ニモ不滿ナルヘキ筈ナリ、然ルニ此ノ如キ舉ニ出テラルル事ハ蘭印政府トシテモ此儘過シ難ク、且ツ日蘭印間ノ良好ナル貿易關係ヲ惡化セシムルモノニシテ甚タ遺憾トスル旨表明セルニ付、越田ハ蘭印政府聲明中ニ蘭印市場ニ於ケル陶磁器ノ過剩手持ヲ有スル爲云々トノ事アリシヲ以テ、日本當業者ハ然ラハ積止ヲナシテ當領市場「オーヴァ・ストック」ノ緩和ヲ圖ラントシタルモノノ如シ、ト答ヘタルニ、「ホ」ハ八月三日名古屋出帆ノ「バンドン」丸ガ日本人輸入商ノ注文品ノミ積込ミ蘭商注文品ノ積込ヲ拒絕セリト云フ情報ヲ有スト述ヘタルニ付、姉齒ヨリ最初新聞電報ハ「バンドン」丸

ノ積込ヲ最後トスト報シ、後ニ「バンドン」丸ノ積込ヲモ中止セリトノ新聞電報ヲ見タルカ、何等公報ニ非レハ充分事實ヲ調査スル事トスヘシト附言セリ、「ホ」ハ若シ日本ヨリノ輸入杜絶スルニ於テハ獨逸等ヨリ輸入スヘク、獨逸ハ三割ノ補助金ヲ出ス由ナレハ日本品ト略ホ同價ニテ輸入スルコトヲ得ヘシト云ヒ、一般ノ談トシテハ不賣問題ニ立歸リ、蘭印政府ハ此ノ如キ狀態カ繼續スル以上是非嚴重ナル手段ヲ採ルコトヲ餘儀ナクサルルニ至ルヘキ旨ヲ述ヘタリ。

此會談ノ終リニ臨ミ姉齒ヨリ甚タ差出ケ間敷キコトナカラト前置シ、日本ニ於ケル「ボイコット」問題ニ關シテハ確實ナル情報ナキモ、今回ノ陶磁器輸入制限令ニ對シ日本全國民カ蘭印ニ對シ憤怒セル事ハ事實ナルヘシ、是レ彼等ハ此會商ニ大使ヲ送り必スヤ良好ナル結果ヲ得ヘシト期待シ居タルニ、蘭印政府カ突然本制限令ヲ公布セルコトハ日本國民ニ多大ノ衝動ヲ與ヘタルモノナリト申置キタリ。

同日（八月九日）廣田外相ヨリ左ノ電報ニ接シタ。

八月八日和蘭公使本大臣ヲ來訪、海運問題及陶磁器問題ニ關シ會談シタルカ、其内容ハ結局既電ノ範圍ヲ出テサリシ處、同公使ノ談話中目新シキ點ヲ舉クレハ左ノ通り。

一、和蘭側ニ於テハ兩國政府間ニ往航ノミナラス復航ニ付テモ Quota, Freight, Time ニ關シ將來當業者間交渉ノ基礎トナルヘキ原則ヲ話合ヒ、右話合ヒヲ基礎トシテ當業者間ニ交渉ヲ行ハシメ、其結果ニ對シ政府ヨリ何等カノ形式ニ於テ Guaranty ヲ與フルコトトシタキ希望ナルモノノ如シ。

二、陶磁器制限令撤廢及ハ其實施停止ハ之ヲ行フコト頗ル困難ナリ、若シ日本政府ニ於テ飽ク迄此點ヲ主

張セラルルニ於テハ會商ハ Sop スルノ止ムナキニ至ルヘシト推察ス。

三、最近日本未晒綿布ノ蘭印ニ輸入セラルルモノ夥シキ現狀ナルニ付、先ツ日本政府ニ於テ之カ輸出ヲ制限セラレ、其實績上リタル場合ハ自分ハ自然今次制限令モ緩和セラルルニ至ルヘシト推察ス。

四、右制限令ノ内容殊ニ日本商人ノ割當量ニ付日本側ニ於テ不當トセラルル點アラハ、越田總領事邊リヨリ統計ヲ提出セラレ、蘭印政府ノ統計ト突合セ研究スルコトトセハ、自分ハ制限令修正方ニ資スル處アルヘシト思考ス。

右ニ對シ本大臣ヨリ海運問題ハ今次會商ノ議題ニ無カリシニモ拘ラス、我方ニ於テハ大體貴方ノ希望ヲ容レ、先ツ所謂根本原則ナルモノヲ研究スヘシト迄ニ譲リタルニモ不拘、陶磁器制限令ニ關シ貴方ニ於テ何等ノ措置ヲ採ルコト無ク、而モ我政府ニ對シ新ニ未晒綿布ノ輸出ヲ制限セヨト云フハ虫ノヨキ言分ナラスヤ、斯クテハ我國内ノ反對大ナルヘク到底同意スルコト能ハス、帝國政府トシテハ此ノ際右制限令ノ撤回又ハ停止ヲ強く要望スルモノナリ。

右ニ付蘭側ニ於テ讓歩セサル限り、海運問題ニ付我方モ讓歩シ能ハス、此ノ點本大臣ノ意向トシテ海牙ニ報告アリ度ト答ヘ置キタリ。

右ト同時ニ廣田外相ハ左記電報ヲ武富公使ニ發シタ。

一、「バタヴキヤ」ニ於ケル會商ヲ正軌ニ戻ス爲我方ハ難キヲ忍ビ海運問題ニ付、一應先方案檢討ノ上「バタヴキヤ」ニテ非公式審議ト迄讓歩シタルハ、之ヲ以テ陶磁器問題ニ關スル當方ノ面目ヲ立テ局面ヲ打開

セシムルガ爲ニ外ナラザル次第ハ累次電報ノ通りナルトコロ、最近蘭印側ニ於テ當方ノ苦心ヲ諒トセズ、何處迄モ無理押シヲ爲サント試ミツツアルガ如ク見受ケラルルハ理解ニ苦シムトコロニシテ、斯クノ如キ態度ハ到底我方ノ容レ能ハザル所ナルノミナラズ、又決シテ會商ヲ成功ニ導ク所以ニモ非ルヲ以テ、此點ハ篤ト先方ニ徹底セシメ置クヲ要スル次第ナリ。

二、殊ニ我方トシテハムゲニ今次制限令ノ撤回又ハ停止ヲ獎憑シ居ルモノニ非ズシテ

(イ) 長岡代表宛電報別電中ニ「通り先方得心ノ行ク方法ヲ考ヘ居ルノミナラズ」

(ロ) 六日通商局長「バプスト」公使會談ノ際ニモ、同局長ヨリ先方ガ先ヅ制限令ヲ停止スルニ於テハ日本トシテハ然ルベキ方法ニ依リ輸出ヲ統制シ、其ノ間至急兩國當業者間ニ取扱割合ノ協定ヲ行ハシメ、双方合意ヲ基トシ制限ヲ行フトセバ、結局蘭印ノ要望スル「ステータス・クオ」ノ維持ヲ現出セシメ得ル次第ナルベキヲ述べ、制限令ノ停止ヲ勸説シタルトコロ、七日同局長トノ會談ニ於テ「バ」ハ右案ハ本國政府ニ申送ルヘキモ、蘭印側ノ行ハントスル制限ヲ外國政府ノ手ニ委カス點ニ付受諾困難ナルヘシト述ヘタルニ付、局長ヨリ當方トシテモ先方限りノ制限令カ後ニ至リ先方ノ勝手ニ變更セラルル惧レアル點ヲ懸念シ居ル次第ニ付、前記當方ノ輸出統制ヲ双方申合セニ基キ行フコトトセハ、一方ノ意見ノミニテ變更シ得サルコトトナリ得ルニアラサヤト述ヘ置キタル由ニテ、要スルニ當方トシテハ右様先方ニ於テ實質上何等失フ所ナク、而モ當方ノ面目ヲ立テ得ル如キ案ヲ考フル次第ニシテ、右我方ノ誠意ノ存スル處ハ先方ノ充分之ヲ諒察スヘキ處タリ、本大臣カ八日「バ」公使ニ對シ帝國政府ノ意向トシテ本制限

令ノ撤回又ハ停止ヲ重ネテ強ク要請シ置キタルハ實ニ以上ノ理由ニ基クモノニ外ナラス。

三、就テハ貴官ハ至急外務大臣ニ面會ノ上前記我方ノ誠意ノアル處ヲ詳述シ、海運問題ニ關シ我方ノ取リタル態度ニ鑑ミ、陶磁器問題ヲ前顯「イ」又ハ「ロ」ニ依リ速急解決方強ク慫慂セラレ、結果何分ノ儀御同電アリ度。

此二電ヲ讀ンダ筆者ハ海運問題ニ關聯シ陶磁器問題ニ對スル外務省ノ態度ニ大ナル變化ノ生シタルコトヲ知ツタ。然シ現地デハ兩三日前カラ蘭側ノ鼻息ガ荒イ故、我々ガ之ヲ正面ヨリ排撃スル態度ニ出レバ、從來ノ例ニ徴シ必ス東京カラ心配シテ來ルデアロウシ、七月三十日及八月二日ノ來電ニ依レハ數量及取扱比率共ニ一九三三年ノ實績ヲ基礎トスルニ於テハ、東京ハ満足ダト云フテ居ルノダカラ、八月九日會談ノ際筆者ヨリ「ランネフト」代表ニ此趣旨デ話シ、同時ニ先方ノ提議ヲ受容レテ會商中一九三三年ノ實績ヲ全般的ニ維持セント欲シタ矢先キ、前記二電ヲ受取ツタガ、和蘭政府ガ東京ノ要求ヲ承諾スルヤ否ヤハ全然未知數デ、若シ之ヲ蹴ツタ時ノ日本ノ態度ハ大凡ソ見當ガツイテ居ルカラ、我々トシテハ寧ロ筆者ガ九日ニ「ラ」ト話シタ「ライン」デ進ムノヲ萬全ト考ヘ、越田代表モ此趣旨ヲ含ミ十日「ホーフストラーテン」氏ト會見ノ際、左ノ如キ談話ヲ交換シタ。

越田ヨリ日本商人ハ今回ノ抜打的ニ公布セラレタル陶磁器制限令ニ對シ大ニ憤慨シ居リ、日本政府モ其不當ニシテ面目ニ關スルモノナルニ因リ在海牙公使ニ訓令シテ右制限令ノ撤回又ハ停止ヲ要請セシメ居レルカ、右ニ關シ貴方ニ於テ何等情報ニ接シ居ラルルヤト訊ネタルニ「ホ」ハ和蘭トシテハ右要請ニ應スル事

ハ困難ナリト答ヘタルニ付、越田ハ昨日貴下ハ該制限令ハ一九三三年ノ實際輸入數量ヲ基準トスル旨ヲ申サレタルカ、然ラハ第二條ノ輸入業者ノ資格條項ノ如キハ重要ナラサルヘキニ付、之レヲ可然改正スル事ハ差シテ困難ナカルヘシト思ハル、日本商人ノ最モ非難スルハ右ノ點ナレハ之ヲ改正セラルルコト必要ナリト云ヒタルニ對シ、「ホ」ハ昨日申上ケタル通り之ヲ單ニ日本商人ニ對スル數量幾許ト云フカ如キ方法ニテ改正スル事ハ不可能ニハ非サルモ、夫ハ會商カ妥結ニ達シ協定中ニ規定セラルル事ヲ要シ今直チニ之ヲ爲ス事ヲ得サル儀ナリ、然レ共右條項ノ規定ハ日本商人ニ關シテハ三三三年ノ實數ニ依ル様自己ノ名譽ニ掛ケテ其適用ヲ受合フニヨリ、日本側ノ「ボイコット」ヲ止メサスル様御取計アリ度シト云ヘルニ付、越田ハ日本商人ハ制限令ノ抜打的實施ニ對シテ憤慨シ居ルモノナレハ、若シ貴方ニ於テ其原因ヲ除去セラルレハ自然ニ消滅スヘキモノナリ。一體輸入業者ノ資格ニ付若シ日本商人ニ關スル限り實數ニ依ル事可能ナリトセハ、第二條第二號 A、B ノ區別ノ必要モ無カルヘキニ非ラサヤト問ヘルニ對シ、歐洲商人ニ付テハ三三二年迄規則的ニ輸入シ三三三年ハ偶然輸入ヲセサリシ者及三三二年迄ハ輸入セサリシモ三三三年ニ至リ偶然輸入シタリシ者アルニ付、此等ノ者ニ對シ公平ナル考慮ヲ加ヘントスル趣旨ナリト云ヘルニ付、此點ニ付テハ日本商人ニ於テモ同様ノ「ケース」アルヘシト云ヘルニ、歐洲人ニ付テハ右ノ考慮ハ必要ナルモ日本人ニ付テハ單ニ三三三年ヲ基準トスル事モ差支無ク、要スルニ同年ニ於ケル日本人ノ輸入總量ハ保障セラルルモノナレハ不便ナカルヘク、若シ日本商人カ此ノ上永ク「ボイコット」ヲ續クルニ於テハ、日本商人ニ對スル割當ハ歐洲人等ニ振當テラルヘク、又歐洲ヨリノ輸入ヲ爲ス事トナルヘシト述ヘタルニ付、越田ハ單

ニ貴官ノ言葉丈ニテハ日本商人ヲ満足セシムル事ハ困難ナルヘク、若シ貴官カ該制限令ノ適用上日本商人ニ對シテハ三三年ノ實數ニ依ルヘキ旨ノ書面ニ依ル保障ニテモ本官ニ與ヘラルルニ於テハ或ハ可ナランカトモ思ハル、尤モ右ハ首席代表トハ未タ相談セサル本官即座ノ思付キニ過キスト告ケタルニ、「ホ」モ亦首席代表ノ意向ハ知ラサルモ自分限りノ判斷ニ依レハ右保障ハ差支ナシト思ハルモ、同時ニ貴官ヨリ日本側積止ノ撤回ヲ保障セラルル事絶對必要ニシテ、若シ貴官ニ對シ右保障ヲ爲シ他方日本商人側カ積止ヲ繼續スルカ如キ事アラハ少ナカラサル面倒ヲ惹起スルノミナラス自分ノ面目ニモ關スル事トナルヘシト云ヘルニ付、越田ハ日本商人ハ三三年ノ數量カ實質上保障セラルルニ至ラハ賣止ハ撤回セラルルニ至ルヘシト信スルモ、本官ヨリ之ヲ保障スル事ニ付テハ首席代表トモ相談スルノ必要アルニ付、以上相互的保障ノ交換ニ付テハ各自首席代表ト相談ノ上更ニ會談スヘシト約シタリ。

然ルニ外務省ノ惡ヒ癪デ先方ガ強硬ニ出ルト遲疑逡巡シ、少シ折レテ來ルト無暗ニ鼻息ガ荒クナル、今回モ其通り越田「ホ」會見ニ關シ東京カラ、右ハ「バプスト」公使申出ニ關スル電報ノ接到前ニ爲サレタモノト思フガ、其際使用シタ改正ナル語ハ我方ノ立場ニ付蘭印側カラ何等惡用サレル虞ナシトモ限ラヌ故、心附ノ儘申進スト云フテ來タ。此「バプスト」公使ノ申出トハ、同公使ガ本國政府ノ訓令ニ依リ、蘭印側ヘ爪哇陶磁器輸入組合解散ヲ條件トシテ、陶磁器輸入制限令ヲ停止スヘキコトヲ八月十日廣田外相ニ口頭デ通告シタモノデ、陶磁器問題ハ之ニ依リテ解決セラレルノデアアルカラ誰シモ満足デハアルガ、此「コンピネーション」ハ元來筆者ガ「ランネフト」代表ニ提言シタノニ端ヲ發スルモノデアアルシ、初期ノ來電ヲ追想シタラ越

田代表ニ右ノ如キ注意ヲ云フテ來ラレタ義理合デハ無イト思フ。ソハ兎モ角本件ガ斯クノ如ク急轉シタノデ一九三三年度實績ヲ各種商品ニ會商中維持スルノ案ガ有耶無耶ニ葬リ去ラレタノハ筆者トシテ頗ル遺憾デアルガ、事態ノ推移上此問題ヲ提起スル機會ヲ失ツタ。若シ想像ヲ擅ニスレハ「ランネフト」代表ノ爲セル會商中現状維持ノ提言ヲ採消ス爲蘭側ハ此舉ニ出テタノカモ知レス。

夫ノ磐城電報問題ニ關シ「ランネフト」代表ハ八月十日筆者ニ手紙ヲ寄せ、更ニ愚痴ヲ並ベタガ、其結末ニ於テ「余ハ貴下ノ口頭説明ニ依リ本件ガ我々間ニ終了セルモノト考フ」ト記シ、之ヲ先方ハ手ヲ引イタ。而シテ「バプスト」公使ノ申出ニ關スル情報ニ接シタ筆者ハ八月十一日「ランネフト」代表ト會見シ、左ノ談話ヲ交換シタ。

只今此ノ如キ電報ニ接セリトテ大臣來電ヲ翻譯讀ミ聞カセタル處、「ラ」ハ右ハ全ク初耳ナリ、自分ノ方ニハ未タ何ノ訓令モナキカ、昨日「ホ」フストラテン」越田代表ト會見、比率問題ニ付日本側ニ完全ナル満足ヲ與フルコトニ打合セ濟ナリト考フト述ヘタル故、本使ハ此事ハ越田代表ヨリ聞及ヘリ、内容トシテハ或ハ同一ニ歸着スルヤモ知レサルカ、形體ノ上ニハ大ナル差アリ、昨日ノ和蘭公使ノ申入レハ日本ノ「アムール・プロバー」ヲ満足セシムル上ニ大ナル差アリ、何レニセヨ本國政府ノ訓令ナリトシテ和蘭代表者カ我カ外務大臣ニ公式ニ通知セルコトヲ、如何ナル場合又如何ナル事情アルモ、之カ變更ヲ受諾スルカ如キコトハ日本政府トシテ到底承諾出來サル儀ハ今日ヨリ御承知置アリ度シト云ヘルニ、「ラ」ハ自分ノ方ニ何等ノ情報ナキ故如何トモ申上ケ難キガ、接到次第電話スヘシト云ヘリ（大臣來電ニハ制限令ヲ停止ス

ヘキ旨申出タリトアリタルカ、武富公使ノ電報ニハ蘭國外相カ輸入組合ノ解散ト同時ニ輸入制限令モ即時撤回スルコトヲ申出ル様「バプスト」公使ニ訓令セル旨語レリト書載シアリシニ付、本使ハ態ト之ヲ廢止ト翻譯讀ミ聞カセタル處、「ラ」ハ意外ノ面持ニテ果シテ廢止ヲ約束セル次第ナリヤト聞ケル故、本使ハ日本語ニテハ意義餘リ明確ナラス、「アボリション」又ハ「シユスバンション」ノ兩方ニトリ得ルガ何レニセヨ貴方ニ訓令到着セハ其ノ何レナリヤ明カトナルヘク、當方トシテハ何レニテモ差支ナシト答ヘタルニ、「ラ」ハ日本ノ「アムール・プロバト」ハ然ルコトナガラ、自分ノ方ノ顔モ立テ、貰ハネバナラス、廢止ハ頗ル困難ナリト云ヒ、右兩語ノ外ニ又ハ「モデイフィカション」ト附言セル故、本使ハ此ノ如キ意義ハ日本本文ニ毛頭ナク又承諾出來スト答ヘ置ケリ。

然ルニ筆者歸還後間モナク「ラ」ハ本國政府ヨリ訓令ヲ接受セリトテ筆者ヲ來訪ノ上、電報中ニハ「廣田外相ヨリ新制限令ノ停止又ハ修正ヲ求メ來ルハ甚タ遺憾ナリ、陶磁器輸入組合ノ解散コソ前提條件タルヘシ」トアリ、右ハ今朝御話ノ貴方來電ト齟齬シ居ルニ付、右ノ次第ヲオ知ラセスルト同時ニ此點ニ關シ本國政府ニ照電セルカ、多分満足ナル解決ニ達シ得ヘシト期待スト述ヘタルヲ以テ、本使ハ東京ヨリノ電報ニハ明ニ新制限ヲ停止ストアリテ、修正ナル語毛頭ナク、是迄日本側ヨリ修正ニ關シ提議セルコト曾テナント答ヘ「ラ」ハ本國ヨリ返電アリ次第早速御通知スヘキモ、新制限令ノ停止發令ニハ國內手續上四五日ヲ要スル見込ナルニ付右豫メ承知置アリタシト附言シタ。

「バプスト」公使ハ廣田外相ニ停止スト云ヒ、「デ・グラーフ」外相ハ武富公使ニ撤回スト述ベタノニ八月十二日「バ」公使ハ十日談話ノ次第ヲ覺書ニ認タメテ送附シ、夫レニハ停止又ハ修正スヘシト記載シアリテ、前言ト相違スルカラ、右ノ次第ヲ指摘スルト共ニ、本件ハ既ニ大臣トノ間ニ明確ニ申合セ濟故、特ニ覺書ヲ必要トセヌトテ之ヲ返附シタトノコトダ。海牙デモ本件ニ關スル武富公使ノ抗議ニ接シタ外務次官ハ（大臣旅行中）、「バ」公使ヘノ訓令ニハ明カニ停止又ハ修正ト書シアリ、御目ニ掛ケテモ宜シト云フタトノコトデアル。此修正ナル語ガ越前「ハ」會談ノ結果後ニ追加サレタモノデアルカ否ヤハ知ラヌガ、本件交渉ノ初期デアツタラ、日本ハ必ラス修正ヲ満足シタデアロウ、又今回ノ提議ノ時デモ「バプスト」公使ガ之ヲ初メカラ加ヘテ居タラ廣田外相ガ拒絕シタトハ思ハレヌ。何レニセヨ蘭側ハ海牙ト「バタヴキヤ」トノ間デ照覆ヲ重ネ居ルモノト見ヘ容易ニ抄取ラス、「ランネフト」代表モ當方ニ氣兼ねシタモノト見エ、八月十八日小谷副領事ノ來訪ヲ求メ、陶磁器輸入制限令ノ停止問題ハ未タ正式ニ日本代表部ニ通知シ得ル時機ニ達シテ居ラヌガ、多分二十一日頃ニハ日本側ノ希望通りニ停止ト決定スルコト、考ヘテ居ル、實ハ本日迄ニハ正式ニ通知シタシト思ヒ、本國政府ト交渉シタノデアルガ、外相モ植相モ不在ノ爲連絡ニ意外ノ時間ヲ費シ、甚タ遺憾ニ思フテ居ルコトヲ筆者ニ告ケテ貰ヒタイト語タタトノコトダ。

八月二十四日「ランネフト」代表筆者ヲ來訪シ、左ノ如キ談話ヲ交換シタ。

「ラ」ヨリ一般訓令ニ關シ昨日「コライン」首相ト電話ニテ話セルカ、詳細ハ電報ニテ通達ヲ受クルコトニ打合セ、右電報ハ多分明日接到ノコト、期待シ居ルニ付、來週火曜日（二十八日）頃ニハ多分各問題ニ付意見ヲ交換シ得ル運ヒトナリ得ヘシト考フ、餘リ遷延セルニ付之ヲ申上クル爲參リタル次第ナリト述ヘタ

ルニ付、本使ハ一般訓令トハ何ヲ意味スルニヤト問ヘルニ、右ハ各種ノ問題ヲ含ミ居レリト云ヘルニ付、陶磁器問題モ其中ニ含マレ居ルヤト聞ケルニ、然リ當地ノ談合ト行違ニ「バブスト」公使ヨリ廣田外相ニ申出ノ次第アリ、同公使カ和蘭ノ代表者トシテ日本外務大臣ニ申出タルコトハ如何ニシテモ取消スヲ得サルニ付、此問題ハ自分側ヨリスレハ非常ニ「デリケート」ナル問題ナルカ、先日モ御話セル如ク自分トシテハ斯クナリシ上ハ停止ノ方針ニテ進ム覺悟ナリト云ヘル故、本使ハ停止ト云フモ發令後停止迄ノ期間ニ於ケル諸問題即チ日本當業者ハ制限令ノ命スル必要書類ヲ提出シ「ライセンズ」ヲ貰ヒ受クル手續ヲ既ニ執レル處制限令停止ニ拘ハラス其以前ニ「ライセンズ」發給其他法令ノ豫見スル諸問題提起實行セラルルニ於テハ本件ハ又モヤ紛糾スルニ至ルヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ良ク諒解セリ、此ノ如キ問題ハ起ラサルヘシト答ヘタルニ付、本使ハ停止ノ精神ヲ汲ミ大局ヨリ善處スルコト最必要ナリト附言セルニ、「ラ」モ之ヲ首肯シ居タリ。

次テ八月二十八日筆者「ラ」會談ノ際「ラ」ハ海運問題ニ對スル回答ト共ニ、日本側ニ於テ爪哇陶磁器輸入組合ヲ解散セラルルニ於テハ、和蘭政府ハ其好意の意向ヲ示ス爲陶磁器輸入制限令ヲ停止スルコトニ決セル旨ヲ記載セル覺書ヲ示シタルヲ以テ、筆者ヨリ貴方ハ制限令停止ニ關シ當方ヨリ爪哇陶磁器輸入組合ノ解散セル事ノ書面通告ヲ要求シ居ラルル處、右解散ハ八月十二日決議セラレ居ルニ付、之ヲ新聞ニ掲載セシメ雙方獨自ノ體容トナシテハ如何ト試問セルニ、「ラ」ハ停止令ヲ出ス動機カ問題ノ輸入組合ノ解散ヲ前提トスル故、書面ニ依ル公式ノ通知ヲ得度ク、其書面ヲ受クレバ即日停止令ヲ發布スヘシ、尤モ本令ハ豫メ國民參議

會ニ上程ノ要アルヲ以テ、當方ノ準備完了次第貴方ニ電話スヘキニ付、其日附ニテ書面ノ發送ヲ得ハ好都合ナリト云ヘリ、仍テ筆者ハ輸入組合ニ關スル蘭側觀測ニ誤解アリ、故ニ當方ヨリノ書面中ニ右誤解ノ生シタルヲ遺憾トシ斯クノ如ク問題トナレル機關ハ一應解散ニ決定セルカ、日蘭華商ヲ網羅シ蘭印官憲ノ承認ヲ受クル輸入組合ノ成立ハ本件ノミナラス各種商品ニ付テモ其必要ヲ認ムル旨ヲ記載スルコトトシ度シト述ヘタル處、「ラ」ハ之ニ贊同シタ。

斯クテ八月三十日蘭側ヨリ陶磁器輸入制限令停止令公布ノ準備整ヒタルヲ以テ當方ヨリ前記約束ノ書面送達方申越セルニ付、日本代表部ヨリ左記書面ヲ蘭側ニ送付シ、蘭側ニ於テハ同日附政府令ヲ以テ右制限令停止ヲ公布シ、翌三十一日ヨリ之ヲ實施シ、茲ニ本件ハ一先ツ落着シタ。

以書翰啓上致候陳者本代表ハ爪哇陶磁器輸入商組合ニ於テハ同組合ノ設立カ思ハサル誤解ヲ惹起セルヲ遺憾トシ、其存續カ最早ヤ其設立ノ目的ニ副ハサルニ鑑ミ、本月十二日解散ノ決議ヲ爲シタルコトヲ貴下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

右決議文寫別添ノ通貴覽ニ供シ候

尙過日會見ノ際貴下モ御同感ノ旨表明セラレタル如ク陶磁器ニ限ラス其他凡テノ主要商品ニ付蘭、日及華商並他ノ凡テノ關係商社ヲ網羅セル輸入商組合ヲ成ル可ク速カニ組成シ蘭印當局ノ承認ヲ得テ其機能ヲ發揮セシムルコトハ望マシキコトト思考セラレ候

本使ハ茲ニ貴下ニ向ツテ重テ敬意ヲ表シ候

敬具

一九三四年八月三十日

日本國首席代表 長 岡 春 一

和蘭國首席代表

ジエー・ダブルユー・マイエル・ランネフト殿

三、未晒綿布問題

八月六日筆者カ「ランネフト」代表ト會談ノ際「ラ」ハ會商開始以來日本商品中異常ニ多量輸入サレタモノガアル、近ク右日本品ノ輸入表ヲ送付スヘキガ、今後輸出調節方ニ付日本政府ニ注意アリタイト述ヘタガ、同日附ノ書翰デ一九三三年六月乃至十二月及一九三四年上半期各月別ニ依ル爪哇輸入各種綿布總數量、價額及邦品數量價額表ヲ送ツテ來タカラ、筆者ハ八日之ニ返事シ、前記要望ノ次第ハ直ニ日本政府ヘ傳達スルト共ニ、關係當業者ノ注意喚起方ヲ同政府ニ「レコメンド」シテ置イタ旨ヲ回答シタガ、八月九日「ホーフストラーテン」氏ハ姉齒領事ニ對シ、是非共未晒綿布ノ過大輸入ヲ差止メラレタイ、現ニ東綿ト江商ハ七、八月分トシテ約五百萬碼ノ注文ヲ發シタ形跡カアルト語ツタ。更ニ八月十四日「ヘルデレン」及「ホーフストラーテン」兩氏ハ越田代表ヲ訪問、日本製未晒綿布輸入激增ノ實情ヲ仔細ニ説明ノ上、是非日本政府ニ於テ之カ輸出ヲ統制シ、蘭印ノ「キヤムブリック」制限ノ効果ヲ舉グル事ニ協定アリ度キ旨申出テ、特ニ所謂黃灰色ノモノハ正シク胡魔化セル不正晒綿布ナルヲ以テ、本品ノ輸入増加繼續スルニ於テハ之ニ對シ「キヤム

ブリック」制限令ヲ適用セサルヲ得サルヤモ知レスト述ヘタ。

右ニ關シ筆者ハ東京カラ情報ヲ得タノデ、一應ノ回答トシテ八月十五日左記ノ書翰ヲ「ラ」代表ニ送ツタ。

一、日本政府トシテハ誠心誠意蘭印側ノ意向ニ協調スル目的ヲ以テ既ニ關係當業者側ニ嚴重ナル警告ヲ與フルト共ニ、政府側ノ措置ニ付テモ慎重協議中ニシテ、何レハ現行法律ニ依リ強力ナル統制ヲ實施セシムル考ヘナルモ、之カ實施迄ハ手續其他ノ爲或ル期間ヲ要スル關係上、差當リノ措置トシテ政府ノ權限内ニ於テ充分ナル「インフルエンス」ヲ加ヘ過度ノ輸出ヲ押フルコトニ極力手配中ナリ。

二、又大日本紡績聯合會並ニ輸出綿糸布同業會ハ本月十五日緊急委員會ヲ開キ、日蘭會商ノ圓滿ナル進捗ニ資スル目的ヲ以テ自發的ニ左ノ決議ヲナセリ。

(イ) 八月十五日ヨリ蘭印向三巾金巾ノ賣買ヲ停止スルコト、

(ロ) 蘭印以外ノ仕向ケナルコトヲ立證シ得ルモノノ外、既約ノ四四吋三巾金巾ヲ四二吋ニ振替ヘテ爲ササルコト、

(ハ) 右申合セハ綿織物對蘭印輸出組合成立迄實行スルコト、

其後本件ニ付テハ細カイ交渉ガ行ハレタガ、餘リニ専門的、技術的ニ亘ルカラ、之ハ省略スルコト、シ、九月三日ニ山中顧問ガ「ハルト」氏ト會談ノ時、氏ハ今後日本品ノ蘭印輸入數量ヲ調節スル必要カ生シタ場合ニハ、蘭印ノ輸入制限ニ依ツテ之ヲ行ヒタク、未晒綿布ト同様ノ方法ニ依ル譯ニハ行カスト述ヘタトノコトダ、之ハ前ニ記シタ通り蘭印ノ輸入制限ニ依ラネバ蘭印ニ都合ノ好イ方法殊ニ輸入業者ノ比率等ニ於テ勝手

ナ配合カ出來ヌ爲デ、反面ニ未晒綿布ノ輸入調節ヲ專ラ日本側ニ求メタコトガ蘭商ノ諱忌ニ觸レ手古摺ツテ居ルノヲ如實ニ物語ルモノデアル。

斯クノ如ク未晒綿布ニ付テハ蘭側ガ其輸入過剰ヲ指摘シテ我ニ自制ヲ求メ、本邦當業者ハ蘭側ニ満足ヲ與ヘテ會商ノ進捗ニ資センカ爲難キヲ忍ンテ積止ヲ決行シタノデアルノニ、日ナラズシテ蘭側ガ此積止ヲ非難スルニ至ツタノハ、我儘ナ殖民地行政氣分ヲ赤裸々ニ示スモノデ、十一月二十九日經濟省ノ「ホーフストラーテン」氏ガ姉齒領事ニ述ヘタ左ノ一節ハ、實ニ其標本デアル。

蘭印ハ未晒ノ輸入制限ヲ實施シ其許可總量ヲ一九三三年ノ蘭印總輸入量ニ限定シ且ツ之ヲ全部自由競争ニ委スルコトトシ度キ意向ナルカ、日本綿布輸出組合ハ此措置ニ納得シ積止解除ヲ爲スヘキヤヲ確メタシ、實ハ蘭印トシテハ此際未晒輸入ニ關スル方針ヲ決定セサルヘカラサル時期ニ遭遇シ居ル次第ニテ、若シ右ノ條件ニテ日本輸出組合カ應諾セサレハ、若干日本品ヨリ高價ナルモ己ムヲ得ス全部和蘭ニ割當ツル制度ヲ採ラサルヘカラス。

本件ニ付テハ其後更ニ交渉ガ重ネラレタ末、十二月二十四日經濟省長官ヨリ左ノ如キ書翰ヲ越田總領事ニ送り。一段落着イタノデ、積止ハ昭和十年一月一日ヲ以テ解除サレタ。

姉齒氏ト一般非常時事務局長トノ間ニ行ハレタル口頭ノ討議ヲ確認スル爲本官ハ茲ニ左記ヲ通報ス。和蘭政府ハ考慮中ノ蘭印ニ於ケル未晒綿布輸入割當制實施ニ當リ、試験的ニ最初ノ十ヶ月間原産國ニ關シ何等ノ制限ヲ設ケサル用意アリ、但シ右ハ貴官カ和蘭政府ニ對シ關係日本輸出業者ノ名ニ於テ當領ノ必要

トスル未晒綿布ニシテ本規定ニ含マルルモノカ事實上適時ニ且ツ完全ニ日本ヨリ供給セラルヘシトノ保證ヲ與ヘラルルコトヲ條件トス。

和蘭政府ハ右保證カ與ヘラルル場合ニ於テノミ前記割當制ヲ最初ノ十ヶ月間前記兩氏間ニ談合セラレタル左ノ基礎ノ下ニ實施スルノ用意アリ。

一、少クトモ一九三三年蘭印貿易統計表記載ノ統計番號一五二五乃至一五三〇號ニ屬スル未晒金巾ノ十ヶ月内ノ總數量即チ四千八百萬碼ハ輸入ヲ許可セラルヘク且ツ右數量ハ自由競争ニ委セラルヘシ。

二、最初ノ四ヶ月内ニ輸入許可セラルヘキ數量ハ前記總數量ノ十分ノ四タルヘク、又次ノ六ヶ月内ニ於テハ十分ノ六タルヘキ樣輸入制限措置ヲ講セラルヘシ。

三、當領在住ノ日本人輸入業者ノ割當比率ハ二十五「パーセント」又ハ一九三三年ニ於ケル日本人輸入業者ノ實績カ右割合ヨリ少キ場合ハ右割合ヨリ少キ割トス。

四、統計番號一五二七及一五二八ハ一項目ニ一括ス。

五、本取極ハ一九三五年一月ヨリ十ヶ月間之ヲ實施ス。

本取極カ暫定的性質ノモノナル關係上會商ニ於ケル未晒綿布問題殊ニ日本人輸入業者ノ取扱比率問題ニ關スル今後ノ解決ニハ何等關係ナキモノトス。

四、「サロン」積止問題

日蘭會商中此問題が提起サレタノハ八月九日デ、此日筆者「ランネフト」代表間ノ會話中ニモ一寸此事が出タガ、具體的ニハ越田及姉齒兩氏ト「ホーフストラーテン」氏ト會談ノ際デ、「ホ」ヨリ自分ハ日本デ「サロン」ノ不賣（「ホイコット」ト稱ス）ヲナシツツアリトノ多クノ情報ヲ有ス、現ニ蘭商ハ買入レ不能ノ状態ニ在リト述ヘタノガ初メデアル、之ニ對シ姉齒領事ハ右ニ就テハ率直ニ事情ヲ述フル必要カアルト前置キシ、實ハ蘭印政府カ「サロン」ノ輸入制限令ヲ公布セル際日本ノ「サロン」製造業者ノ手ニ約八萬二千「コルゼ」ノ賣殘リ品ガアツタ、然モ御聞及ノ通り「サロン」業者ハ極メテ小資本ノモノデ、多クハ貧弱ナ業者ガ取扱ツテ居ルノダカラ、當時政府ヲ通シ是非先以テ右手持品ヲ賣捌ク必要ガアル故、新規ノ注文ヲトラズ、若シ注文アラバ賣殘品ヨリ片付ケル方法ニ付注意ヲ喚起シ次第デアル、從テ之ヲ不賣ト云フハ當ラズト返シタルニ、「ホ」ハ右ノ如ク賣殘リ品ニテモ賣ラルナラハ可ナリ、然シ情報ハ不賣デアルトト繰返シタカラ、當日ハ追テ事實ヲ調査スヘシト答ヘ會談ヲ打切ツタ。

然ルニ八月十八日「ランネフト」代表ハ筆者ニ書翰ヲ送り、「サロン」積止ニ關スル日本ノ新聞記事ヲ援用シテ、日本當業者ハ結束シテ蘭印向「サロン」ノ輸出ヲ停止シ居リ、特ニ蘭印デ既ニ「ライセンズ」ヲ得タモノ迄既約品ノ購入サヘ爲シ得ヌ實情ニアルノハ頗ル遺憾デアル、和蘭政府トシテハ此事實ヲ目シテ蘭印政廳ノ執ツタ合法的措置ニ對スル「アジテーション」ト看做ス外ナク、右「アジテーション」ハ通商關

係ノ調整ニ關スル商議ト兩立セヌモノデアルカラ、之カ終了セヌ限り「バタヴキヤ」會商ヲ續行スル譯ニ行カヌト述べ、若シ日本代表部ガ希望スルニ於テハ緊爭ヲ討議シ妥協ノ道ヲ求メ得ヘシト考フルガ、之カ爲ニハ先ツ前記「アジテーション」ヲ完全ニ終熄セシムルヲ要スト云フテ來タ。

此日蘭印經濟省ノ希望ニ依リ未晒綿布及「サロン」ノ當業者會合ヲ催シ、邦商側ハ三井、大同、又一、蘭商側ハ「インターナショナル」、「デオ・ウエリ」、「ボルスミ」、日蘭兩代表部ヨリハ越田、根岸、姉齒、山中「ヘルデレン」、「ホーフストラーテン」出席シ、「サロン」ニ付邦商側ハ蘭印側ノ不滿トスル本品ノ新規商談ニ應セサル實情ヲ以テ直ニ「ホイコット」ト稱スルノ不合理ヲ主張セルガ、其陳述中ニ「サロン」制限令カ一九三〇年ノ輸入商ニ限定シ、同年ニハ未タ殆ント其輸入ヲ取扱ハサリシ邦商ヲ苦シムルハ不都合ダトノ意ヲ漏シタ處、「ヘ」ハ之ニ對シ蘭印ノ自主權ニ依ル法律ニ對シ他國ヨリ干涉ヲ受クヘキ筋合ニ非ス日本ニ於テ「サロン」ノ「ホイコット」ヲ中止セヌ限り會商ニ入ルコトハ出來ヌト意氣捲タルヲ以テ、越田代表ハ元來本日ノ會合ハ最初ヨリ非公式ニ當業者ノ意見ヲ聽取スル目的ヲ有シ、何等議論ヲ爲サントスルノ趣旨ニハ非ス、討議ハ後日關係當業者ヲ交ヘサル日蘭委員ノミノ會合ニ於テ爲スヘシト述ヘ、之レデ治マツタトノコトダ。

其後筆者ハ本件ニ關シ「ランネフト」代表ト屢々意見ヲ交換シタガ、其中ノ主タルモノ左ノ如シ
八月二十四日會談。

「ラ」ヨリ此次ノ會見ニテハ種々ノ問題ヲ檢討スヘク、其内ニハ「サロン」積出停止ノ重要問題モアリト云

ヘル故、本使ハ本件ノ解決ハ極メテ簡單ナリ、數量ノ問題ハ會商ニテ討議スルコト、シ、本邦商人ヲ刺戟セル要素ハ制限令カ輸入資格ヲ一九三〇年ニ求メタルニ基因シ、同年ハ「サロン」輸入ヲ爲セル日本商人ハ極メテ少ク或ハ殆ント皆無ナリシカト思ハル、故ニ輸入資格ヲ一九三三年ノ事態ニ引直セハ積出停止モ自然消解スヘシト思ハルト述ヘシ處、「ラ」ハ「サロン」制限令ハ會商前ノ發令ニ係リ其變更ハ困難ナリト云ヘルニ付、本使ハ積出禁止モ會商前ヨリ行ハレ居レリト云ヘルニ、「ラ」ハ苦笑シ乍ラ何レニシテモ頗ル有益ナル暗示ヲ得タルヲ喜フト云ヒ、之ニ付考慮セントスルカ如キ態度ヲ示セリ。

八月二十八日會談

次テ「サロン」ノ問題ニ入ル、本使ヨリ此問題ニ關スル貴方ノ主張ハ論理顛倒ノ様ニ思ハル、畢竟日本ノ「サロン」業者カ何故蘭印向輸出積止ヲ決議セルヤノ原因ハ法令カ輸入業者ノ比率基準ヲ一九三〇年トシタル結果、日本商人カ一九三三年ニ享有セル輸入權ヲ殆ント全部剝奪サレタル爲之ニ對スル抗議ノ趣旨ト考フ、故ニ本ヲ刈ラスシテ枝ヲ刈レト云フハ本末顛倒ナリト云ヘルニ、「ヘルデレン」ハ其根本ノ問題ハ會商ニ於テ之ヲ協議スヘク、委員會ヲ開ケハ先ツ「サロン」問題ヲ上程スヘキニ付、其協議成立スル何日カノ間先ツ以テ日本ノ積出停止ヲ解除セラル、様致シ度シト云ヘル故、本使ハ例ヘハ其協議整フ迄二週間ノ間隔アリトシテ、此二週間に蘭商カ如何許リノ「ストツク」ヲ蘭印ニ輸入シ得ルヤト云フコトハ貴方ニ於テモ御考ヘニナリ得ヘク、其二週間に積出ノ爲今後二年間蘭商ノ手ニ「サロン」充實スルモノトセハ、會商ノ結果ハ結局何ニモナラサルヘク、要ハ根本原因カ「サロン」制限令ナル惡法ニアルニ就テハ此惡法

ヲモ同時ニ假令一時的ナリトモ會商ニテ終結ヲ見ル迄ノ暫定措置トシテ貴方ニ於テモ之ヲ停止シ妥協ノ精神ヲ示サル、ニ非サレハ、當方トシテ賣止解除ヲ「リコンメンド」スルコトハ困難ナリ。元來賣止問題ハ制限令發布十日後頃ニ決定セラレタルモノナルカ、會商後三ヶ月ヲ經タル今日之ヲ重要視セラル、其意ノ何所ニアルヤヲ解スル能ハスト云ヘルニ、「ハルト」ハ最初ハ之ヲ極メテ輕視シ居タル處、陶磁器問題ニ對シテ同様ノ問題起リ又未晒ニ付テモ同様ノ傾向アリシニ付、若シ日本カ「ボイコット」ヲ武器トシテ蘭印諸制度ニ戰フト云フ意思ナルニ於テハ、此ノ如キ情勢ノ下ニ脅迫サレツ、會商ヲ繼續スルコトハ全ク意味ナシトノ感想ヲ得タル爲ナリト云ヘルニ付、本使ハ未晒ニ付テ斯クノ如キ批評ヲ受クルハ頗ル心外ナリ。貴方ヨリ輸入過剩ニ付統制セラレ度シトノ申出アリタル故、双方ノ爲大乘ニ則リ積出ヲ停止セルモノニテ感謝コソ受クヘキモ非難セラルヘシトハ豫期セサリシト云ヘルニ、「ラ」ハ同意ノ肯キヲ與ヘ居タリ。

次テ本使ハ「サロン」ニ關スル制限令ノ命スル比率ハ日本「サロン」ノ輸入專權ヲ蘭商ノミニ與フルモノナレハ、日本ニ於ケル其買付價格モ理論上蘭商ノ專斷ニ任スコトナルベク此ノ如キ橫暴ノ下ニ商賣ヲスル意思ヲ日本商人カ有セサルハ勿論ノコトナリ。就テハ若シ貴方ニ於テ同時ニ制限令ノ改正及積止停止ヲナスコトニ異存アルニ於テハ、例ヘハ日本側ニテ積止解除ヲ聲明セル一日或ハ二日後ニ、制限令ノ一時變更、夫ハ一九三三年ノ比率カ最モ然ルヘシト思フモ一步譲ツテ一九三二年ノ比率トシ、數量及比率ノ最後の取極ハ會商ニ於テ之ヲナスコト、セハ宜シカルヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ斯クノ如キコトハ斷シテ出來ズト答ヘタル故、本使ハ貴方ハ海運問題ト云ヒ「サロン」ト云ヒ貴方ノ要求スルコトヲ悉ク日本側ニテ受ケ

容ル、ニ非サレハ會商不能ト主張セラル、カ、此ノ如キ態容ニテ國際談判ハ圓滿ニ解決シ能ハサルコトヲ今ヨリ豫言シ置クト云ヘルニ、「ハルト」ハ之ヲ引取り先程申述ヘタル海運案ハ自分ノ方トシテモ餘程讓歩シタル積リナリト云ヘル故、本使ハ最早此ノ上議論ヲ戰ハシテモ同一ナルヘシト述べ、「ラ」ヨリ明朝十時更ニ會合シテ話合ヲスヘシト提議ス。實ハ本使トシテ一應此儘物別レスル意味ニテ前言ヲ述ヘタルニ「ラ」ヨリ明朝會合ヲ續ケ度シト云ヘルハ頗ル意外ニ感シタリ、然シ之ヲ拒絶スルニモ及ハサルニ付本使ハ然ラハ双方共篤ト研究シテ妥協ノ成案ヲ見出シ度シト云ヒ散會セリ。

八月二十九日會談

「サロン」不賣問題ニ關シ「ラ」ハ再ビクドクシク述ヘシ故、本使モ亦前日ト大同小異ノ事ヲ繰返セルカ、本使ヨリ本問題ヲ實際的ニ解決スル一便法トシテ我々ノ間ニ日、蘭商人ノ取扱フヘキ比率問題ニ付小節ニ拘泥セス大局ヨリ一氣ニ之ヲ定ムルコトヲ得ハ好都合ナルヘシト試ニ提言セルニ、先方ハ右ニ付テハ先ツ各商品取扱者ノ比率ヲ知ル必要モアルヘク、委員會ニテノ討議事項トスル外ナシト云ヘルニ付、本使ハ自分ノ提議スル所ハ全ク意義ヲ異ニス、専門委員ノ討議ハ細カクナリ勝ニテ委員會ニ掛クレハ其纏マル迄ノ時日ハ頗ル大ナルニ付、我々ノ間ニ大ザツバニ之ヲ定メントスルモノニテ、例ヘハ日本商ト蘭商間ニ五分五分ノ比率トスルト云フコトニ定メテハ如何ト云ヘルニ、先方ハ飽ク迄委員會ニ上提ノ希望ヲ表明セル故本使ハ今ノ提案ハ日本代表部及日本専門委員ノ名ニ於テ提議セルモノナレハ、貴方ニ於テモ専門委員ノ意見ヲ徴シ之ニ對スル對案ヲ提出セラル、ニ於テハ、敢テ之カ爲ニ委員會ヲ煩ハス必要モナカルヘク、自分

ノ有スル統計ニヨレハ一九三三年度ニ於テ綿織物ニ付數量輸入比率ハ日本商五三、歐米商三九、華商一三其他五ト云フ「バーセンテージ」ニナリ居レリ、其他ノ商品ニ付テハ價格ニヨルモノナルカ日本商三八、歐米商三〇、華商二一、其他一一、之ヲ總括的ニ價格ニ直セハ日本商四〇、歐米商三五、華商一七、其他八ト云フ比例ナリ、就テハ只今提議セル五分五分ノ比率ハ蘭商ニ對シテ頗ル有利ナルモノトナリ居ル次第ナリト云ヘルニ、「ハ」ハ然ラハ華商其他ノ割前ハ如何ニスヘキヤト聞ケルニ付、本使ハ夫ハ日蘭双方ヨリ對等ニ割與スルコト、シ差支ナシト云ヘルニ、先方ハ以上ハ貴方ノ統計ナルヘキカ當方ニテモ篤ト研究スヘク、五分五分ニテハ行カスト云フ様ナ態度ヲ示シ居タリ。「ラ」ハ和蘭代表部トシテ比率問題ノミニ優先討議ヲ與フルコトハ困難ニシテ各問題ヲ同時ニ討議ヲ進ムル必要アルニ就テハ、海通問題ニ關シ主義上ノ解決ヲ得ル迄委員會ハ之ヲ開催スルコトヲ得ス。又「ボイコツト」問題ノ解決スル迄ハ會商繼續ノ可能性ニ付意見ヲ表明シ難シト云ヘルニ付、本使ハ此問題ヲ實際的ニ解決シ度シト思ヘハコソ今ノ提議ヲナシタル次第ナリト應酬シタルニ、「ラ」ハ重ねテ「ボイコツト」停止方日本ニ訓令ヲ求メ得サルヘキヤト云ヘルニ付、右ハ只今明カニ出來スト御返答スルノ外ナシ。日本商人側ヨリ見レハ非ハ蘭印政府カ不合理ナル法令ヲ發布セルニ基クモノナレハ、其本ヲ刈ラスシテ一方ノミニ義務ヲ負ヘト云フカ如キ考案ニハ、何人タリトモ到底承諾スルノ餘地ナカルヘシト述フルト同時ニ、此積止問題ハ會商以前ヨリ發生シ居タルニ今ニ及ンテ斯クノ如ク執拗ニ本件ニ執着セラル、理由ハ全ク了解シ難シト云ヘルニ、「ラ」ハ實際自分等トシテモ最近迄之ヲ輕視シ居タルカ、近着ノ「ジャバン・クロニクル」ニヨリ此運動ヲ日本官憲カ獎勵後援シ居

ル情報ニ接シ深ク印象ヅケラレシ次第ナリト云ヘル故、本使及越田代表ヨリ纒々其誤謬ヲ指摘シ、日本ニ於テ輸出組合カ法規ニ從ヒ設ケラレシ以上其會員ハ同組合ノ決議ヲ遵奉スル義務ヲ負ヒ、之ニ違反セルモノハ法規ノ豫定スル罰金ヲ支拂ハサルヘカラス、此場合私的團體ノミニテ制裁ヲ加フルコト困難ナルニ付監督官廳ノ官吏之ニ干與スルコトアルハ當然ニシテ、毫モ決議其モノニ參與セリ等ト云フ問題ハ起ラスト云ヘルニ、先方ハ「サロン」賣止問題ハ極メテ小事件ナルカ、他ノ問題ニ付蘭印ノ處置ニ反抗スル運動ヲ繼續セラル、様ニテハ此雰圍氣ノ下ニ會商ヲ續クルコト困難ナリト前提ニ於テ本件ヲ提起セル次第ナリ就テハ今後「ボイコット」ヲ爲サスト云フ保障ヲ得置度シト云ヘルニ付、本使ハ此理論ハ自分等トシテ到底了解出來ス、貴方ハ前約ヲ無視シテ十月一日以後ハ勝手ノ措置ヲトルト云フコトヲ標榜シ乍ラ、一方ニ其勝手ノ措置ニ付何等抗議セヌト云フ口約ヲ取付ケントスルカ如キコトハ我々トシテ到底受諾困難ナリト答ヘ、種々討議ノ末、「ヘ」ヨリ然ラハ貴方ヨリ日本政府ニ「サロン」ニ關スル「ボイコット」ヲ停止セラルレハ（「ラ」口ヲ挿ミ之ハ決シテ新聞ナドニ出シテ貫ヒ度クナシ、只「サロン」業者カ蘭商ノ買付ニ應スルコトヲ承諾セリト云フ情報ヲ得レハ充分ナリ）、「サロン」制限令モ日本人ノ希望ヲ満足セシムル様修正セラルヘキ様觀測セラル、節アリト打電スルコトハ出來間數ヤト問ヘルニ付、本使ハ若シ斯クノ如キコトヲ東京ニ電報シ一方賣止ヲ解キ他方右ノ觀測實現セラレサル様ノコトアリテハ本使ノ立場全ク無クナル次第ナルニ就テハ、今少シク具體的保證ヲ得度シト云ヘルニ、「ラ」ハ今ノ所之以上ハ困難ナリ、貴方ノ立場モサルコト乍ラ自分等ノ立場モ御同情アリ度シト云ヒ、本件ニ付テハ先般差上ケタル書面ノ回答ヲ未タ

受ケ居ラサルニ付同書面ノ引續キトシテ手紙ヲ差上クルヘシト云ヘルニ付、本使ハ其手紙ノ書キ振ニハ充分御注意アリ度ク、夫カ爲更ニ難關ヲ増加セサル様希望スト云ヘルニ、「ラ」ハヨク了解セルモノ、如ク本使ノ印象ニヨレハ「ラ」ハ本件ニ關シ本國政府及當地關係省ト協議ノ上何カ便法ヲ講スル趣旨ニ於テ手紙發送ノコトヲ申出タルニハ非サヤト思ハル、ガ、「ラ」ハ前記「ジャバン・クロニクル」ノコトヲ纒々引證シ日本官憲ノ干與ニヨリ今後類似ノ行動カ繰返サル、ニ於テハ蘭印ノ堪ヘ得サル所ナレハ之ニ關スル保障ヲ同時ニ得度シト申出テシ故、本使ハ前記ノ如キ釋明ヲナシタル後、此ノ如キコトハ到底約束スルヲ得ス萬一蘭印側ノ行動ニ不滿ノ爲日本商人カ何等カノ「ステツプ」ヲトリタリト假定シ、同様ノ問題起リシ場合ニハ其時更ニ協議スレハ宜シカラサヤト答ヘタルニ、「ラ」ハ大ニ然ラス、若シ「ボイコット」ノ處置カ今後繰返サル、場合ニハ直ニ會商斷絶ノ事ト御含ミアリ度シト云ヘル故、本使ハ先ノコトハ先ノコトナリ今ヨリ之ヲ論議スルニモ及ハサルヘキガ、若シ貴方ニ於テ先般貴方ノ希望ニ副フ意味ニ於テナセル未晒綿布輸出統制ニ關シテ云ハレ居ルナラハ、利害ヲ超越シテ會商進捗ノ爲右決議ヲナセル諸會社ハ大ナル失望ヲ感スヘシト云ヘルニ、決シテ今現實ニ起リ居ル問題ニハ非ス、未晒ノ問題ニ付テハ圓滿ニ解決シ、其詳細ニ付テハ經濟省ヨリ越田總領事ニ御話スル筈ニナリ居レリト答ヘタリ。斯クシテ先方ハ當方ヨリ海運問題ニ關スル回答ヲ待チ、當方ハ「ボイコット」問題ニ關スル先方ノ手紙ヲ接受スルモ差支ナシトノ態度ヲ示シ、本日ノ會談ヲ終レリ。

豫告ノ通り先方ハ九月五日「ボイコット」ニ關スル書翰ヲ送附シタカラ、同七日筆者ハ之ニ返事ヲ書イタガ、

之ハ單ニ「ボイコット」ノ理論ニ關スル論駁テ、茲ニ掲ケル價值ハ無イ。當時ノ情勢デ此儘會商停頓ノ狀態ガ繼續スルト、或ハ豫測セス事態カ發生セストモ限ラヌカラ、側面ヨリ何等現狀ヲ緩和セシムル必要アリト思考シ居タル矢先、先方ニモ同様ノ希望カアツタノデ、九月三日以降數回ニ亘リ山中顧問ヲシテ「ハルト」氏ト懇談ヲ遂ケシメタ。其經過報告左ノ通り。

一、「ハ」ハ日本側申出ノ「サロン」制限令修正ノ如キハ蘭印政府ノ面目上到底不可能ナルノミナラス、他ニ名案ナキニ付、何等色ヲ附クル意味合ニ於テ、蘭印側一方の措置トシテ右制限令第一〇條所定ノ經濟省長官ノ裁量ニ依リ、一九三三年ノ正規ノ輸入業者ニシテ一九三〇年ヲ基礎トスル現行制限令ノ下ニ於テハ「ライセンズ」ナキカ又ハ尠ナキモノニ對シ、新ニ「スペシアル・ライセンズ」ヲ數日中ニ發給スヘシト述ヘタルニ付、山中ヨリ事前其内容協議方申出タルモ「ハ」ハ右カ蘭印政府ノ一方の措置ナル關係上數量及比率ニ付キ協議スル事絶對不可能ナリト反對セリ。

二、次テ「ハ」ハ右蘭印側措置ハ日本側ニ於テ「ボイコット」ヲ爲シタルカ爲之ヲ爲サントスルノ意ニ非ルモ、近キ將來ニ於テ「ボイコット」停止セラルルニアラサレハ會商ノ圓滿ナル進行ニ面白カラサル結果ヲ招來スヘシト云ヘルニ付、山中ハ事前ノ協議ナキ以上發給セラレタル「ライセンズ」カ日本代表部ヲ満足セシムル時ニ於テノミ「ボイコット」停止方「リコメンド」スルモ、然ラサル限り之ヲ一切本邦當業者ノ判斷ニ委スヘシト答ヘタリ。

越ヘテ九月二十八日「ハルト」氏ハ筆者ニ對シ、「サロン」ニ付日本商人ニ追加「ライセンズ」ヲ與フルコト

ヲ公表スレハ人氣ヲ益々良クスル事ト考フ。卑見ニ依ルモ「サロン」制限令ハ頗ル無理アリト思フニ付、今回ノ「ライセンズ」ハ總量中例ヘハ六〇「パーセント」ヲ日本商人ニ與ヘ、残りヲ「ボルスミ」其他從來多クノ「ライセンズ」ヲ得サリシモノニ與ヘントスル積リナルガ如何ト問ヘルニ付、筆者ハ何レ専門委員ト相談ノ上回答スヘシト答ヘタガ、其後モ細カイ交渉ヲ續ケタ。然ルニ十月二十日來栖局長カラ木村顧問ニ左ノ如キ入電ガアツタ。

「サロン」積止メニ關シテ、貴地ノ交渉ヲ有利ニ導ク爲之ヲ強化シ居ル處、何分小資本ノモノ多ク、最近一部生産者ハ此上ノ持耐ヘ困難ナル爲反對意見出テ、統制危險ニ瀕シ居ルニ付テハ、檻樓ノ出サル内相當ノ條件ニテ成ルヘク速ニ解除サセ度キ所存ナレハ、適當ノ機會ニ於テ本件解決促進方御配慮アリタシ。

我々モ大體此見當デ居タカラ、姉齒領事主トシテ經濟省ト交渉ノ衝ニ當リ、十一月二十日追加「サロン」制限令ノ公布ヲ見、十二月十三日ニハ新「サロン」輸入制限令制定セラレ、本邦當業者ノ希望ハ大體達成シタノデ、昭和九年五月以來實行シテ來タ「サロン」積止ヲ、十二月二十二日カラ解除スルニ決シタ。

五、十月一日以降自由行動問題

前記諸章ヲ略ホ了解サレル通り、會商ガ長引クニ連レ、先方ハ會商中新制限ヲ施行セヌト云フ約束ガ邪魔ニナリダシタ。之ハ本邦カラノ見越輸入ガ隨分激シイノト、他國關係ノ事情モアル故、中立的地位ニ立ツテ考ヘレハ多少同情スヘキ點モアルガ、然シ約束ハ約束デアル我方トシテハ飽迄其遵守ヲ要求スル權利ガアル。

蘭側ハ既ニ陶磁器輸入制限ニ關スル八月二日附書翰中ニ、會議ノ延引ハ蘭印ヲ大ナル不利ニ置クヘキコト明カナルニ付、蘭印政廳カ不確定且ツ耐ヘ得ヘカラサル地位ニ置カル、コトヲ避クル爲必要ナル措置ヲ講スル自由ヲ擁護セサル可ラサルニ至ルヘキコトハ疑問ノ餘地ナシト述べ、自由行動復活ノ準備ヲ始メタカラ、筆者ハ之ヲ防止スル目的デ「ランネフト」代表ノ提言ヲ奇貨トシ夫ノ共同宣言案（陶磁器輸入制限ノ章參照）ノ成立ニ向ツテ邁進シタノデアアル。「ラ」モ最初ハ乘氣デアツタガ、考ヘ直シタモノカ又ハ代表部其他ノ空氣ガ反對デアツタ爲カ、恐ラク後者デアロウガ、次ノ會談ノ時ニハ少シモ此考案ニ氣乗リガ無ク、八月二十四日ニハ一般訓令ニ付本國政府ト照覆中ダト述ヘタガ、同月二十八日會見ノ際「ラ」ハ陶磁器輸入制限令ノ停止、海運問題上程要求等ヲ列記シタ覺書ヲ筆者ニ手交シ、其中デ本節ノ問題ハ初メテ左ノ如ク具體的ニ提起ナレタ。

余ハ本國政府ノ訓令ニ依リ、當領ニ於ケル經濟狀態保護ノ爲ノ諸措置ノ實施方延期ニ關スル約束ハ、來ル九月三十日限り失効スヘキ旨通告ス。和蘭政府ノ意見ニテハ此通告ハ妥當ナリ。何トナレハ第一ニ右延期ニ同意セル際今次會商ノ繼續ハ長クモ三個月ナルヘシト豫期セルニ付、和蘭政府ガ四個月ノ期間ヲ最長限ト定ムルハ至當ニシテ、又双方之ヲ努ムレハ來ル九月中ニ會商ノ主要點ニ關シ妥結ニ達スル可能性アルヘキヲ以テナリ。依テ十月一日以降和蘭政府ハ蘭印ノ經濟狀態保護ノ爲必要ト認ムル措置ヲ執ルノ自由ヲ留保ス。

右ニ關聯スル當日ノ會談要領左ノ通り。

本使ヨリ貴方覺書第二點ノ趣旨ハ十月一日以後總ヘテ自由ノ立場ニ歸リ思フ儘ノ法令ヲ出スヘシト云フ事ナリヤト問ヘルニ、「ラ」ハ然リ、會商意外ニ長引キ又「ボイコット」ノ脅威ヲ受ケ到底堪ヘサルニ付、和蘭政府ノ爲セル差當リノ約束ハ十月一日ヲ以テ終了スルコト、御承知アリ度シトノ意ナリト云ヘルニ付、本使ハ右約束ハ和蘭政府ヨリ武富公使ニ對シ爲サレタルモノナレハ、之ニ關スル問題ハ當然同一經路ニヨリテ取扱ハルヘキモノニテ本使ノ干與スル所ニ非スト一應應對シタルニ、「ラ」ハ既ニ當地ニテ制限令萬般ノ協議ヲナシ居ル事故、本件モ當然兩代表部間ノ問題トシテ取扱フヘキモノト思考スト云ヘルニ付、本使ハ自分トシテハ今申述ヘシ如ク本件ハ日蘭兩國政府ノ協議問題ナリト確信スルニ付此意見ハ東京ニモ申送ルヘキガ、本問題ニ關シ本使ノ意見ヲ求メラレタトシテ之ニ對スル感想ヲ述フレハ、右申出ハ如何ニモ「ブリユタル」ナリ、十月一日ニナレハ其以後ハ如何ナル措置モ自由ニ發令シ得ルト云フコトヲ豫メ通告シ、之ヲ前提トシテ會商ヲ繼續スルコトハ、一種ノ脅迫ヲ日本ニ加ヘツ、會商セントスルニ異ナラス、斯クノ如キハ日本トシテ到底甘受スルコト能ハスト應酬セルニ、「ラ」ニハ右「ブリユタル」ト云フ文字カ餘程刺戟セルモノト見ヘ頻リニ之ヲ非難シ、其取消ヲ要求セルニ付、本使ハ今貴官ハ此内告ヲ當方ニナスハ貴方ノ好意ナリト云ハレタルカ、果シテ然ラハ余路傍ニ於テ通行人ニ今彼ヲ鞭打ツヘシト豫告シ一撃ヲ加ヘタル場合、之ヲ余ノ好意トシテ先方カ受諾スヘキヤ決シテ左様ノコトナシト思フ。況ヤ豫測ニヨレハ幸ニ今ヨリ委員會ヲ開クトシテ、十月一日頃ハ最モ諸問題ノ難關ニ逢著スヘシト思ハル、ガ、其時期ヲ選ンデ五十六種制限令ノ發布ヲ振リカザサルルトシテ、此ノ如キ通告ニ接セルモノカ之ヲ好意ナリトシテ受諾スヘ

キ理由毛頭ナシ。若シ會商長引クヲ不便トセラレ貴方ノ云ハル、ク如ク其遷延ヲ少クスル意味ニ於テ本案ヲ通告セラル、モノナリトセハ、何故ニ九月末日ヲ以テ會商ヲ終了シ度シト寧ロ卒直ニ云ハレサルヤ我々トシテモ成ルヘク速ニ會商ヲ終リ度キ希望ニテ、貴方ニテ同意セラル、ニ於テハ九月末日閉會式ヲ舉クヘキ合意ヲ今ヨリ定メ置クモ差支ナシト云ヘルニ、「ラ」ハ右ハ到底云フヘクシテ行ヒ難キ表情ヲ示セルニ付本使トシテモ實際問題トシテ「ラ」ノ總督代理中ハ主トシテ委員會ノ討議タルヘク、右代理ノ終ルハ十月十七日ノ由ニ付其以後ニ非スハ最後ノ決定ハ覺東ナシト考ヘラル、カ、此ノ如キ事態ノ下ニ十月一日以後蘭印政權ハ勝手ニ法令ヲ出シ得ル權利ヲ留保スルト云フカ如キハ到底我方ノ承諾シ能ハサル所ナリト指摘セルニ、「ラ」ハ頻リニ「ブリユタル」ノ語カ穩カナラズト云ヒ之カ取消ヲ求メタルニ付、本使ハ之カ穩カナラサルヤ否ヤハ輿論ノ判斷ニ問フコト、スヘク、貴方ノ申出ヲ明日東京ノ新聞ニ全文公表セシムヘシ日本ノ輿論ノ動キカ貴下ノ云ハル、如ク好意ノ表象トシテ之ヲ受容ル、ヤ否ヤハ夫ニヨリテ判斷シテハ如何ト云ヘルニ、「ラ」ハ最初申セシ如ク之ヲ通告スルハ自分ノ義務ニハ非スシテ豫メ好意トシテ申上ケタルモノナレハ公表ハ差控ヘラレ度シト云ヘルニ付、残念乍ラ自分ハ之ヲ好意トシテ取扱フコトヲ得スト云ヒ又同様ノコトヲ繰返セルカ、「ラ」ハ頻リニ「ブリユタル」ノ言ノ取消ヲ要求セル故、本使モ五月蠅ク感シ「シー・グー・ル・グーレー」ト云ヘル處「ラ」ハ盛ニ喜ヒ居タリ。

翌二十九日再ヒ「ラ」ト會見ス、當日ノ會談ハ要スルニ昨日ノ「リカビチユレイション」ニ過キス、殆ント新ニ記スヘキコトナキモ、其内重複セサル分ヲ舉クレハ左ノ如シ。

昨日ノ覺書ニ關聯シ「ラ」ヨリ其趣旨ノ書翰ヲ送り度シト云ヘルニ付、本使ハ斯クノ如キコトハ何ノ必要モナキノミナラス更ニ事態ヲ紛糾セシムルニ過キスト云ヘル處、「ラ」ハ其意味ヲ聞キ違ヘタルモノ、如ク自分ノ手紙ヲ受取ラヌト云ハル、ナラハ最早會商ハ之ニテ終リナリト云ヘルニ付、本使ハ今申述ヘシ趣旨ハ左様ノ意味ニハ非ス、覺書ト同様ノ文句ヲ繰返ス手紙ヲ接受セハ當方ハ貴方ノ見テ以テ重要トスル點ヲ總ヘテ拒絶スル迄ナレハ、此ノ如キ處置ハ徒ラニ會商ヲ難關ニ導クニ過キスト思ヒタレハコソ一言注意セル迄ナリト云ヘルニ、「ヘルデレン」之ヲ聞キ首肯シ居タルカ、「ラ」ハ若シ日本側ニテ自分側ノ條件ヲ受入ル、ニ於テハ委員會即開ノ要求ニ同意スヘシト云ヘルニ付、本使ハ實ニ異ナル事ヲ聞クモノナリ、委員會ヲ成ルヘク速ニ開カントスル希望ハ貴方ニテモ抱カレ居ルコトニテ、委員會開催ノ事ハ双方協議ノ上ニテ取極ムヘキモノニテ、日本之ヲ要求スルカ如キコト毛頭ナシ、又貴方ノ要求ヲ聞クヲ條件トセラル、如ク聞キ取レルカ、昨日以來申述ヘシ如ク十月一日以後新措置ヲ執ル云々ノ通告ニ付テハ本使個人トシテ既ニ反對ノ意ヲ表明セル上、本問題ヲ檢討スル經路ハ約束カ海牙・東京間ニナサレタル關係上當然同一ノ經路ニヨルモノト考ヘ居レリ、又「サロン」「ボイコット」問題ニ就テハ本ヲ刈ラスシテ枝ノミ刈リ度シト云フ御意見ニハ贊成シ難シ、要スルニ貴方ヨリ勝手ノ問題ヲ出シ之ニ聽從スルヲ條件トシテ云々ト云ハル、コトハ相互對等ノ立場ニ於テ會商スル我々ノ決シテ受諾シ能ハサル處ナリト反駁セルニ、「ラ」ハ毛頭斯クノ如キ趣旨ニテ申シタルニ非ストテ種々辯明シ居タルカ、「ヘ」口ヲ挿ミ自分カ海牙出發ノ際四ヶ月アラハ會商ハ充分纏マリ得ルモノト和蘭政府モ考ヘ居タルニ、既ニ三ヶ月ヲ經過セル今日未タ具體的問題ニ一步モ

踏ミ入レサル様ノ有様ナレハ、和蘭政府カ四ヶ月經過後新措置ヲ執ルノ自由ヲ豫告スルニ不合理ナシト考フト云ヘルニ付、本使ハ其當時日本ト印度トノ會商經過モ承知シ居ラル、等ノ和蘭政府カ、此ノ如キ複雑ナル問題ヲ四ヶ月位ニテ纏メ得ルト思ハレシハ大ナル錯覺ナルカ、夫ハ兎モ角トシテ貴方ノ言ヒ分ハ約束ヲ自己ノ都合ニヨリ「シツフオン・ド・バビエー」トナサル、モノニテ、若シ各國カ自由ニ同様ノコトヲナシ得ルナラハ一方ニハ頗ル便宜ナルヘキモ他方ハ斯クノ如キ我儘ヲ甘受スル能ハサルヘシト述ヘ、結局本使ハ本使限リトシテ右通告ノ受諾ニ絶對反對ノ態度ヲ持スルト同時ニ、本件ハ日蘭政府間ノ問題故東京ニ傳達シ其結果ヲ待ツコトスヘシト述ヘ、「ラ」モ之ニ同意シ、本問題ヲ打切レリ。

九月一日「ランネフト」代表カラ誤解ヲ避ケル爲ダトテ先般來ノ諸問題ヲ再述シタ手紙ヲ寄セタカラ、筆者モ亦九月六日其返事トシテ會談要領ヲ網羅シタ書翰ヲ送ツタガ、自由行動問題ノ末尾ニ「若シ十月一日ヲ以テ會商ヲ打切り、又ハ會商中ト雖モ新制限措置ヲ自由ニ執リ得ルコトヲ以テ當方牽制ノ具トスルカ如キ威嚇ノ趣意ニ非スシテ眞ニ會商圓滿促進ノ意ナルニ於テハ、右ノ如キ最後通牒ハ之ヲ撤回シ、委員會ヲ速開セラレテハ如何」ト其反省ヲ求メタ。東京デハ當方カラ其都度詳細ニ亘ル情報ガ電報サレテ居ルニモ拘ラス、共同宣言案(但シ宣言案トスルト國內手續ガ面倒故、先方ノ一方的宣言ノ形式トスル様云フテ來テ居ル)ノ工作ヲ進メンコトヲ希望シ、之ヲ我々ニ訓令シタ。然シ前後ノ事情カラ考ヘテ自由行動留保ノ通告ハ先方トシテハ共同宣言案ニ代ハルモノトシテ提出シタノデ、此消息ガ分ラナケレハ餘程頭ガ惡イカ又ハ事務ニ不忠實ナノデアル。若シ分ツテ居ルニ拘ラス前顧ノ電報ヲ打ツタノナラ、之ハ出來ヌ相談ヲ持掛ケテ徒ラニ我々ノ

仕事ヲ煩瑣ニスルニ過キスガ、筆者ハ最初カラ會商中新制限措置ヲ執ラヌトノ約束ハ會商開催ノ一條件トシテ帝國政府ガ和蘭政府ヨリ取付ケタモノデアルカラ、此約束ノ變更修正ハ和蘭側トシテモ當然日本國政府ニ直接之ヲ爲スヘキモノデアリ、又帝國政府ハ必スヤ我武富公使ヲ通シテ抗議スルコト、考ヘテ居タノニ、東京デハ成功ノ見込ナシト逡巡シタ爲メカ或ハ責任ヲ當方ニ轉嫁セントスルノ魂膽カ、何レニセヨ主動者トシテ積極行動ニ出デヌカラ、筆者ハオ門ド違ヒノ交渉ダトハ思ヘド帝國福祉ノ爲最善ノ努力ヲ盡スニ決心シ、關西地方風水害見舞ニ對スル答禮旁九月二十四日「ランネフト」代表ヲ訪問シタ機會ニ、本問題ニ關シ左ノ談話ヲ交換シタ。

本使ヨリ愈々委員會モ開カル、事トナリ御同慶ノ至リナルカ、不幸ニシテ十月一日迄ニハ最早一週間ヲ餘スノミト云ヘルニ、「ラ」ハ當方トシテハ事情ニ迫マラレ同日ヨリ引續キ二、三新法令ヲ出ス手筈ニナリ居レリト云ヘルニ付、本使ハ貴方ニテハ當方ノ身ニナレハ斯クノ如キ處置カ如何ニ影響スルヤト云フ事ヲ毫モ考慮セラレサルヲ遺憾トスト云ヘルニ、「ラ」ハ新令ハ決シテ反目的ノモノニハ非スト云ヘル故、本使ハ其性質ノ如何ヲ問ハス我々不知ノ間ニ發令セラル、ニ於テハ既ニ日本内地ニ於テ代表部軟弱ナリトノ空氣濃厚ナル際我々ノ立場ハ全ク無クナル次第ナリト指摘セルニ、「ラ」ハ其空氣ハ日本ニテハ新聞界カ主タルモノナルヘキモ自分側ニハ更ニ廣範圍ニ亘リ峻烈ナルモノアリ、日本ニテモ軟弱ナリトノ聲ヲ聞クハ此非難カ自分側ノミニ非サルヲ知リテ幾分ノ慰藉ヲ感スト云ヘリ。本使按スルニ當方ヨリ何等ノ措置ヲモ爲サヌ保障ヲ求ムルモ右ハ到底承諾ヲ取付クルコト不可能ナルニ鑑ミ、本使ヨリ「ラ」ニ對シ此件ニ付何等カ

妥協ノ方法ヲ發見セスハ豫期セサル結果ニ逢着スヘク、就テハ發令前少クモ一週間前ニ其考案ヲ當方ニ示シ、意思ノ疎通ヲ計ラル、事トシテハ如何ト云ヘルニ、「ラ」モ夫ハ大イニ考慮ニ値スルト考フルニ付多分此方針ニテ進ミ得ヘク、本夕「ハルト」ト會見セラル、際貴使ヨリ重ネテ本件ヲ提起セラル、様希望スト述ヘタリ。

九月二十四日夕筆者「ハルト」會談要領。

「ラ」總督代理中臨時主席トナレル挨拶ノ爲過日「ハルト」本使ヲ來訪セルニ付、其答訪ヲナス。

其際十月一日問題ニ關シ本使ヨリ今朝「ラ」ト話セル件ヲ聞キ居ルヤト問ヘルニ、「ハ」ハ然リト答ヘタル後、本件ニ就テハ只今「ヘルデレン」ヨリ越田代表ニ話シ中ナリト考フト云ヘルニ付、本使ハ八月二十八日本件通告ニ接セル際本使ノ述ヘタル所ハ當日貴官列席セラレ居タルニ付御承知ノ事ニテ、又九月六日書翰ニテ之ヲ再述シ置ケリト云ヒシニ、「ハ」ハ克ク承知シ居レリト答ヘタル故、本使ハ本件ニ關スル自分ノ意見ハ右ニテ盡クシ居ルカ委員會漸ク始マリシ許リナルニ、間モナク何等カノ法令發布セラレ、其重要性如何ハ別トシ苟モ會商ノ議題タルヘキ事柄ニ觸ル、様ノコトアル場合ニハ、日本ノ「サツセブチビリチー」ハ大イナル衝動ヲ受クヘク、就テハ會商カ「ノルマル」ニ繼續セララル、間此ノ如キ法令ヲ出サス様要求スル次第ナリト云ヘルニ、「ハ」ハ既ニ國民參議會ヲ通過シ將ニ發布セントスルモノハ企業ニ關スル法令ニテ右ハ決シテ日本人ヲ目標トスルモノニハ非サルモ、之ヲ今迄延ハシ居タルハ右發令ノ爲日本人關係ノ如キ感觸ヲ與ヘ會商ノ空氣ヲ惡化センコトヲ惧レタルニヨルモノナルカ、此發令ヲ餘儀ナクセラレタル主ナル

原因ハ、過般米國ノ「タイヤー」製造會社ノ設立ヲ許シタル處、「フアイヤーストーン」社ヨリモ同一ノ要求ニ接シ、法令ナキ爲之ヲ拒ムコトヲ得ス、又瑞典ヨリ燐寸會社設立ノ要求アリ之ヲモ拒ミ得ス、大イニ困却スルニ付瑞西ノ例ニ倣ヒ拒否ノ權ヲ蘭印政廳ニ留保セントスルモノニシテ、蘭印トシテハ日本人ノ小企業ノ如キハ決シテ之ヲ拒絕スルノ意思ナク、又既設ノ企業ニ付容喙セントスルモノニモ非ス。要ハ各種企業ヲ各國人間ニ圓滿ニ配分セントスル趣旨ニテ、蘭印トシテハ英國人カ多數ヲ占メ居ルニ聊カ閉口シ居ル次第ナリ。尙ホ此他ニ二ノ法案アリ、之ハ輸入商品ノ割當比率數量等ニ關スルモノニテ、右ハ全般的ノ問題ナルモ會商事項ニモ關係スルコト故如何センモノカト目下考究中ナリ。今朝貴大使ヨリ「ラ」ニ述ヘラレシ豫メ開示方ノ儀ニ付テハ出來得ル限り御希望ニ副フコトニ決シ、之ニ關シ明日ニモ本國政府ニ請訓スル積リナリト云ヘルニ付、本使ハ本使ノ要求スル所ハ豫メ其開示ヲ得テ當方カ必要ト認ムル「サゼスシヨン」ヲナス機會ヲ與ヘ、双方ノ折合ヲ付ケテ始メテ發令ヲ見ルコトトシ度キ考ニテ、日蘭兩國ノ親交ヲ害セヌ爲ノ大局觀ヨリ出發スルモノナレハ、單ニ「インフオーメーション」ノ意味ニテ豫告セラル、ニ於テハ此豫告ハ全然無意義ナリ、又當方ノ「サゼスシヨン」ヲ無視セル發令ノ爲如何ナル結果ヲ招來スヘキヤハ豫斷ノ限リニ非ス、或ハ悲シムヘキ重大ナル事態生セストモ計リ難シト述ヘタルニ、「ハ」ハ自分トシテハ出來得ル限り御希望ニ副フ心組ニテ、又會商ヲ圓滿ニ故障ナク進行セシムル爲最善ノ努力ヲ盡スヘク法令ノ内示ハ無論貴方ノ御意見ヲ承ハリ後日ノ障害ヲ豫メ除去スル爲ナレハ、充分意見ノ交換ヲ盡シ得ル時日ヲ置ク覺悟ナリ。尤モ此内示カ外部ニ洩ル、時ハ非常ナル攻撃ヲ受クヘキニ付、極メテ機密ノ取扱ア

ランコトヲ豫メ要求ス。先ニ述ヘタル企業ニ關スル法令案ハ既ニ御手許ニ届キ居ルコト、信スト云ヒタリ本使ハ自分ノ見ル所ニテハ今迄蘭印政府ノ執レル諸政策ハ總ヘテ消極的ナルカ今少シ積極政策ヲトラル、必要アリト思フト云ヘルニ、「ハ」ハ同感ノ表情ヲ示シタル故、本使ハ右ニ關シ本使到着直後總督ニ示セル大綱ノ末段ニ於テ日本ハ外領ノ開發ニ付人的金の各種ノ協力ヲ吝マサルニ付若シ之ヲ希望セラル、ニ於テハ喜ンテ之ニ應スヘク、萬一何等カ右ニ關シ危惧ヲ懷カル、如キコトアラハ之ヲ除去スル爲喜ンテ必要ノ措置ヲ講スル覺悟アリト申入レタルハ畢竟之カ爲ナリト述ヘ置ケリ。

以上紳士協定ノ成立デ自由行動問題ニ關スル交渉ハ打切ツタ。如何ニ考ヘテモ残念ナガラ此太刀打ハ筆者ノ負ケデアル。東京デハ高ミノ見物ヲシテ居ル丈ケデ誠ニ頼リ少ナイ。蘭側ハ口實カ否カハ知ラヌガ實際ノ難儀ヲ高調シテ自由行動權ヲ要求シテ居ル、我々ガ正々堂々ノ陣ヲ張り、眞向ヨリ國際約束ノ遵守ヲ迫マレバ旗幟極メテ鮮明ダガ、同時ニ又其歸結モ明カデアル。帝國政府ニ此問題デ會商ヲ打切ル勇氣モ決心モナイノハ見エ透イテ居ルカラ、最後ニ腰ヲ折ラレ位ナラ初メヨリ妥協ニ努ムルノガ萬全デアル、筆者ノ工作ハ此實情ヲ基礎トシタモノデ、前記以上ノ妙案ハ筆者ニハ考ヘ出セナカツタコトヲ告白スル。

六、營業制限令

昭和九年九月二十七日筆者發廣田外相宛電信。

「ハルト」ヨリ「ヘルデレン」宛私信ノ形式ヲ以テ作成セル本使「ハ」會談要領ヲ本二十七日「ヘ」越田ニ

手交セリ、其要領中先日話ナカリシニ拘ラス企業ニ關スル新條令ハ本年四月海牙ニ於テ武富公使ニ手交セル營業制限特許令案ト同様ナル事ヲ「ハ」カ明言セル様記載シアリ、從テ其時本使ノ得タル印象ト齟齬アリ。右ニ關シ本使ハ明二十八日午後五時「ハ」ト會見シ度キ意向ナルカ、前記營業制限令案ハ第一條ニ於テ特許制度トスヘキ營業又ハ營業部門ニ關シ最後ノ決定權ヲ全然經濟省長官ノ裁量ニ委スル事トナリ居ル爲或ハ都合次第日本商人排斥ノ手段ニ利用スルノ惧アリ、爲ニ在留邦商ハ固ヨリ内地ニ於テモ國論ヲ刺戟シタル程ナルカ、内實五十六種新制限令ト關聯シ當時ノ經濟省長官ノ説明及蘭商ノ請願書ニ徴シ前記條令案ノ動機カ排日的タル事ハ十分警戒ノ要アリシカ、「ハルト」談話ノ如ク差迫マリタル事情ノ爲全ク工業的企業ヲ制限セントスル緊急ノ情勢ニ依ルモノト思ハル次第モアリ、將又右條令其ノモノノ内容ヲ檢討スルニ、内外人一樣ニ新企業ニ對スル制限ヲ目的トシ居リ、正面ヨリ反對スヘキ理由甚タ乏シキヤニ思考セラル、從テ邦商將來ノ伸展ニ不便ナル點ハアレトモ、「ハ」自身ノ説明ニ鑑ミ今日右條令發布ノ動機カ條令起草當時ト大分異ナリ來レルモノトモ考ヘラレ、萬一ヲ警戒スル趣旨ニ於テ左記二案中何レカノ保障ヲ取付ケ本條令發布ニ對シテ正面ヨリ反對セサル事ト致ス事可然ヤニ思考セラル。就テハ右ニ關シ御意見アラハ至急折返シ御回電ヲ請フ。

(一) 本條令ニ依リ指定スル營業ハ Commercial enterprise of all kinds ニハ適用セラルルモノニ非ストノ趣旨ノ當方問合ニ對スル先方ノ肯定回答又ハ先方ノ一方の宣言。

(二) 本條令ハ日本人ニ關スル限り少クトモ日蘭會商繼續中ハ適用セラルルモノニ非ストノ趣旨ノ前記形

式ノ往復文又ハ宣言。

九月二十七日「ランネフト」代表主催「エキスカーション」ノ際ノ打合せニ基キ、二十八日夕會議場ニ於テ「ハルト」氏ト會見ス、要領左ノ如シ。

本使ヨリ先日自分カ聞キタル時、工業企業ノ問題ヲ話サレタル故、今度發布セラル、法令ハ之ニ關スルモノト思ヒシニ、去ル四月日本政府ニ送達セラレタル案ダト云フコトナリシヲ以テ、實ハ自分カ非常ナル思ヒ違ヒヲナセルコトヲ悟レリト云ヘルニ、「ハ」ハ正ニ原案ナルモ其内幾分修正シ、餘リ不合理ナル官憲ノ干與權ヲ制限セル部分モアリ、之ヲ一讀セラレ度シトテ法案ヲ手交セル後、舊案モ新案モ決シテ對日本のノモノニ非ス、一般ニ萬遍ナク適用スル趣旨ニテ作成セラレタルモノナリト云ヘルニ付、本使ハ御承知ノ事ト思フカ此案ニ就テハ沿革ヲ無視シテ觀測スルコト不可能ナリ、昨年十一月蘭商カ「ペテイション」ヲ提出シテ以來總ヘテノ蘭印法令ハ對日的傾向ヲ有スルモノト一般ニ考ヘラレ、殊ニ營業制限案ハ五十六種法案ト共ニ去ル四月日本政府ニ開示セラレタルモノナルカ、貴官ノ前任者カ其前後ニナシタル聲明其他ニ依テ日本人ハ悉ク右兩案カ對日工作ノ爲ニ作ラレタルモノトノ信念ヲ有シ居ル次第故、如何ニ説明スルトモ具體的ニ右信念ヲ打破シ得ル證據ナキ以上到底其考ヲ變更セシムルコト不可能ナリト云ヘルニ、「ハ」ハ本案ヲ急キ公布セントスル所以ハ主トシテ大工業ヲ目的トスルモノナルコトヲ縷々陳辯シ、現在ノ日本人ニ對シテハ毛頭手入ヲナス考ヲ有セスト述ヘタリ。仍テ本使ハ御趣旨ハ然モアランナレド、本法案ヲ一讀スルニ許可ヲ與フル際官憲ハ如何ナル條件ニテモ之ヲ附シ得ルニ就テハ、若シ苛酷ノ條件ヲ附シ之ヲ遵

奉セサルヲ理由トシテ日本商店ノ營業ヲ差止ルカ如キコトナキヤヲ在留邦商ハ頗ル懸念シ居レリ。發表當時本案ハ日本ノ經濟的進出ニ對抗スル爲ナリト強調セラレシコトハ今尙ホ日本人ノ耳ニハ強キ印象ヲ與ヘ居レリ。若シ今急ニ本令ヲ發布スル理由カ大工業ヲ目標トスルニ於テハ、商業的企業ニハ本令ノ適用ナキコトヲ明ニセラル、ナラハ、日本人ノ有スル危惧ハ之ヲ消解セシムルコトヲ得ヘシト云ヘルニ、「ハ」ハ左様ニ一概ニモ云ヘス、例ヘハ或ル一小都市ニ多數ノ日本商店ヲ開キ無暗ニ廉賣ヲナシ在來ノ商店ヲ窮地ニ陷ル、如キ事態生スレハ矢張り右在來ノ商店保護ノ爲何等カノ方法ヲ講シテヤラサル可ラサルコトモアルヘシ。然シ只今日本商店ニ對シ何等ノ措置ヲ執ル考モナキ故、此ノコトヲ明記セル書翰ヲ貴方ニ送ルコト、シテハ如何、尤モ之ハ自分一個ノ考ニ過キサルニ付「ラ」ト相談ノ上ナラテハ確言ハシ難シト云ヘリ。本使ハ右考案ハ在留日本人ノ有スル不安除去ノ爲効果アルヘキヲ疑ハサルカ、其書翰ノ内容カ不幸ニシテ我々ニ同意出來サル場合ニハ又々書翰ノ照復ヲ重ヌルヲ要シ良キ空氣ヲ作ル爲ノ工作カ却テ反對ノ結果ヲ來タサストモ限ラサルニ付テハ、右書翰發送前案文ヲ一應當方ニ開示シ、互ニ協議シ双方満足ト認メタル上之ヲ發送セラル、様致シ度シト云ヘルニ、「ハ」ハ自分ノ方ニモ面子アリト云ヘルニ付、左様思ヘハコソ折角送ラレシ手紙ヲ無意味ナラシメサル老婆心ヨリ以上ノ提議ヲナセル次第ナリト云ヘルニ、「ハ」ハ何レ「ラ」ト相談シ自分ハ明日午後ハ週末休暇ニ赴キ又月曜日ヨリ數日間「スラバヤ」ニ旅行スルコト、ナリ居ルニ付明朝十時貴方ニ案文ヲ持參スヘシト云ヘリ。本使ハ之ヲ承諾スルト同時ニ、右書翰ハ一般日本人ヲ安心セシムル目的ノ爲ナレハ之ヲ公開スルヲ前提トセサル可ラスト云ヘルニ、「ハ」ハ然シ法案發令前公開

セラル、ハ困ルト云ヘルニ付、夫レハ無論ナリト答ヘタルニ、「ハ」ハ右書翰以外ニ本案カ毛頭日本人ヲ目標トシ居ラサルコトヲ國民參議會ニ提出ノ際政府委員トシテ充分説明シ、之ヲ新聞ニモ公表スヘク、尙ホ又「スラバヤ」ニ赴ケル際日本人側ヨリ希望アラハ危惧ノ念ヲ除去スル爲充分説明ヲナスヲ厭ハサルヘシト云ヒ、更ニ語ヲ次キ本令ハ十月一日以後成ルヘク速ニ公布シ度キ考ナルカ、右ト同時ニ「サロン」ニ關シ日本商人ニ追加「ライセンズ」ヲ與フルコトモ同時ニ公表スレハ益々人氣ヲ良クスルコト、考フルカ如何、自分モ「サロン」ニ關スル制限令ニハ甚タ無理アリト思フ一人ニテ、今回與フル「ライセンズ」ハ總量中例ヘハ六〇「パーセント」ハ日本商人ニ與フルコト、シ、残りヲ「ボルスミ」其他從來多ク「ライセンズ」ヲ得サリシモノニ對シテ與ヘントスル積リナルカ如何ト問ヘル付、本使此ノ如キ專門的ノ問題ハ自分ニハ解ラス、何レ專門委員ト相談ノ上明朝御來訪ノ節答フヘシト云ヘリ、尙ホ、「ハ」ハ前顯書翰ニ關シ出來得ル限りノ保障ハ之ヲ爲ストシテモ、長キ將來例ヘハ六、七年先ノコト迄ハ困難ナリト云ヘルニ付、本使ハ勿論ノ話ナリ、本問題ニ付テハ會商ニ於テ輸出入ニ關スル大問題解決ノ際ハ、既得權尊重其他種々ノ問題ヲ解決シ度キ覺悟ナレハ、其ノ際本件モ提起スルコトアルヘシト述ヘ置ケリ。

前記會談直後東京カラ本章冒頭往電ノ「ライン」デ交渉スルコトニ同意シテ來タカラ、二十九日朝約ニ從ヒ「ハルト」氏來訪ノ節筆者成ルヘク此趣旨ヲ汲入レテ應對シタ、其會見錄左ノ通り。

「ハルト」ヨリ昨日約束ノ書翰案文ヲ示セルニ付之ヲ一讀スルニ、極メテ平凡且ツ一般的ノ事ニテ始ント殆ント何等ノ保障トモナリ得サルカ、然レハトテ當方ノ欲スル所ヲ悉ク記入セシムルコトモ又不可能ナルニ

付、二、三書翰案ニ氣付ノ修正ヲナスニ止メタリ、就中「本法令案ハ決シテ一國ヲ目標トスルモノニ非ス諸外國人ノミナラス和蘭人及土人ニ至ル迄等シク其適用ヲ受ケ、從テ所罰規定其他モ蘭人ニ及フ云々」トノ一節ニ關シ、本使ハ此理届ハ本案起草ノ當初ヨリ常ニ耳ニスル所ナルガ、我々同胞ガ法案ノ目標ハ主トシテ日本人ダトノ信念ヲ懷カシメラレタル今日、此ノ如キ言ヒ分ハ單ニ無用ナルノミナラス却テ思ハサル刺戟ヲ與フル惧アリト述ヘ、削除スルコト、セリ。

右ニ先チ本使書翰一讀後之ニテハ何ノ保障ニモナラス、之ニ依リテ日本人ノ不安ヲ除去スルコトハ困難ナリト思フニ就テハ、寧ロ容態ヲ變ヘ、會商繼續中日本人ニハ本法令ヲ適用セスト云フ趣旨ノ書翰ニスル方可ナリト考フト述ヘシニ、「ハ」ハ夫ハ到底承諾出來スト明確ニ答ヘタルヲ以テ、先方ノ書翰ニ手ヲ入ル、事トセル次第ナルカ、前記ノ如ク當方ノ注文ヲ鵜呑ミニサセル譯ニモ行カス、種々折衝ノ末「ハ」ヨリ然ラハ自分ノ書翰ニ對スル貴方ノ返事中ニ返事ヲ要セサル如キ態容ニテ貴方ノ注文ヲ書入レ、之ニテ満足スル事出來サルヘキヤト述ヘ、「ハ」ノ試案ヲ提出セル故、筆者之ヲ修正シテ左ノ如ク決定セリ。

「貴翰ヲ讀ミ本法令ノ實施ニハ企業ニ關シ日本人ノ利益及既得權就中小商人及小企業ニ對シテ凡ユル考慮ヲ加ヘラルヘシトノ信念ヲ余ニ與ヘタリ」

本使ハ此交換公文ニテ日本政府満足スルヤ否ヤハ全然保障ノ限リニ非サルニ付、貴方ノ書翰案ヲ一應東京ニ電報シ考慮ヲ求メ度シト云ヘルニ、「ハ」ハ夫ハ困ルト拒絕セル故、然ラハ本日貴官トノ打合せハ本使ノ責任ニ於テ之ヲ爲セル次第ナルモ、此以外如何ナルコトヲ日本政府ヨリ要求シ來ルヤハ全ク別問題ナリト

了解アリ度シ、此留保ヲ以テ書翰交換ヲナスモノト御承知アリ度シト云ヘルニ「ハ」モ克ク了解セリ。
尙ホ「ハ」ハ法令發布ト同時ニ政府令ヲ出ス次第ニハ非ス、多分數日間ハ遅ル、コト、思フカ、政府令ニ
テハ先ツ護謄會社、製氷會社、陶器會社其他二、三ノ工業ニ關スルモノト思フト云ヒ居タリ。

斯クノ如クシテ九月二十九日左記公文ヲ交換ス。

以書翰啓上致候陳者二十八日閣下ト會見ノ光榮ヲ有セル對談ニ於テ、閣下ハ本官ニ對シ企業取締ニ關スル
法案ハ其公布ニ關スル最初ノ情報傳ハルヤ日本ニ於テ又特ニ蘭領印度在留日本商人間ニ甚大ナル不安ヲ惹
起セルコトヲ說示セラレ候

本官ハ閣下ニ對シ右ノ不安ハ何等根據ナキコトヲ說明致候ガ、右法令ハ多分近中ニ公布セララルヘキニ付、
本件ニ關シ本官ノ陳述セル所ヲ本書翰ニテ確認スルヲ欣快ト致候

企業ノ取締ハ當領ノ經濟的及社會的均衡及發達ノ見地ヨリシテ望マシカラスト認ムル新企業ノ設立許可ヲ
拒否スル權限ヲ政府ニ賦與スルヲ目的トシ、本法ノ効果ヲ薄弱ナラシメ又ハ回避スルヲ豫防センガ爲メ新
企業中ニハ根本的擴張又ハ變更竝ニ新企業ノ設立ニ均シカルヘキ現存企業ノ所有者ノ變更ヲモ包含セシム
ヘク、從テ此等ノモノハ許可ヲ受クルヲ要スヘク候

法案ノ趣旨ハ現存企業ヲ破壊シ又ハ阻害セントスルカ如キモノニハ毫末モ無之候

政府ハ新企業ノ設立ニ付許可取付ヲ必要トスル企業ノ種類ヲ指定スルノ權限ヲ有スヘク、政府令ニ依リ指
定セララルヘキ此等企業ノ種類ニ付テハ現存企業ノ登録ヲ必要トスヘキモ、右登録ハ許可書賦與ニ關スル單

ナル行政措置ニ外ナラス、而シテ政府令ノ指定セサル企業ニ付テハ現狀其儘タルヘク候

右條令ノ目的トスル所ハ經濟的發達ヲ阻害セントスルモノニ非サルコト云フ迄モ無之、單ニ調和的且ツ均
衡的發達ヲ獎勵シ、殊ニ既ニ存在シ又ハ發育ノ途ニアルモノヲ保護セントスルモノニ有之候

前記ノ陳述ニ依リ本法ハ閣下ガ關心ヲ有セラルル國ノ企業ニ對シ決シテ其目標ヲ置キ居ルモノニ非サルコ
トニ付證言スルヲ殆ント無要ナリト思料致候

本官ハ本書翰カ閣下ヨリ本官ニ述ヘラレタル不安ノ解消ニ貢獻センコトヲ希望致候

本官ハ閣下カ適當ト認メラルル方法ニ依リ本書翰ノ内容ヲ利用セラルルコトニ付何等異存無之候

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十四年九月二十九日「バタヅキヤ・セントルム」ニ於テ

和蘭國臨時首席代表「ジ・エツチ・シー・ハルト」(署名)

「バタヅキヤ・セントルム」ニ於ケル

日本國首席代表「ドクトル」長岡春一閣下

以書翰啓上致候陳者本月二十四日、二十八日及二十九日貴官ト爲セル會談ノ引續トシテ本使ハ本日附貴翰
ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候

右會談ニ於テ本使ハ企業取締ニ關スル法案ノ沿革ニ言及シ、此法案カ我カ國民ニ異常ナル不安ノ感動ヲ惹
起スヘキ性質ノモノタル所以ヲ說明致候處、貴官ノ詳細且ツ懇切ナル説明ノ結果、日本人側ニ於ケル右様

ノ杞憂ハ何等根據ナキモノナルコトヲ納得シ得タルハ本使ノ頗ル欣快トスル所ニ有之、而シテ本日附貴翰ヲ閱讀シ前記法令ノ實施ニハ企業ニ關シ日本人ノ利益及既得權就中小商人及小企業ニ對シテ凡ユル考慮ヲ加ヘラルヘシトノ信念ヲ得、更ニ一段ノ欣快ヲ感シ候
本使ハ茲ニ貴下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十四年九月二十九日「バタヴキヤ」ニ於テ

日本國首席代表 長岡春一（署名）

「バタヴキヤ・セントルム」ニ於ケル

和蘭國臨時首席代表「ジ・エツチ・シー・ハルト」殿

右ノ書翰ハ法令ノ發布ト同時ニ之ヲ公表スルコトニ取極タノデアルガ、十月十三日「ハルト」臨時首席カラ手紙ヲ寄セ、筆者ヨリノ返事中ニ在ル「前記法令ノ實施ニハ企業ニ關シ日本人ノ利益及既得權ニ對シテ凡ユル考慮ヲ加ヘラルヘシ」ノ字句ニ對シ誤解ヲ惹起スル可能性アルモノトシテ注意ヲ喚起セル者アリ、自分トシテハ閣下トノ會談ニ依リ斯クノ如キ虞ナシト確信スルモ、此字句丈ヲ切り離シテ讀メバ右ノ批評モ當ラサルニ非ス、仍テ右ハ日本人ノ爲ニ特殊ノ利益ヲ與ヘシモノト解セラレサルヘキコトヲ明カニシ置キタシ、蘭印政廳ハ總テノ利益ニ對シテ充分ノ考慮ヲ拂ヒ、公平無私ノ精神ヲ以テ新法令ヲ適用セントスル固キ決心ヲ有スルコトヲ茲ニ繰返シ、日本人ノ利益及既得權ニ對シ凡ユル考慮ノ拂ハルヘキコトヲ聲言スト云フテ來タ筆者トシテモ本邦人ノ爲ニ特殊優等ノ地位ヲ求メントスル次第デハ無イカラ、此言ヒ分ニ異存ハ無イガ、若

シ筆者書翰ノ字句修正ヲ要求スルノ趣旨デアルナラ、之ハ到底承諾出來ヌ、九月二十九日「ハルト」氏ト一所ニ交換公文ノ起草ヲスル時、同氏ハ經濟省長官ニ成ツタ許リデアルカラ、「ランネフト」代表ノ總督代理中首席代表ヲシテ居テモ、代表部ヤ經濟省デドレ丈ケ押ガキカ不明故、念ニハ念ヲ入レテト云フ諺ニ從ヒ後日ノ紛糾ヲ避クル爲、筆者返翰中ノ最モ大切ナ部分デ而カモ「ハルト」氏ノ提言ニヨリ之ヲ加ヘタ「本日附貴翰ヲ閱讀シ」以下「信念ヲ得」迄ノ字句ハ、總ヘテ「ハルト」氏ノ述ヘシ所其儘ヲ取り入レ、之ニ對シテ筆者ハ「就中小商人及小企業ニ對シテ」ナル一句ノ追加ト、最初氏ハ「出來得ル限り總ヘテノ考慮」ト云ヒシヲ絶對句ニ改メンコトヲ要求シ、孰レモ氏ノ快諾ヲ得タ上既ニ公文ノ交換ヲ了シタノデアルカラ、夫ノ手紙ノ趣意ヲ小谷副領事ヲ通シテ聞合セタラ、唯受取ハナシデ良イノデ、返事モ不用又公表スル氣モ無イトノコトデアツタガ、十月十六日「ハルト」氏ニ面會ノ節同氏ハ營業制限令ニ談及シ國民參議會デハ非常ニ議論多クテ閉口シタ、殊ニ在來ノ土人企業ニ關シ危惧ノ念ヲ懷ク底ノ質問多ク、日本ニ關シテ何人モ發言シタ者ハナイ、之ニ見テモ本令カ日本ヲ目標トシ居ルモノニ非サルコトヲ充分理解サレ度イト云ヘルニ付、筆者ハ目下ノ空氣斯クノ如クナルハ満足ニ堪ヘサル所ナルカ、此春ノ空氣ハ非常ニ異ツテ居タト云フタラ、「ハ」ハ苦笑シ乍ラ先日ノ手紙ハ自分ハ書クヲ欲シナカツタガ、周圍ノ者カ餘リ矢釜マシク云フ故已ムヲ得ヌ之ヲ發送セル迄ナレハ、其儘ニ差シ置カレタク、自分トシテハ前ノ文句デ結構ト思ツテ居ルト語ツタ。
越エテ十月二十三日「ハルト」氏ヨリ營業制限令ハ同日夕刻公布サレル豫定タトノ通知ニ接シタカラ、我々ハ直ニ交換公文ヲ公表シタ。

七、鐵鍋輸入制限令

十月九日輸入品種問題で越田代表が「フアン・ヘルデレン」教授ト會談シタ時、「へ」ヨリ遠カラス土人用黑色鑄鐵製「フライ」鍋ノ輸入制限令ヲ發布スル筈デアル、之ハ廉價ナ鐵鍋ノ蘭印輸入ヲ制限シ、以テ蘭印産業ヲ保護セネバナラヌ切迫セル事情ニ基クモノダト説明シタトノコトデアルガ、翌十日「ハルト」臨時首席ハ公文ニ添ヘテ法案及制定理由書ヲ送附シ、十七日ニ發令スル意嚮タト豫告シタ。

法案ノ内容ハ茲ニ之ヲ掲ケヌガ、例ニ依リ歐洲人商業組合四以上ノ加入者ニ對シテ八割五分ノ輸入取扱量ヲ保留シテ居ル、而シテ制定理由書ノ要領ハ、蘭印土人ノ消費スル鐵鍋ノ一部ハ蘭印小企業ノ製造ニ屬スモノデアルガ、近年外國輸入品トノ競争激シク、廉價ノ輸入品ハ國産品ヲ壓倒シツ、アル、輸入狀況ハ一九三二年個數三十九萬餘、價額一萬五千盾、一九三三年個數七十五萬、價額二十一萬二千盾、一九三四年八個月間ノ輸入ヲ年額ニ換算スレハ、個數九十八萬餘、價額三十萬七千盾トナル、故ニ産業保護ノ必要ヲ認メ暫行的ニ三個月間制限スルニ決シ、輸入許可數量ヲ六萬個ト定メタガ、之ハ蘭印生産豫想高ヲ超過スル消費量ニ均シキモノダト云フニアル。

前記ノ統計デ明カナ如ク本件鐵鍋ハ日蘭印貿易ノ全體カラ見レハ殆ント齒牙ニ掛ケルニ足ラス程度ノ商品デアルガ、之ヲ生産スル岐阜地方ノ小企業者カラ見レハ由々シキ打撃デアルニ相違ナイ、之ト同様ニ蘭印小企業保護ノ必要ガ實際アルノカモ知レヌ、然シ前記理由書記載ノ通り漸増ヲ辿リツ、アツタ輸入ヲ今迄其儘ニ

シテ置ケタノニ、會商テ委員會モ開カレ輸出入ニ關シ今ヤ將サニ討議カ核心ニ觸レントシツ、アル際、斯クノ如キ法令ヲ急イデ出サネバナラヌ理由ハ首肯シ兼ネル、聞ケバ蘭人經營ノ鐵鍋工場保護ノ目的ダトノコトダガ、夫ノ自由行動問題ヲ提起シテ嫌ガラセラシタ引續キトシテ、無用ノ小策ヲ試ミテ居ルモノト見ル方ガ或ハ寧ロ正鵠ヲ得テ居ルノデハアルマイカ。何レニセ右ノ豫告ニ接シタ我々ハ對策ヲ定メ、十月十一日左ノ電報ヲ廣田外相ニ送ツタ。

一、本問題ハ其實數ヨリ見レハ輕微ノ問題ニシテ、又之カ取扱邦商ハ二、三ノ輸入者ノ片手間ニ過キス、大部分ハ蘭商ノ手ニ依リテ輸入セラレ居ルモノナリ、從テ邦商ニ割當テラル比率ノ問題モ輕微ノ問題ナリ、然シ乍ラ主義ノ問題トシテハ本商品ハ我方ヨリ委員會ニ提出セル制限品種外ニ屬シ當然無制限自由競争ヲ主張スヘキモノニ屬ス、從テ第一ニ我方ノ輸入問題ニ關スル總括的提案ニ對シ何等ノ回答ヲ爲サスシテ之ヲ發布スルハ全然會商ノ精神ヲ無視シタル措置トシテ之ニ反對セサルヲ得ス、本十一日輸出委員會ノ劈頭越田ヨリ蘭代表ニ抗議スル手筈ナリ。

二、若シ蘭側カ前項ノ如キ意圖ニ非サル事ヲ陳辯シ、單ニ土人工業保護ノ緊急措置ナルヲ以テ之ヲ容認セシムルニ於テハ、既ニ我方ニ於テ和蘭本國及蘭印工業保護ノ爲メニハ公正妥當ナル保留ハ之ヲ認ムヘシト主張セル關係上、數量ノ制限ニハ反對セサル事トスヘキモ、重大ナル主義上ノ問題ハ制限令第二條ノ所謂輸入者ノ資格及割當ノ不合理極マル規定ニ存ス、然カモ先方ノ理由カ土人工業ノ保護ニ在リトセハ如斯規定ノ要ナク、此ノ際豫テ會商ニ於テ反對セル蘭商保護ノ規定ヲ斯カル切掛ケニ乘シテ實行

セントスルハ到底受諾出來難キニ付、本規定ノ削除ヲ主張セントス、但シ實際問題トシテ輸入制限ヲ行フ以上ハ何等カノ「ライセンズ」制ヲ執ラサルヲ得サルニ付第二條ヲ前年度即チ一九三三年輸入者ノ實績ニ比例シテ之カ輸入ヲ許可スヘシトノ簡單ナル規定ニ改ムヘキ事ヲ提議スル心組ナリ。

三、若シ右ニ對シテモ蘭側カ承認セサルニ於テハ、最後ノ手段トシテ第二條ノ規定ハ少クトモ會商ニ依リテ輸入割當問題解決スル迄ハ日本人ニハ之ヲ適用セストノ確實ナル保障ヲ取付クヘシ。

四、問題ノ實質的價值カ餘リニ輕微ナルニ付、本問題ノ經緯ノ爲會商ヲ停止又ハ決裂ニ導クハ慎重考慮ヲ要スル儀ニ付、最後ノ讓歩トシテ本令ハ會商ニ依リテ輸入問題全部カ解決セラルル迄ノ臨時過渡的規定ニシテ會商ノ結果ニ依リ變更セラルヘク、又何等會商ノ討議ヲ拘束スルモノニ非ストノ確實ナル保障ヲ取付クルモ一案カト存セラル、差當リ前記四項ノ順序方法ヲ以テ本件措置スル事適切ナルヤニ思考セラレ、不取敢本日ヨリ右ノ方針ニテ委員會ニ於テ先方ニ申入レ、必要ニ應ジテハ本使「ハルト」トモ懇談ヲ遂クル考ナリ。

右ニ基キ越田代表ハ「フアン・ヘルデレン」教授ト交渉ヲ重ネタガ、結局筆者ト「ハルト」臨時首席トノ間デ纏メルコト、ナリ、十月十六日左ノ如キ會談ヲシタ。

「ハ」ハ「フライバン」問題カ蘭印ニトリ非常ニ重要ナル所以ヲ縷述セル故、本使ハ自分モ書翰附屬ノ理由書ヲ讀ミ本令カ土人産業保護ノ目的ニ在ルヲ承知セルガ、右書翰受領ノ時期ガ甚タ不適當ナリシヲ遺憾トス、日本代表部ヨリ輸入制限ノ目標タルヘキ商品目ヲ十月九日ニ提出シ恰モ之ニ對スル回答トシテ右書翰

カ十日ニ發送セラレタルカ如キ觀ヲ呈シ甚タ面白カラスト云ヘルニ、「ハ」ハ如何ニモ發送ハ十日ナラシモ其準備ニハ數日ヲ要シ日本側提案前ニ着手シ居タルモノナリト辯明セリ、本使ハ何レニシテモ斯カル小問題ノ爲會商ノ空氣ヲ亂スハ甚タ好マシカラス、折角會商モ委員會ニテ討議中ナレハ會商終了迄發令ヲ延期スル方然ルヘシト云ヘルニ、「ハ」ハ土人工業保護ノ必要ヲ重ネテ強調セルニ付、本使ハ然ラハ第二條ノ如キ規定ヲ設クルハ基タ不徹底ナラスヤト云ヘルニ、「ハ」ハ「ライセンズ」ヲ與フル爲ニハ何等カ目標ヲ定メサルヘカラス、夫レカ爲斯クノ如キ規定ヲ設ケタルニ過キスト云ヘルニ付、本使ハ歐洲人商業組合ニ加入シ居ルコトヲ條件トシテ輸入權ニ差別ヲ立ツルカ如キハ世界ニ未タ其例ヲ見スト應酬セル處、「ハ」ハ然シ各國ハ各々其必要ト認ムル措置ヲ執リ得ヘク、例ヘハ日本ニテモ輸出組合ハ非常ニ勢力アル團體ナラスヤト云ヘルニ付、本使ハ之ハ全ク別問題ナリ、商業組合加入ノ有無ニヨリ極メテ人爲的且ツ不合理ナル區別ヲ設クルコトニ對シ日本代表部ハ常ニ異存ヲ唱ヘ今後モ亦之ヲ唱フヘシ、會テ「キヤムブリック」ニ付「ランネフト」氏ト會談ノ際「ランネフト」氏モ同法令ノ制度ハ好マシカラスト考ヘ居ル如キ印象ヲ余ニ與ヘタリ、尤モ之ハ「ランネフト」氏ヲシテ動キノトレサル様ニスル意思ニハ非スト云ヘルニ、「ハ」ハ「キヤムブリック」ノ制度ト今回ノ「フライバン」ノ割當制度トハ大イニ相達シ、今回ノハ「キヤムブリック」ノ如キ細カキ規定ニハ非スシテ單ニ四ノ組合ニ加入シ居ルヲ目標トスルノミニシテ現ニ日本ノ商社モ加入シ居レリト云ヘルニ付、本使ハ右ハ多分三井ヲ指サル、モノト思フガ、斯クノ如キ大商社ノ利益ニ於テ小輸入商カ不利益ヲ蒙ムルコトハ我々トシテ受諾シ難キ所ナルノミナラス、此制度ハ之ニヨリテ恣ニ今迄平

和且ツ幸福ニ輸入業ヲ營ミ居リタル者ノ既得權ヲ蹂躪侵害スルモノナルニ付到底之ヲ承諾スルヲ得ス、殊ニ自分ノ腦裡ニ残り居ル所ニヨレハ「キヤムブリック」ニ關スル法令發布後將來ヲ慮リ商業組合ニ加入ヲ申込ミタル處其日本人ハ拒絕セラレタル例アルノミナラス、多分「スマトラ」ナリシト思フカ同地商業組合ハ日本人ノ加入ヲ許サスト云ヘルニ、「ハ」ハ右ハ全ク初耳ナリ早速調査スヘシト答ヘタルカ、本使ハ更ニ今回ノ法令ニヨルモ十月一日現在四ノ組合ニ加入シ居ラサル者ハ優等權ヲ獲得シ得サルコト、ナリ、其後加入シタル者ニハ均霑出來ザルコト甚タ不都合ナラスヤト云ヘルニ、「ハ」ハ之ハ秩序維持ノ爲已ムヲ得サルコトナリト答フルト同時ニ、然ラハ如何ニセハ宜シキヤト問ヘルニ付、一番簡單ナルハ第二條第二號以下ヲ削除スルコトナリト云ヘルニ、之ハ到底出來難シト云ヘルニ付、然ラハ輸入組合云々ノ條件ヲトリテハ如何ト云ヘルニ、「ハ」ハ其代リニ比率ヲ書き入ル、コトハ其煩ニ絶ヘス、又日本ノミノ比率ヲ茲ニ記入スルニ於テハ他國ヨリ抗議ヲ受クヘシト云ヘルニ付、本使ハ然ラハ第二條第二項以下ヲ削リ「ライセンズ」ノ發給ニ關スル總テノ問題ハ本令施行細則ニヨリ規定セラルヘシトノ條項丈ヲ設ケ、施行細則ニ於テ日本ニ其要求スル比率ヲ與フレハ可ナラスヤト云ヘルニ、「ハ」ハ之モ一案ナルヘケレト斯克テハ經濟省長官ノ權限非常ニ擴大セラル、コト、ナルヘシト云ヘリ、此「リマートク」ヲ聞キ本使モ成ル程斯克ノ如キ自由裁量ヲ經濟省長官ニ與ヘテハ却テ後日迷惑ヲ蒙ルコトアルヘシト思ヒ「ハ」ニ對シ右ハ只單ニ本使ノ思付ノ儘述ヘタル迄ナルカ、既ニ法案モ出來居リ其一部ヲ變更スルコトモ非常ニ困難ナルヘキニ付、先程貴下ノ述ヘラレシ如ク現在ノ法案其儘ヲ發令スルトシテ、右法案ハ會商ニテ他ノ決定ニ達セル場合ニハ當

然變更セラルヘシトノ書翰中ニ、本令ニヨル日本商人ノ取り分ハ何「バーセント」ナリト云フコトヲ記入セラル、ナラハ、當方ニテハ日本人ニハ第二條ノ規定ハ適用ナキモノト解釋スヘク、又貴方ニテハ貴方ニ便宜ノ解釋ヲトリ得ヘク、此案カ最も都合ナラスヤト云ヘルニ、「ハ」ハ何レニセヨ本問題ハ圓滿解決ヲ希望スルニ付御申出ノ諸點ハ「ヘルデレン」ニ篤ト申置クヘク、同人ヨリ明日ニテモ越田代表ニ會見ヲ申入ルマコト、スヘシト云ヘリ、本使ハ右ニテ差支ナキカ本朝越田代表「ヘ」ト會談セル結果ヲ聞ケルニ頗ル不満足ナリシモノ、如キニ付、本使今日ノ話ハ徹底スル様取次置カレ度シ。而シテ法令ハ何時發布サル、豫定ナリヤト云ヘルニ、明日又ハ明後日ノ筈ナリト云ヘル故、本使ハ夫レハ非常ナコトナリ、日本ニトリ實益問題トシテハ極メテ輕微ナガラ、主義ノ問題トシテ非常ナル重要性ヲ有スルニ付、當方トノ妥協成立前ニ發令ヲ見ル様ノコトアレハ本使ハ即日當「バタヴキヤ」ヨリ退却スヘシ。本使トシテモ極メテ不本意乍ラ和蘭代表部トシテモ此ノ如キ問題ノ爲ニ會商決裂ノ事態ヲ生スルハ好マサルヘシト思フ。何カ故ニ四五日延期スルコト出來サルヤト云ヘルニ、「ハ」ハ發令シテモ其ノ後善後策ヲ講スレハ同一ニ非スヤト云ヘルニ付、本使ハ決シテ同一ニ非ス、此場合ニハ斷然タル處置ヲ執ルヲ餘儀ナクセラル、コト、豫メ御承知アリ度シト云ヘルニ、「ハ」ハ斯克ノ如キハ重大事ナリ、早速「ランネフト」ノ許ニ行キ決裁ヲ延ハシ貰フヘシ、「ラ」モ出來得ル限り圓滿ニ物ヲ取計ヒ度キ考ナレハ、自分ハ明日夕刻ヨリ金曜日迄旅行スルニ付少クモ土曜日迄發令セヌ様懇談スヘク、多分「ラ」モ之ヲ聽クコト、思考スト云ヒ、先ニ述ヘシ如ク然ラハ「ヘルデレン」ト相談ノ結果ハ越田代表ニ「ヘ」ヨリ御通知スヘシト繰返セルニ付、本使ハ其回答カ本

使ノ満足シ得ルモノナラハ右ニテ結構ナルカ、然ラサル場合ニハ更ニ貴下ト會談ノ必要ヲ感スヘシト述ヘ置ケリ。

其後越田代表ハ「ヘルデレン」教授ト前記ノ「ライン」デ更ニ折衝ヲ重ネタ。先方ハ此「ライン」ヲ承認シタガ、邦商ノ取扱量ニ付テハ十五「パーセント」ヲ固執シテ譲ラヌ、然シ實績ニ比シ「パーセント」二ノ差ニ過キヌカラ當方之ヲ諾シ、左記公文ヲ交換シタ。

以書翰啓上致候陳者本月十六日ノ對談ニ關シ本官ハ和蘭代表部ハ會商繼續中輸入業者ヲ集團ニ分類スル他ノ効果の制度採用ノ可能性發見セラルル場合ニハ右新制度モ亦近ク實施セラルベキ鑄鐵鍋輸入制限令ノ基礎トシテ使用セラルベキ旨ヲ約束スル事ニ異存ナキ旨ヲ閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候
終リニ本官ハ和蘭政府ハ鑄鐵鍋ノ輸入ニ於ケル日本人輸入業者ノ割前ヲ十五「パーセント」ニ決定スルノ意嚮アル旨ヲ閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬 具

千九百三十四年十月二十日「バタヴキヤ・セントルム」ニ於テ

和蘭國臨時首席代表 ジー・エツチ・シー・ハルト (署名)

「バタヴキヤ・セントルム」ニ於ケル

日本國首席代表「ドクトル」長 岡 春 一 閣下

以書翰啓上致候陳者本使ハ和蘭代表部ハ會商繼續中輸入業者ヲ集團ニ分類スル他ノ効果の制度採用ノ可能

性發見セラルル場合ニハ右新制度モ亦近ク實施セラルベキ鑄鐵鍋輸入制限令ノ基礎トシテ使用セラルベキ旨ヲ約束スル事ニ異存ナキ旨ヲ通告スル本月二十日附貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候、尙ホ貴下ハ和蘭政府ハ鑄鐵鍋ノ輸入ニ於ケル日本人輸入業者ノ割前ヲ十五「パーセント」ニ決定スルノ意嚮アル旨ヲ通告セラレ候

生ズルコトアルベキ一切ノ誤解ヲ避ケ且ツ日本代表部ノ見解ヲ再應明確ナラシムル爲、本使ハ當代代表部ニ於テハ斷トモ現行日本國和蘭國間通商條約ノ精神ヲ全然無視シ或歐洲人商業組合員ヲ特權的地位ニ置キ且ツ非組合員ヨリ其既得權ヲ剝奪セントスル一切ノ計畫ニ對シ斷然反對ナル旨ヲ敢テ陳述致候、仍テ當代表部ハ引續キ會商ニ於テ本問題ノ満足ナル解決ヲ求メントスルモノニ有之候

本使ハ又日本代表部ニ於テハ前記割前ハ本件制限令案第二條又ハ九月二十四日ノ委員會會合ニ於テ提議セラレタル輸入割當ノ分配ニ關スル和蘭側計畫ノ執レニモ何等關係ナキモノト思惟スル旨ヲ附言スルノ要有之候

本使ハ茲ニ貴下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬 具

千九百三十四年十月二十二日「バタヴキヤ・セントルム」ニ於テ

日本國首席代表 長 岡 春 一 (署名)

「バタヴキヤ・セントルム」ニ於ケル

和蘭國臨時首席代表「ジー・エツチ・シー・ハルト」殿

右ノ返翰ハ三好秘書ヲシテ先方ニ之ヲ届ケサセタガ、其時當方デハ此交換公文ヲ制限令公布ト同時ニ公表シタイ意嚮ダト附ケ加ヘサセタ處、「ハルト」臨時首席ハ翌日筆者ニ手紙ヲ送り公表ニ反對シテ來タカラ、強テ争フニモ及ハヌト考ヘ之ヲ諾シ、制限令ハ輸入許可數量六萬個ヲ十二萬五千疋ニ變更ノ上、十月二十五日公布サレタ。

第八章 委員會經過

委員會ノ開催

和蘭側カ一般委員會テ委員會ノ速急開催ヲ要求シ、筆者之ニ應シナカツタ經緯ハ第五章ニ既述ノ通りデアルガ、六月二十六日第一回ノ一般委員會ガ終ツタ後「ランネフト」代表ハ筆者ニ書翰ヲ送り左記ニ委員會ヲ設ケンコトヲ提議スルト同時ニ、海運問題ニ關スル特別委員會ノ設置モ亦必要デアルト附ケ加ヘタ。

一、貿易調節ニ關スル委員會

- (一) 貿易差ノ統計的究明
- (二) 蘭印輸出ノ増加ニ依リ貿易差ヲ調整スルコトノ可能性
- (三) 現在及將來ニ於ケル蘭印輸入ニ對スル日本ノ持分

二、制定セントスル輸入特許制及産業規則ニ關聯スル在蘭印日本人及商社ノ利益ヲ審議スル爲メノ委員會

- (一) 輸入特許制ノ適用
- (二) 産業規則ノ適用

以上ノ外「ラ」代表ノ手紙ニハ細カイ委員會ノ議事規則迄添附シテアツタガ、六月二十七日ノ一般委員會デ